

平成26年度一関市医療と介護の連携連絡会

日時：平成26年4月22日（火）

18:45～19:45

場所：一関保健センター 1階 栄養指導室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 報告

(1) 平成25年度事業報告について

資料No.1～5

(2) その他

4 協議事項等

(1) 平成26年度事業計画について

資料No.6～8

(2) その他

5 その他

6 閉 会

平成26年度一関市医療と介護の連携連絡会 出席者名簿

No.	所 属	職	氏 名	備 考
1	一般社団法人一関市医師会	会長	小野寺 威夫	
		顧問	長澤 茂	
		理事	谷藤 正人	
2	一関歯科医師会	会長	久保田 文吾	
3	一関薬剤師会	会長	小笠原 慈夫	
4	岩手県看護協会一関地区支部	支部長	佐藤 信一	
5	岩手県立磐井病院			欠席
6	岩手県立千厩病院	総看護師長	小田島 淳子	
7	一関市国民健康保険藤沢病院	診療部内科長	高木 史江	
8	岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター			欠席
9	一関在宅緩和支援ネットワーク	会長	佐藤 隆次	
10	一関西部地域居宅介護支援事業所協議会	副会長	氏家 健司	
11	一関東部地域居宅介護支援事業所協議会	理事	佐藤 義雄	
12	岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション			欠席
13	社会福祉法人一関市社会福祉協議会	会長	大澤 弘毅	
14	両磐ブロック高齢者福祉協議会			欠席
15	岩手県一関保健所	主任主査	宇部 一史	
16	県南広域振興局保健福祉環境部長寿社会課	課長	後藤 啓之	
17	一関地区広域行政組合事務局	事務局次長兼介護保険課長	尾形 秀治	
18	一関西部地域包括支援センター	所長	鈴木 淳	
19	一関東部地域包括支援センター	所長	鈴木 久仁子	
20	平泉町保健センター	所長	千葉 幸一	

事務局

No.	所 属	職	氏 名	備 考
1	一関市保健福祉部	部長	岩本 孝彦	
2	一関市保健福祉部健康づくり課	課長	三浦 しげ子	
3	〃	地域医療推進係長	木村 剛	
4	一関市保健福祉部社会福祉課	高齢福祉係長	吉田 健	
5	一関市保健福祉部健康づくり課	主任主事	千葉 健一	
6	〃	医療介護連携専門員	加藤 稔	

平成26年度 一関市医療と介護の連携連絡会座席表

	一関市医師会 顧問 長澤 茂	一関市医師会 会長 小野寺 威夫	
一関市医師会 理事 谷藤 正人			一関東部地域居宅介護支援事業所協議会 理事 佐藤 義雄
一関歯科医師会 会長 久保田 文吾			社会福祉法人一関市社会福祉協議会 会長 大澤 弘毅
一関薬剤師会 会長 小笠原 慈夫			岩手県一関保健所管理福祉課 主任主査 宇部 一史
岩手県看護協会一関地区 支部長 佐藤 信一			県南広域振興局保健福祉環境部長寿社会課 課長 後藤 啓之
岩手県立千厩病院 総看護師長 小田島 淳子			一関地区広域行政組合 事務局次長兼介護保険課長 尾形 秀治
一関市国民健康保険藤沢病院 内科長 高木 史江			一関西部地域包括支援センター 所長 鈴木 淳
一関在宅緩和支援ネットワーク 会長 佐藤 隆次			一関東部地域包括支援センター 所長 鈴木 久仁子
一関西部地域居宅介護支援事業所協議会 副会長 氏家 健司			平泉町保健センター 所長 千葉 幸一

社会福祉課 高齢福祉係長 吉田 健	健康づくり課 課長 三浦 しげ子	一関市保健福祉部 部長 岩本 孝彦	健康づくり課 地域医療推進係長 木村 剛
		健康づくり課 主任主事 千葉 健一	健康づくり課 医療介護連携専門員 加藤 稔

月 日	項 目	内 容
平成25年4月16日	一関市医療と介護の連携連絡会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 報告 平成24年度事業報告について 協議事項等 平成25年度事業計画について その他 その他 平成24年度一関市地域医療・介護等に関する意識調査結果報告について
平成25年4月19日	第1回一関市医療と介護の連携連絡会幹事会	一関保健センター 2階 集団指導室 で開催。 報告 平成25年度一関市医療と介護の連携連絡会結果について 協議事項等 第1回研修会について 一関市の地域医療・保健・福祉の連携体制(案)作成について 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～(仮称)について 次回幹事会の日程について その他 その他 訪問看護指示書勉強会について(磐井病院より)
平成25年6月3日	第1回一関市医療と介護の連携連絡会研修会パネリスト打ち合わせ会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 協議事項等 パネルディスカッションの進め方について その他
平成25年6月13日	第1回一関市医療と介護の連携連絡会研修会	一関市文化センター 2階 中ホール で開催。 講 演 一関地域の介護サービスの現状と課題 一関地区広域行政組合 事務局次長兼介護保険課長 昆野 雅志 氏 パネルディスカッション 在宅医療～それぞれの役割を考える～ パネリスト 在宅チーム医療人材育成地域リーダー 谷藤内科医院 院長 医師 谷藤 正人 氏 久保田歯科医院 歯科医師 久保田 文吾 氏 千厩訪問看護ステーション 看護師 藤野 みどり 氏 一関東部地域居宅介護事業所協議会 ケアマネジャー 畠山 あけみ 氏 一関市保健福祉部 次長兼健康づくり課長 藤野 裕 氏 司会 一関中央クリニック 院長 医師 長澤 茂 氏 参加者:医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業者、行政関係者など約305名
平成25年6月15日	医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」6月15日号 No.186 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 一関市医師会様
平成25年6月18日	第2回一関市医療と介護の連携連絡会幹事会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 報告 第1回研修会実施結果について 事業の進捗状況について 地域医療・地域介護等の資源調査 一関市の地域医療・保健・福祉の連携体制(案) 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 協議事項等 一関市医療と介護の連携連絡会開催要領の改正について 一関市医療と介護の連携連絡会幹事会幹事の追加について 第2回研修会について 先進地視察研修について 一関在宅緩和支援ネットワーク(IZAK)研修会の共催について その他 その他

平成25年度地域医療・介護連携推進事業及び関連事業一覧表

月 日	項 目	内 容
平成25年6月28日	地域医療対策会議	ベリーノホテル一関 で開催。 一関市の医療をめぐる課題に関する一関市医師会と市との協議の場として開催。 構成は、医師会役員、県立病院長、私立病院長、市長、教育長など。オブザーバーとして、一関保健所長出席。 内容：平成24年度地域医療関係事業実績について、一関市地域医療・介護等に関する意識調査結果について、平成25年度地域医療関係事業計画について、小児・成人夜間救急当番医制事業に関するアンケート調査について、平成25年度一関市東日本大震災被災者家庭訪問活動計画について
平成25年7月12日	歯科保健対策連絡会議	ホテルサンルート一関 で開催。 一関市の歯科保健をめぐる課題に関する一関歯科医師会と市との協議の場として開催。 構成は、歯科医師会役員、市長、教育長など。オブザーバーとして、一関保健福祉環境センター所長出席。 内容：平成24年度地域医療関係事業実績について、一関市地域医療・介護等に関する意識調査結果について、平成25年度地域医療関係事業計画について、歯科医師会からの質問・要望事項について、平成25年度一関市東日本大震災被災者家庭訪問活動計画について
平成25年7月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」7月15日号 No.188 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 一関歯科医師会様
平成25年7月30日	第2回一関市医療と介護 の連携連絡会研修会	岩手県立磐井病院 2階 多目的会議室 で開催。 グループワーク「医療を支える人々の情報共有を考える」 岩手県立磐井病院 院長 加藤 博孝 氏 参加者：医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者など約47名
平成25年8月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」8月15日号 No.190 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 一関薬剤師会様
平成25年8月21日	地域医療・介護連携先進 地視察研修	カシオペア地域医療福祉連携研究会の運営を行っている岩手県立二戸病院を視察。 研修内容 地域医療福祉連携室の業務内容について 二戸病院の概要について 地域医療福祉連携室の主な業務について 医療と介護の連携状況について その他 参加者：医療と介護の連携連絡会幹事 17名
平成25年8月27日	第3回一関市医療と介護 の連携連絡会幹事会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 報告 第2回研修会実施結果について 先進地視察研修実施結果について 事業の進捗状況について 協議事項等 第3回研修会について 次回幹事会の日程について その他 その他 地域医療支援病院について(磐井病院より)
平成25年9月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」9月15日号 No.192 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 岩手県看護協会一関地区支部様

平成25年度地域医療・介護連携推進事業及び関連事業一覧表

月 日	項 目	内 容
平成25年9月25日	第3回一関市医療と介護の連携連絡会研修会	一関市役所千厩支所 2階 大会議室 で開催。 グループワーク「施設や自宅での急変時について」 谷藤内科医院院長 谷藤 正人 氏 参加者:医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者など約56名
平成25年10月14日	“がん”を知るフォーラム in「いのちのせき2013」	一関文化センター 大ホール で開催。 講演 「在宅緩和ケアで朗らかに生きよう ～いのちの不思議さ～」 医療法人聖徳会 小笠原内科 院長 小笠原 文雄 氏 シンポジウム 「在宅緩和ケアを支える」 シンポジスト 一関病院 院長 佐藤 隆次 氏 千厩訪問看護ステーション 所長 藤野 みどり 氏 花泉町在宅介護支援センター寿光荘 管理者 佐々木 茂伸 氏 なのはなヘルパーステーション 所長 岩淵 宏子 氏 主 催 一関在宅緩和支援ネットワーク(IZAK) 共 催 一関市(一関市医療と介護の連携連絡会) 後 援 日本対がん協会他 参加者:地域住民、医療関係者、介護関係者、行政関係者など約220名
平成25年10月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報「いのちのせき」I-Style」10月15日号 No.194 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 岩手県立磐井病院様
平成25年10月29日	第4回一関市医療と介護の連携連絡会幹事会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 報告 第3回研修会実施結果について “がん”を知るフォーラムin「いのちのせき2013」について 第5回東北7県医療連携実務者協議会について 事業の進捗状況について 協議事項等 第4回研修会について 連携シート(仮称)について その他 平成25年度在宅医療介護連携コーディネート事業(仮称)に係る情報交換会について 次回幹事会の日程について
平成25年11月7日	平成25年度在宅医療介護連携コーディネート事業に係る情報交換会	岩手県庁 12階 特別会議室 で開催。 情報交換(各地の取組について) 盛岡・釜石・一関・陸前高田・北上の取組について情報交換が行われた。 一関は医療と介護の連携連絡会の取組を報告した。 参加者 24名
平成25年11月8日	平成25年度胆江医療圏医療と介護の連携研修会	江刺総合コミュニティセンター で開催。 「一関市における医療と介護の連携に係る取り組み」～顔の見える関係に向けて～ を発表。 参加者88名
平成25年11月9日	平成25年度岩手県地域医療研究会秋季大会	国保会館 大会議室 で開催。 「一関市における医療と介護の連携に係る取り組み」～顔の見える関係に向けて～ を発表。 参加者148名

平成25年度地域医療・介護連携推進事業及び関連事業一覧表

月 日	項 目	内 容
平成25年11月11日	第4回一関市医療と介護の連携連絡会研修会シンポジウム打ち合わせ会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 協議事項等 シンポジウムの進め方について その他
平成25年11月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」11月15日号 No.196 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 岩手県立千厩病院様
平成25年11月19日	一関保健所職場内研修	一関合同庁舎 2階 母子相談室 一関市における医療と介護の連携に係る取り組み ～ 顔の見える関係に向けて～ を発表。 参加者30名
平成25年12月7日	第4回一関市医療と介護の連携連絡会研修会	一関市役所 2階 大会議室 で開催。 シンポジウム 様々な介護施設の役割を考える ～医療と介護の連携のために～ シンポジスト 特別養護老人ホーム明生園 管理者 熊谷 茂 氏 介護老人保健施設やまゆり 相談員 伊藤 てるみ 氏 一関病院 病棟師長 佐藤 ふじ江 氏 認知症高齢者グループホームほっとスマイル 所長 吉田 良 氏 一関地区広域行政組合 介護保険課課長補佐 鈴木 浩一 氏 座 長 一関中央クリニック 院長 長澤 茂 氏 参加者：市民、医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者など約177名
平成25年12月9日	第1回連携シート(仮称)検討会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 協議事項等 連携シートについて その他 参加者29名
平成25年12月12日	第5回一関市医療と介護の連携連絡会幹事会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 報告 第4回研修会実施結果について 第1回連携シート(仮称)検討会について 事業一覧について 事業の進捗状況について 協議事項等 第5回研修会について 第6回研修会について その他 次回幹事会の日程について
平成25年12月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」12月15日号 No.198 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 一関市国民健康保険藤沢病院様
平成26年1月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」1月15日号 No.200 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター様

平成25年度地域医療・介護連携推進事業及び関連事業一覧表

月 日	項 目	内 容
平成26年2月8日	第5回一関市医療と介護の連携連絡会研修会	一関市役所花泉支所 4階 東大会議室 で開催。 グループワーク「在宅における服薬管理」 千厩調剤薬局管理薬剤師 飛沢 洋 氏 参加者:医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者など約53名
平成26年2月10日	連携シート(仮称)検討会打ち合わせ会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 協議事項等 連携シートについて その他 参加者9名
平成26年2月12日	医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～	「FMあすも」による 医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～ 放送 出演 一関市医療と介護の連携連絡会幹事長 長澤 茂 氏 再放送 2月16日
平成26年2月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」2月15日号 No.202 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 一関在宅緩和支援ネットワーク様
平成26年2月26日	医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～	「FMあすも」による 医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～ 放送 出演 一関市医師会副会長 中野 淳平 氏 再放送 3月2日
平成26年3月1日	第6回一関市医療と介護の連携連絡会研修会	東山地域交流センター 2階 大会議室 で開催。 グループワーク「在宅・施設での口腔ケアについて」 ～医療・介護従事者がどのように対応しなければならないか～ 久保田歯科医院医師 久保田 文吾 氏 参加者:医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者など約53名
平成26年3月12日	医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～	「FMあすも」による 医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～ 放送 出演 一関歯科医師会会長 久保田 文吾 氏 再放送 3月16日
平成25年3月13日	第6回一関市医療と介護の連携連絡会幹事会	一関保健センター 1階 栄養指導室 で開催。 報告 第5・6回研修会実施結果について 事業の進捗状況について 平成25年度事業報告について その他 協議事項等 平成26年度事業計画について 一関市医療と介護の連携連絡会幹事の推薦について その他
平成26年3月15日	医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～	広報いちのせき「I-Style」3月15日号 No.204 に 医療と介護の窓～みんなで守ろう地域医療～ 掲載 寄稿 一関東部地域居宅介護支援事業所協議会様
平成26年3月26日	医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～	「FMあすも」による 医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～ 放送 出演 一関薬剤師会会長 小笠原 慈夫 氏 再放送 3月30日

平成 25 年度第 1 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 25 年 6 月 13 日 (木)
18:30～20:30
 - (2) 場 所 一関文化センター 2階 中ホール
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業者、行政関係者等
 - (5) 参加者 305 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 25 年度 第 1 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時:平成 25 年 6 月 13 日 (木)

18:30～20:30

場所:一関文化センター

2階 中ホール

次 第

- 1 開 会 18:30
 - 2 挨 拶
 - 3 講 演 18:35～19:05
一関地域の介護サービスの現状と課題
講師 一関地区広域行政組合 事務局次長兼介護保険課長 昆野 雅志 氏
 - 4 パネルディスカッション 19:10～20:30
在宅医療～それぞれの役割を考える～
パネリスト 在宅チーム医療人材育成地域リーダー
谷藤内科医院 院長 医師 谷藤 正人 氏
久保田歯科医院 歯科医師 久保田 文吾 氏
千厩訪問看護ステーション 看護師 藤野 みどり 氏
一関東部地域居宅介護事業所協議会 ケアマネジャー 畠山 あけみ 氏
一関市保健福祉部 次長兼健康づくり課長 藤野 裕 氏
司会
一関中央クリニック 院長 医師 長澤 茂 氏
 - 5 閉 会 20:30
-

2 アンケートの集計結果

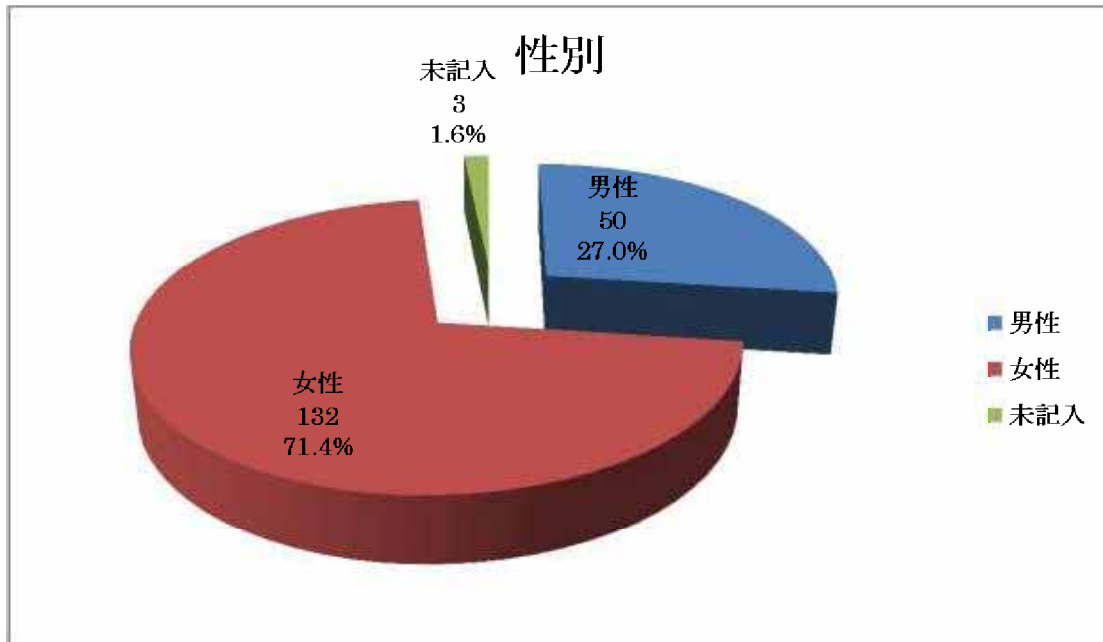
回答者数 185 人 (回収率 60.7%)

質問1 性別

男性 50 人 (27.0%)

女性 132 人 (71.4%)

未記入 3 人 (1.6%)



質問2 年齢

20歳代 15 人 (8.1%)

30歳代 41 人 (22.2%)

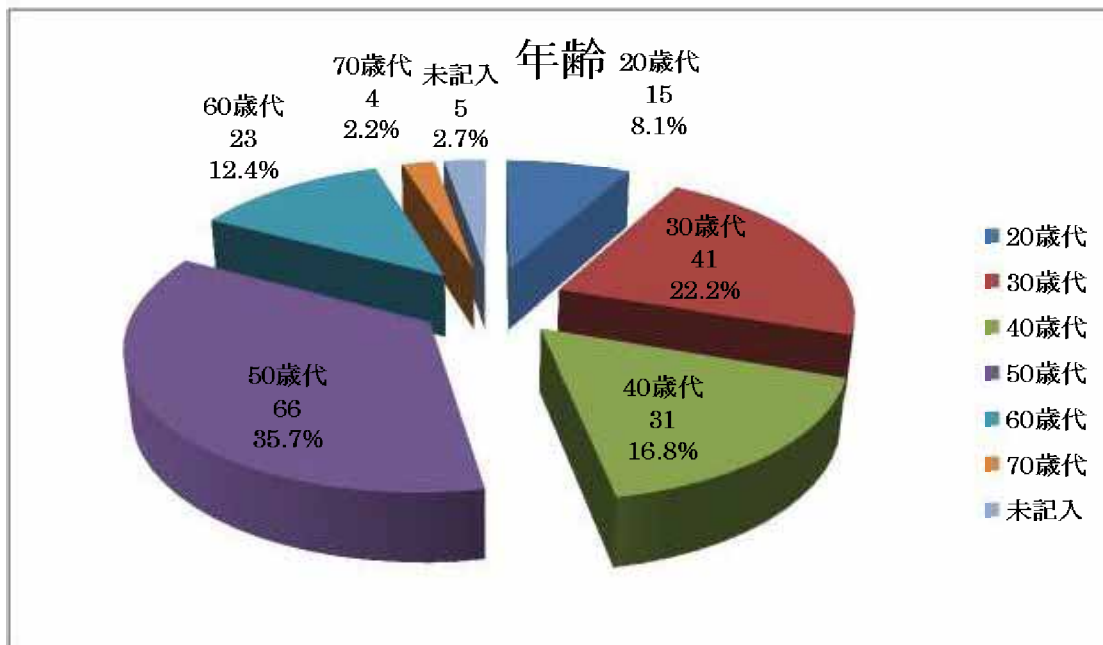
40歳代 31 人 (16.8%)

50歳代 66 人 (35.7%)

60歳代 23 人 (12.4%)

70歳代 4 人 (2.2%)

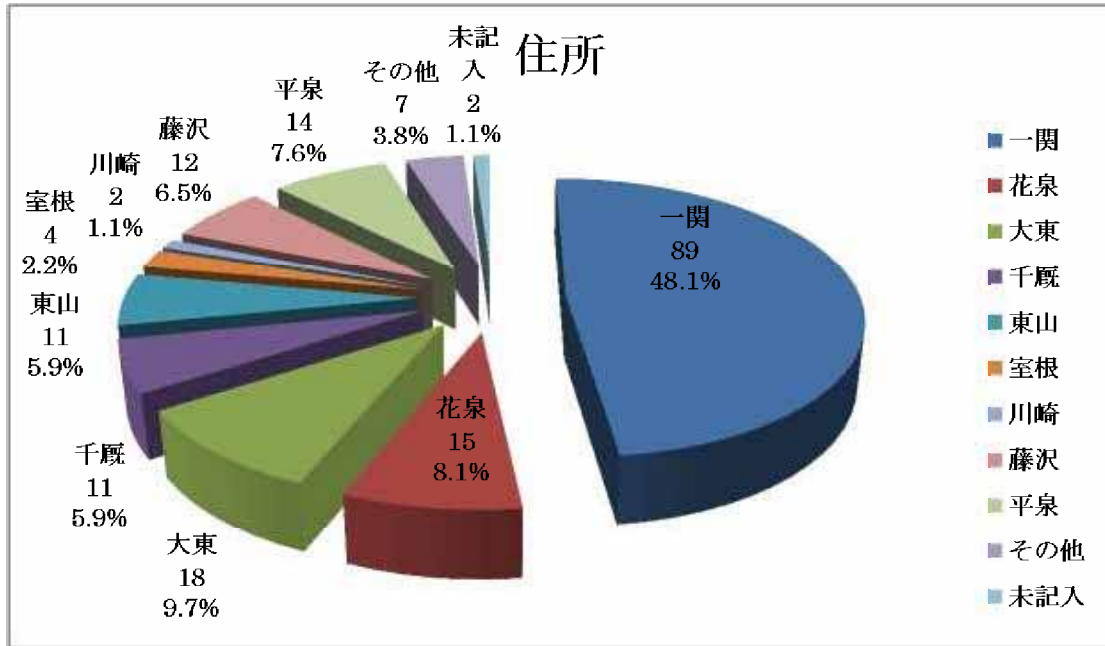
未記入 5 人 (2.7%)



質問3 住所

一関	89人 (48.1%)	花泉	15人 (8.1%)
大東	18人 (9.7%)	千厩	11人 (5.9%)
東山	11人 (5.9%)	室根	4人 (2.2%)
川崎	2人 (1.1%)	藤沢	12人 (6.5%)
平泉	14人 (7.6%)	その他	7人 (3.8%)
未記入	2人 (1.1%)		

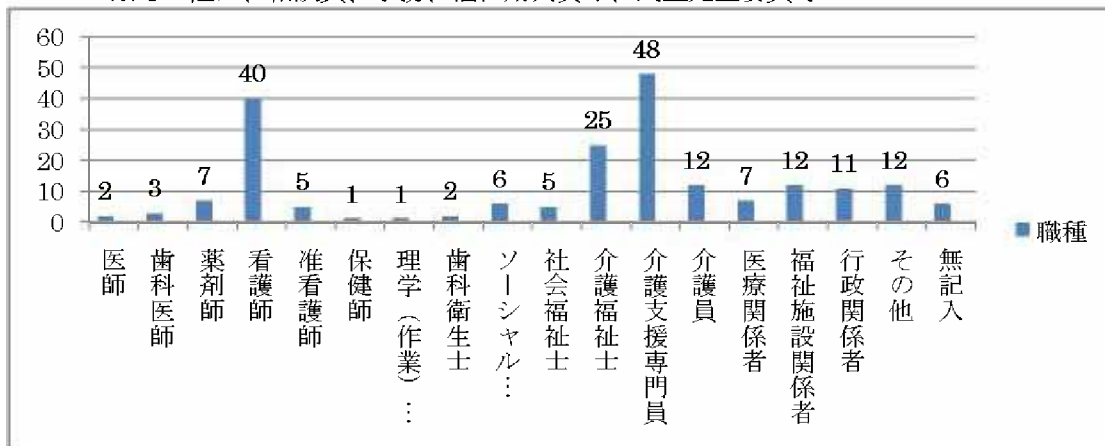
※その他は、盛岡、奥州、栗原等



質問4 職種

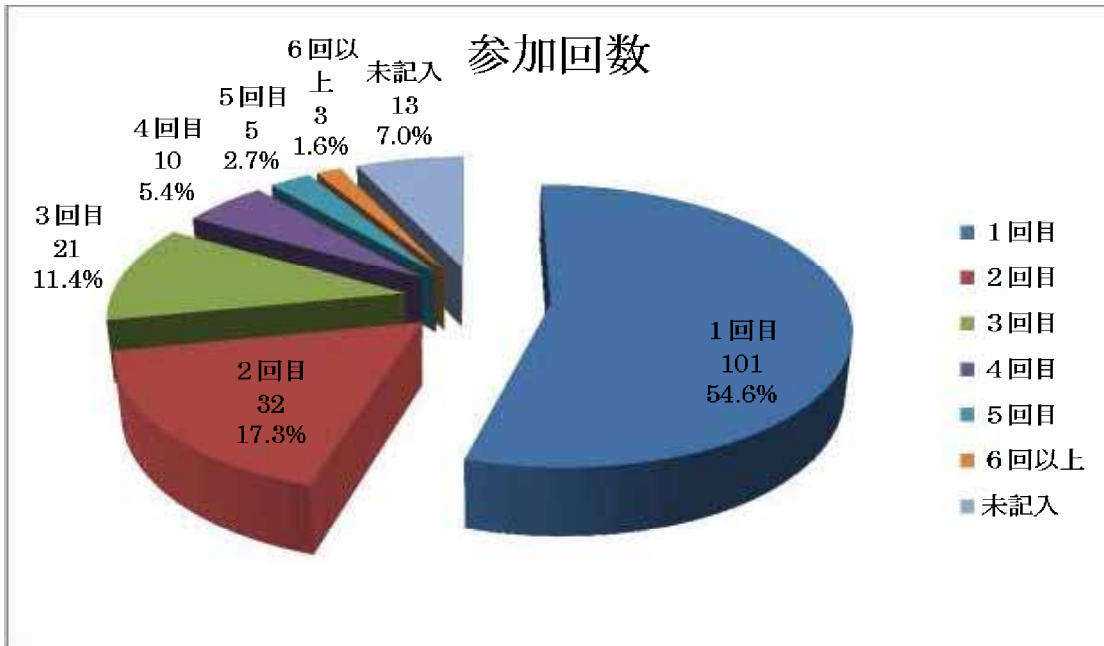
医師	2人 (1.0%)	歯科医師	3人 (1.5%)
薬剤師	7人 (3.4%)	看護師	40人 (19.5%)
准看護師	5人 (2.4%)	保健師	1人 (0.5%)
理学(作業)療法士	1人 (0.5%)	歯科衛生士	2人 (1.0%)
ソーシャルワーカー	6人 (2.9%)	社会福祉士	5人 (2.4%)
介護福祉士	25人 (12.2%)	介護支援専門員	48人 (23.4%)
介護員	12人 (5.9%)	医療関係者	7人 (3.4%)
福祉施設関係者	12人 (5.9%)	行政関係者	11人 (5.4%)
その他	12人 (5.9%)	無記入	6人 (2.9%)

※その他は、相談員、事務、福祉用具貸与、民生児童委員等



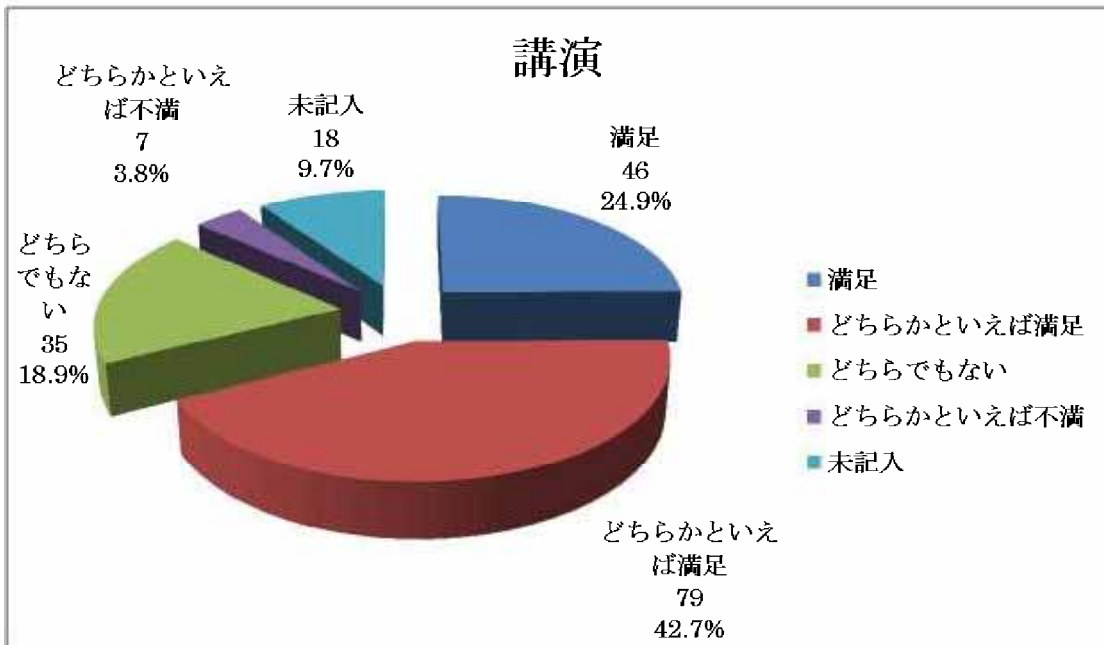
質問5 参加回数

1回目	101人 (54.6%)	2回目	32人 (17.3%)	3回目	21人 (11.4%)
4回目	10人 (5.4%)	5回目	5人 (2.7%)	6回以上	3人 (1.6%)
未記入	13人 (7.0%)				



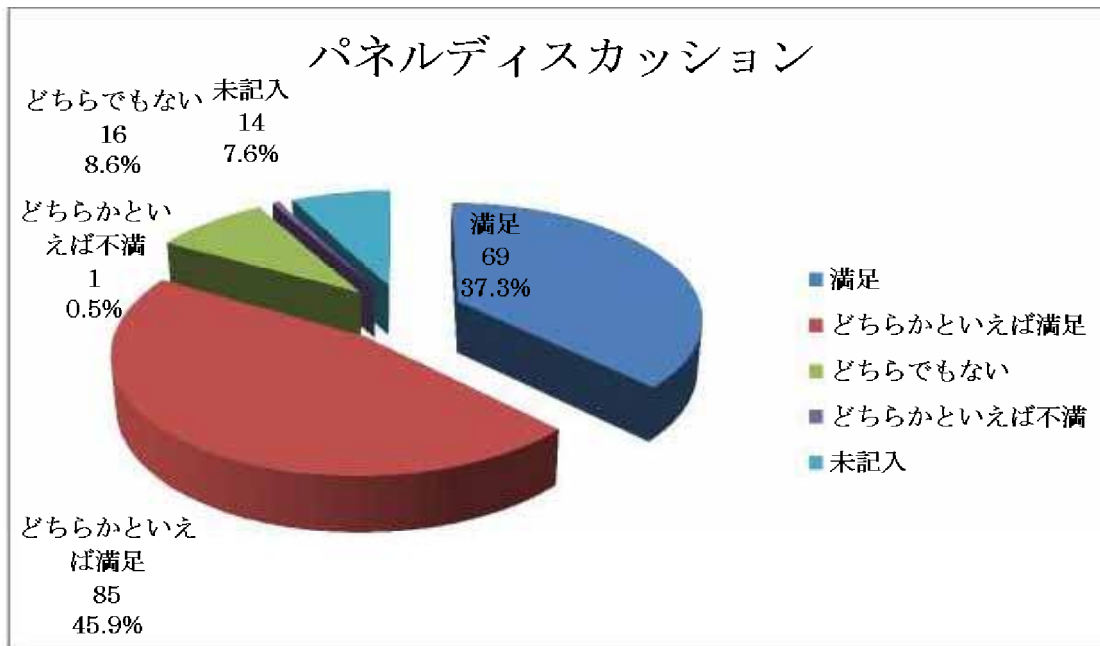
設問6 講演 について

満足	46人 (24.9%)	どちらかといえば満足	79人 (42.7%)
どちらでもない	35人 (18.9%)	どちらかといえば不満	7人 (3.8%)
未記入	18人 (9.7%)		



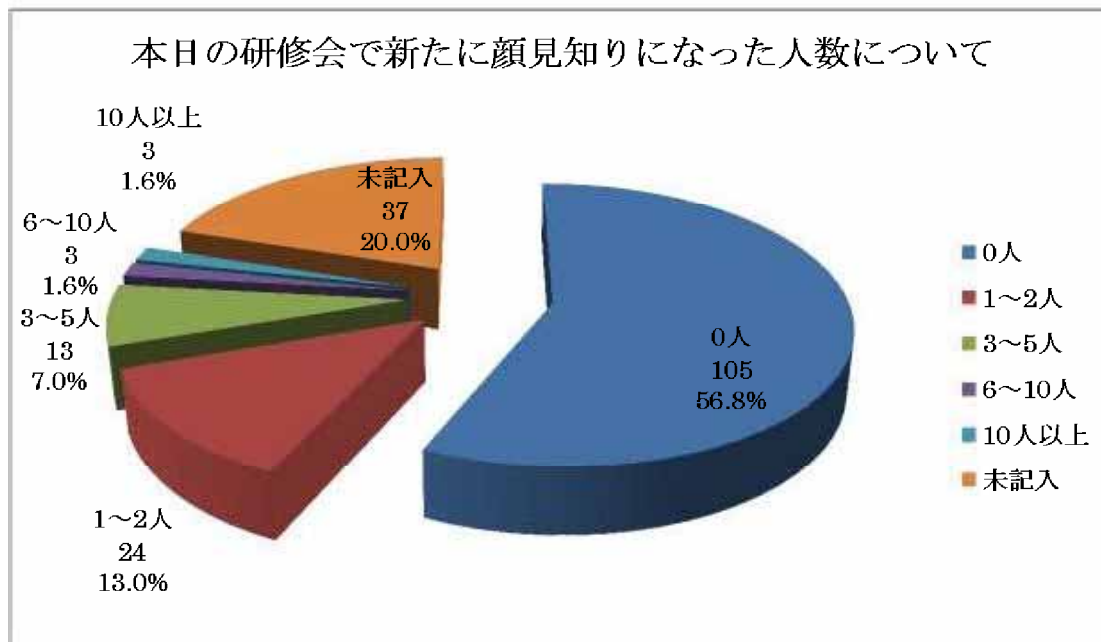
設問7 パネルディスカッションについて

満足	69人 (37.3%)	どちらかといえば満足	85人 (45.9%)
どちらでもない	16人 (8.6%)	どちらかといえば不満	1人 (0.5%)
未記入	14人 (7.6%)		



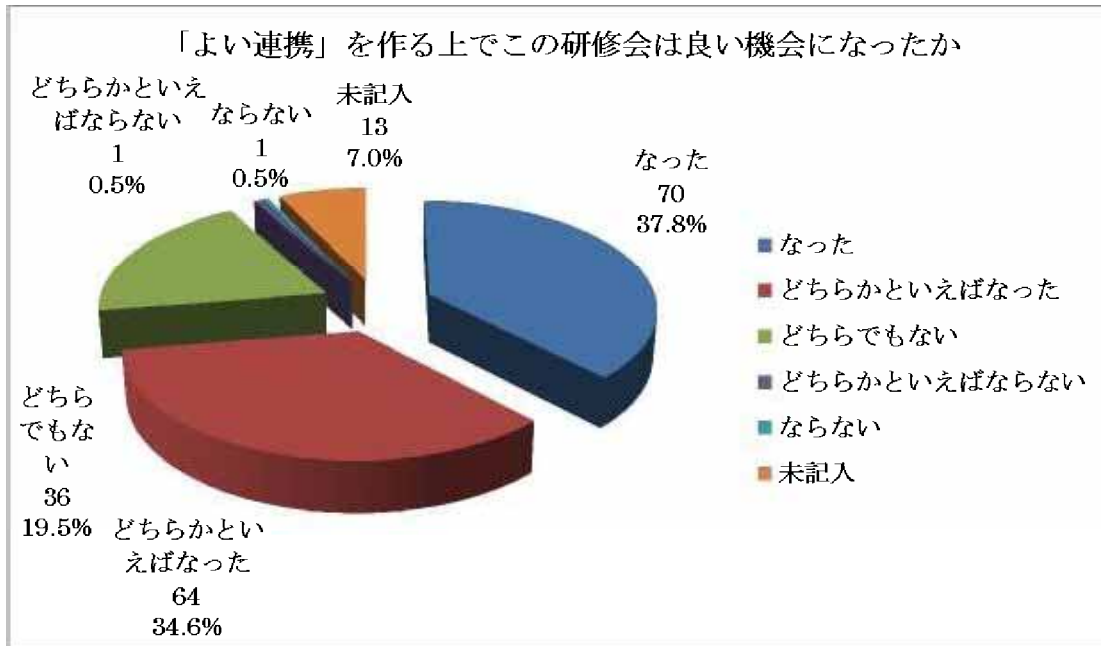
設問8 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

0人	105人 (56.8%)	1~2人	24人 (13.0%)
3~5人	13人 (7.0%)	6~10人	3人 (1.6%)
10人以上	3人 (1.6%)	未記入	37人 (20.0%)



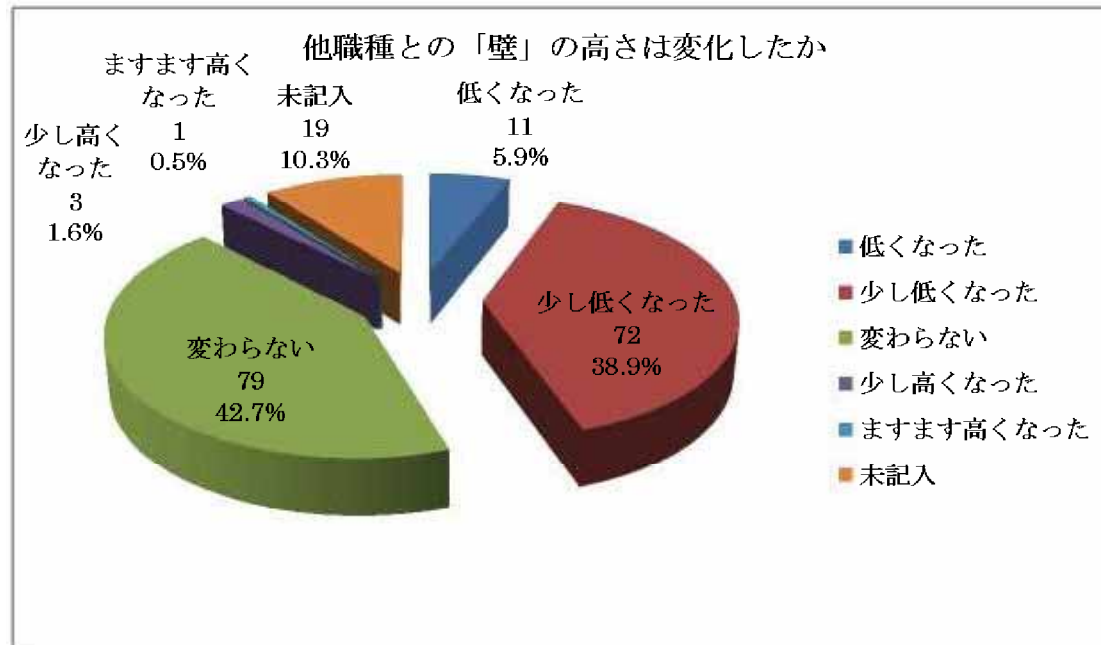
質問9 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	70人 (37.8%)	どちらかといえばなった	64人 (34.6%)
どちらでもない	36人 (19.5%)	どちらかといえばならない	1人 (0.5%)
ならない	1人 (0.5%)	未記入	13人 (7.0%)



質問10 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	11人 (5.9%)	少し低くなった	72人 (38.9%)
変わらない	79人 (42.7%)	少し高くなった	3人 (1.6%)
ますます高くなった	1人 (0.5%)	未記入	19人 (10.3%)



質問 11 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・顔のみえる関係づくりをすすめて。
- ・さらにフラットな会。小規模な会、忘年会、新年会など。お茶のみ会的な集まり。(face to face)

(歯科医師)

- ・顔の見える連携。
- ・難しいと思います。また他職種同士のワークショップ等を開き、まずは個々の垣根を取る事も大切では。話せる環境づくり。
- ・積極的な参加とディスカッション。

(薬剤師)

- ・多職種連携が大事。今年は実行して行きたい。
- ・なんといっても連携です。それぞれが忙しいらしく、連携をとるのは難しい。職種の理解は必要。
- ・顔の見える関係。他職種への理解。
- ・連携。
- ・メディカルケアマネの働きがとても重要。Dr とクランケと家族の繋がりをうまくやってもらうことが大いに役立つ。

(看護師)

- ・お互いを思いやることだと思います。
- ・仲立ちをとりもつ医療連携室の充実。医療職の方々に他の種類を理解して欲しい。
在宅で医療を受け続けるという事は、病院中で当たり前に行える様には流れない事をわかって欲しい。
- ・自宅での看取りに関して、開業医や大病院の先生の温度差があり、家族への説明にも差があります。
家族も色々です。本当に納得していいのだろうか？
- ・マンパワー、経済面。本人、家族を褒めること。
- ・多職種の連携の大切さを更に痛感した。
- ・在宅での介護や看取りには家族の協力は欠かせないと思いますが、なかなか受け入れ困難な家族が多いと思います。(社会的入院を経験しているせいかな？) 家族が理解してもらえよう、一般の方も参加できる研修を行い、現状を把握してもらいたいと思います。
絶対数がヘルパーさんと看護師では、看護師の方が少ない。今ヘルパーさんのスキルUPは必要だと思います。在宅での吸引など、医療行為だからと拒否する人が多いような気がします。
- ・相手の考えや視点を尊重しあうこと。情報の提示と共有化。
- ・病院→退院した時にフォローして下さる在宅かかりつけDrが訪問診療をして下さる。(安心感)
多くいらっしやるとDr・訪看がフォローして下さることが安心につながる。訪看は少ないかもしれません。
- ・情報交換、担当者会議、カンファレンス等、事例検討会で問題を共通理解出来る場を大切と考えます。
- ・各種担当のモチベーション。
- ・情報の共有。
- ・情報共有が大事だと思いました。
- ・訪問診療をしてくれる病院が増えると良いと思います。
- ・多職種の特性をよく知る事、往診できる診療所や病院を増やす。医療と介護の各々に携わる人数をなるべく同数に近づける事。(在宅において) 他施設間の話し合いができる場を多く持つ。
- ・やはり他職種の特性の理解、顔の見える関係づくり。
- ・今回は規模が大きかったが、少人数での意見交換会があると良い。今回は医療>介護から介護>医療となっていくので、医療機関側の積極的な参加を必要とすると思います。(Ns、スタッフが退院時居宅訪問を2例実施しましたが現状がよく理解できました。)

- ・他職種との勉強会を多くもち、顔なじみになり話をしやすく、他の仕事内容も少しずつ勉強していけたら。
- ・お互いに職種では、高い低いはない。お互いの仕事を認め尊敬しあい、協力しあうことが大切と思う。
- ・医師不足の問題解消、地域住民（一般人）の理解。

(准看護師)

- ・話し合い、研修への参加。
- ・情報交換。
- ・他職種の方々と密接な対応をとり、家族や本人が良かったと思えるようになっていければ良いのではないかな。
- ・多職種との連携が大事。
- ・在宅医療のシステム化。
- ・コミュニケーション不足。
- ・その人が見える状況や、しやすい相談が必要。

(理学（作業）療法士)

- ・自分の職業に求められること。現状と今後を理解すること。
- ・分担されていること。情報を適切にまとめられるスキルを持つておくこと。他職種の業務を理解すること。

(ソーシャルワーカー)

- ・月1回程度のカンファレンスを開く。医療と介護が平等に話し合い、ディスカッションができる場の設置。(少人数で)
- ・他職種が当職に対して何を求めているかを知ることから始まるのかな。
- ・MSWとして退院調整を行う上で、ご家族の壁を大きく感じます。患者さんご本人が自宅退院を希望していても、ご家族はそれを希望しない場合がほとんどです。ご家族の理解をどう得るかが課題だと感じます。
- ・情報交換、意見交換。(〇〇の場合の対応についての)

(社会福祉士)

- ・在宅医療の方向性が果たして、現状の医療・介護のシステムと一致しているのか疑問です。在宅医療をすすめるには、システム（現行制度）の大幅な改変が必要と思われます。
- ・顔の見える連携が大切だと感じている。
- ・互いの立場の理解、医療は敷居が高いという「言い分け」への自覚。(コンプレックス?)

(介護福祉士)

- ・私はケアマネです。勇気を持って、医療の門をたたくことと思っています。また、受診に同席させて頂き、(ご家族の了解の元)聞きたいことを伺う。
- ・病院にDrにつなぐ窓口をつくる。MSWがいる病院は退院後の生活がスムーズだと思う。
- ・中にケアマネが入り、その人にはどんなサービスが必要か考えてくれる、医師に言えない事も聞いてくれる事は助かる。
- ・お互いの職種の理解が必要。(内容、情報の共有、相談等)
- ・たくさん話し合うというコミュニケーション。
- ・利用者、家族との寄り添い。
- ・相手を受け入れる。
- ・パネラーのお話で互いの職種を理解する事が大事という意見、チームケアでスキルを高める事が大切という意見が心に残りました。
- ・テーマが医療と介護でしたが、介護ではなく看護トークだな。看護の、介護の必要性が大きい。利用者の思いが一番、その為に自分たちはどうあるべきか。

- ・顔の見える関係。私たちと暮らす医師が、在宅医療に対してどういった考えをもっているのかが知れることが必要だと思います。

(介護支援専門員)

- ・かかりつけ医の考え方、介護に対する知識はまちまち。
- ・顔の見える関係。
- ・お互いの立場を理解しようとする事。
- ・お互い壁を作らない事。
- ・互いの職種の専門性に対して尊敬の気持ちを持つ事。
- ・自らの専門性を高める努力をすること。
- ・他職種を理解し、認め、思いやりながら、連携を図ることが大切。
- ・お互いの職種の理解。
- ・顔をみる、みせる。
- ・在宅で看取りをするためには、訪問診療、往診をして下さるかかりつけ医がいないこと、そのために最期は訪問可能なDrにお願いするケースが殆ど。医師会の協力、普及活動が求められる。
- ・上下関係がある、情報の共有。
- ・訪問看護の方が、医師との調整役になってほしい。
- ・お互いの職種の理解、情報の共有、チームワーク、共通の研修会。
- ・お互いをよく知ること、尊重すること。
- ・医療関係者、福祉関係者が連携はもとより、地域住民にも分かり易い啓もう、啓発ができるような、座談会みたいなものを開催していくことが必要かと思っています。
- ・同じ目的を持った組織作りが必要。
- ・様々な連携方法の経験を通しての話も、これからも聞きたい。
- ・必要だと感じるので、ドクターに電話、FAX、往診の時間をねらって訪問するなどあらゆる手段で近づこうとしてきました。概ね成功。電話にはいつも、先生自ら出てくれます。往診の時、おじゃまします。と言えば「いいよ」と言ってくれます。垣根があると思うのは、作るからあるのです。
- ・施設で言えば「看取り加算」が算定できるような、きちんとした体制作りが重要。看取りのための個別の計画、医師を中心とした医療専門職の本人・家族への説明、家族へのこまめな連絡など。
- ・医師を中心としたチーム形成が必要だと思うので、ぜひ協力して頂きたい。

(介護員)

- ・おおいに連携が必要だと思います。介護に限界を感じる事がある。
- ・他の職種の役割や内容を理解する事。正確な状況把握と情報交換。同じ方向性を目指す事。
- ・お互いを知る。
- ・同じ気持ちを持って関わる人が増えていくこと。

(医療関係者)

- ・連携と浸透。
- ・共通の認識を持つ。
- ・多職種との連携。お互いの役割、専門性を知ること。
- ・連携とは言葉だけでなく皆それぞれの立場で思いもあり、職務の中で考えてはいるものの、現実問題として現場ではどうしても自分の都合が最優先されてしまう事が多く、お互いの理解不足も多く、見えない壁や上下関係(力関係)など、そんなに簡単な問題ではない。

(福祉施設関係者)

- ・今回のパネルディスカッションの内容は、当然だと考えますが、やはり手元の職員の確保と理解が必要です。また、安定した施設の運営です。
- ・お互いの職種を理解しようと努力することは大切だと思う。また、支援者が増えると、支援目標がぶれることがあるので、こまめな情報や経過の共有がとれるように、支援者間での良い関係が重要と思っている。

- ・対象者の理解、お互いの立場の理解、情報の共有。

(行政関係者)

- ・チーム。市町村、医師同士の連携負担軽減。
- ・ケアマネジャーと医療関係者（特に医師）が交流する場。酒の席等。研修の後の懇親会。
- ・連携システムが動くまで、まだ努力が必要と思うので流れができるまでは、行政に頑張ってもらいたい。
- ・チーム化。特に少ない資源だからこそ深い連携が必要。
「できるところから、みんながやりやすいように」することで、負担を減らしていければ。

(その他)

- ・他職種との壁をなくすべく、気さくに話しができる機会を多く持っていただくようにしてほしい。
- ・より良いものを目指していけば、(少しずつ)良くなると思う。
- ・カンファレンスや担当者会議等を通じての情報の共有や支援の方向性を明確化する。
- ・介護に従事する家族の安心感の醸成が大事だと思う。看取りをするまで、訪問医療他のフォローが万全であること。

質問 12 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい

(医師)

- ・多職種のパイプ役、機会の設置。

(歯科医師)

- ・在宅におけるケアについて。

(看護師)

- ・各地区での介護の研修をしてほしい。(例)介護保険制度について等。
- ・藤沢の様な病院が中心となって連携を行っている地区ではなく、西部の人口数や多種類の病院がある中での、協力的な病院だけではない地域での連携を考える機会を作ってほしい。
- ・薬局、薬関係について。
- ・今回のテーマでの研修を再度計画してほしい。
- ・震災の時に活躍した納官師の笠原留依子さんの講演はとっても感動しました。在宅での看取りの受け入れにも抵抗が少なくなるような気がします。(一般の方も)
- ・終末期を看取る家族の成長を助ける地域活動がほしい。
(早く死んでほしいという長男・次男の母親の介護を見た時に。)
- ・前方、後方支援病院の現状。在宅医療の連携をスムーズに行う為に。
- ・チーム盛岡の実績、実態。
- ・(連携ボックスの活用について)担当窓口から実務担当への流れ、病院から在宅への移行について。
- ・パネルディスカッションでもありましたが、ITを利用した連携ツールが開発されると良い。情報が双方向で発信できる関係ができる事を望みます。
- ・医療と介護の連携。今後も続けて幅広く考え、みんなにわかりやすい研修会にしてほしい。

(准看護師)

- ・60代～口腔ケア指導。(寝たきりにならない為に)
(衣川ケースは参考になります)行政として積極的に取り組んでほしいです。

(理学(作業)療法士)

- ・研修会→現場からの声を話せる。グループディスカッション方式かグループワークなど、積極的に他施設の方と話し、知り合いになれるような研修会。

(ソーシャルワーカー)

- ・医療者だけでなく、介護スタッフからの目線で在宅を教えてほしい。
- ・ブレインストーミングや演習等、他職種の立場からの意見交換の場。

(社会福祉士)

- ・在宅医療が医療と介護の連携の場なののでしょうか？現行制度での医療と介護の連携にまだまだ重点を置いてほしい。在宅医療を進めるのは時期尚早に感じました。在宅医療は結果的に医療も介護も疲弊（疲れさせて）しまう気がします。
- ・行政機関の対応の質の向上。特に、高齢者福祉、制度の普及、学習の機会。

(介護福祉士)

- ・看取りの事例（はじめ～最期まで）を詳しく知りたい。（在宅と施設）
- ・本日のテーマは医療職に重きを置いた内容でしたが、利用者（患者）と日常生活では介護職がより密接な関係にあると思うが、もう少し介護職の立場の意見が聞きたかった。介護職と医療職との係わりをテーマにして欲しい。

(介護支援専門員)

- ・医療関係者と介護関係者との交流会を開催し、直接話せる場を作ってほしい。
- ・医師会の先生との具体的な在宅医療を声を大きく、肯定的に世論として動かしてほしい。そのDrがいないと不安な家族は病院へ救急車で向かう。自然な死の尊さと関係者のみではなく、一般の人にも伝えることも指導（心がまえ）もやがて現代の死への考え方を世代間で考えられる。
- ・今後もこのような機会を作って欲しい。
- ・グループワーク（多職種）があっても良いかと思います。
- ・看取りについて。
- ・（在宅看取り・施設看取り・その他の場所の看取り）それぞれのもの。
- ・訪問診療と床ずれ。
- ・訪問リハビリの充実。
- ・施設での看取りをテーマに研修をお願いしたい。

(介護員)

- ・実技を交えた勉強会。

(医療関係者)

- ・関わる対象者・同じレベルへの研修回数を多く。
- ・緩和ケアコーディネーター養成講座。
- ・緩和ケアボランティア養成講座。
- ・訪問歯科診療の流れをより詳しく聞いてみたいです。

(福祉施設関係者)

- ・データでの施設確保でなく、現場を見て心の問題を見極めて安全な、質の高い施設作りに協力して行ってほしい。
- ・医療関係と介護関係の議題も大変、重要ではあるが在宅介護者（子供達など将来も含める）に関する福祉・教育を積極的にやって欲しい。医療や介護に関わる人が少ない。専門職よりも家族（一般の方）に今の現状を理解してもらいたい。いずれ皆老人になる。皆介護を受ける人、介護をする人にいつなるかわからない。
- ・「看取り」は1回では足りない。当分「看取り」テーマをお願いします。

(その他)

- ・医師・訪問看護師の負担の軽減策を考え、手をうって欲しい。

自由記載欄

(看護師)

- ・現在、病院で働いていますが認知症で食欲が低下した方に歯科治療が必要となる事があります。施設では、協力歯科医の方がいらっしゃると思いますが、病院でも（歯科のない）回復推進のために、何か手段があれば教えていただきたいです。佐藤隆次先生も話されていましたが、日本では人の命とか死に関する道德教育が希薄になってきていると考えます。基盤がない上、マスコミの報道により、医療や社会制度に家族が振り回されたり、悪意を持たれるケースも皆無ではありません。生きてい中で主たる宗教（アメリカにおけるキリスト教等）もなく、話し合う場だけが家族、本人を救えるのだと考えます。チームと言ったときに、ヒエラルキーなく協力し合うこと、時には徳のある方（例えば僧侶の方のお話など）が聞けるなど色々な人の助けが必要なのだ実感します。あとはどうしてもマネジメントをする方、コーディネーターの存在は絶対不可欠なのだと考えます。地域での育成が必要と思います。
- ・かかりつけ医の説明が大切と思う。しっかり活かすことで不安が軽減して在宅での看取りを受け入れられると思う。しかし家族が子供1人では、その環境で介護・看取りは出来ないのもそれぞれの条件で在宅看取りは困難であり、介護限度額不足で在宅では看取りできないこともある。限度額も考えてほしい。

(保健師)

- ・365日24h拘束され続ける支援者は、医療・介護利用者すべての方々に存していると思います。その理解を誰に求め続けるのか、一生懸命共感し、その苦勞をわかち合うことも大切だと思う。今後の研修も期待したいです。
 - ◎地域ケア会議について広く知りたい。
 - ◎まったく身寄りのない対象者（一人暮らしの方）への支援について。
- ・職務連携というけれど、お互いの役割を理解し合うことは大変なことだと思います。報・連・相のマネジメントですね。

(介護福祉士)

- ・現在、胃ろうで吸引が必要な方（男性）を担当しています。妻が介護していますが夜間も吸引が必要です。訪問介護を毎日利用していますが単位が足りず、また訪問者の数（ナースの数が少ない）、対応してくれるデイサービスが少ないです。ショートも足りません。在宅で介護することは非常に良いことですが、資源が足りません。他職種連携がとれても資源や使用できるお金（費用）が足りなければ在宅の意味がありません。多種多様なサービスを選べる体勢や介護している家族への手当の支給（介4・5だけではなく介護されている方へ金額を高くして欲しい）を考えて欲しいです。妻が介護疲れにあり、ショートの希望がありました。幸いにもレスパイトでかかりつけ医のHPで1週間お願いできました。介護されている方への支援も在宅介護には必要です。市のホームページが見つかりません。（検索しにくい）誰でもわかるものにして下さい。前よりもずっと医療と介護の連携はとれていると思いますよ。ただし参加していない病院とは難しいのかな…？
- ・看取り介護は“医”を捨てて利用者に向き合わなければ。

(介護支援専門員)

- ・訪問診療にかかる利用者負担など、分かり易ければ良いのに。
- ・高齢者の自然死について最期は、静かに苦しまずに旅立つことができるようにする事が必要。

(行政関係者)

- ・進行の長澤先生の解説が分かりやすかった。

(その他)

- ・学習のために参加した。

平成 25 年度第 2 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 25 年 7 月 30 日 (火)
18:30～20:30
 - (2) 場 所 岩手県立磐井病院 2階 多目的会議室
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業者、行政関係者等
 - (5) 参加者 47 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 25 年度 第 2 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成 25 年 7 月 30 日 (火)

18:30～20:30

場所：岩手県立磐井病院
2階 多目的会議室

次 第

1 開 会 18:30

2 挨 拶

3 グループワーク 18:35～20:30

テーマ「医療を支える人々の情報共有を考える」

グループワーク (KJ 法) 説明 岩手県立磐井病院 院長 加藤 博孝

グループワーク作業

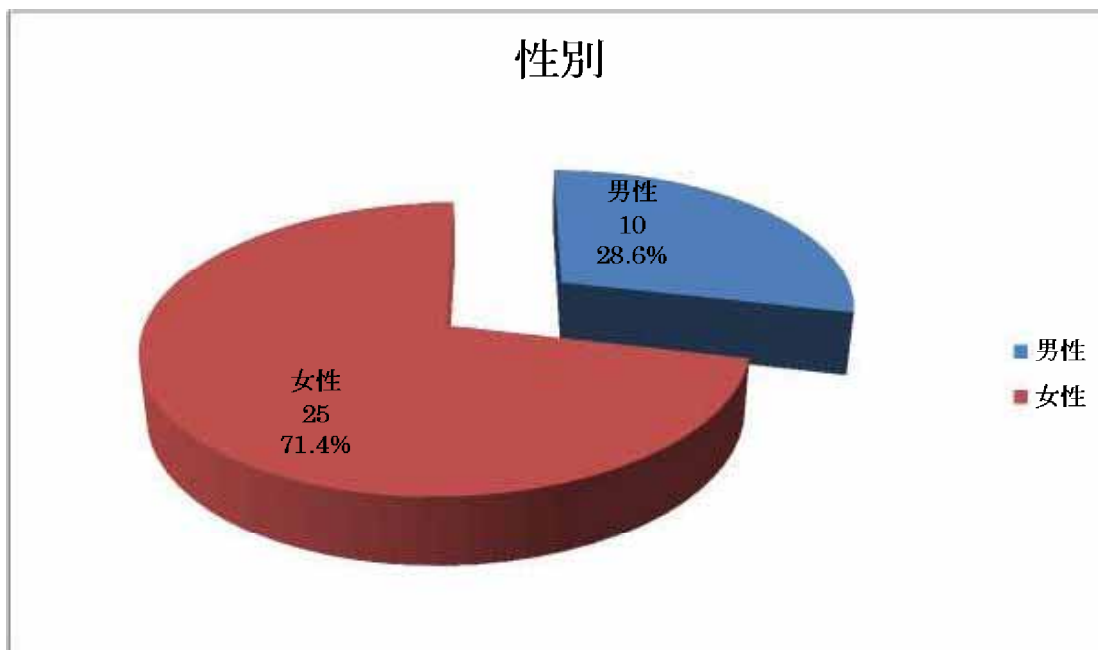
プレゼンテーション、討議

4 閉 会 20:30

2 アンケートの集計結果
回答者数 35人 (回収率 74.4%)

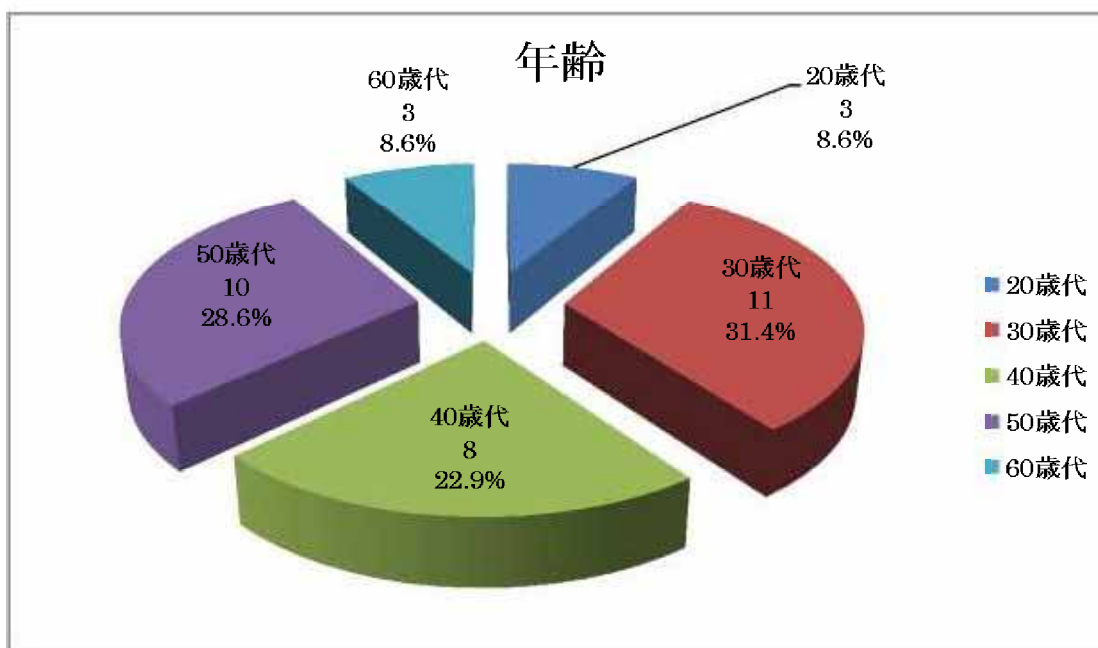
質問1 性別

男性 10人 (28.6%)
女性 25人 (71.4%)



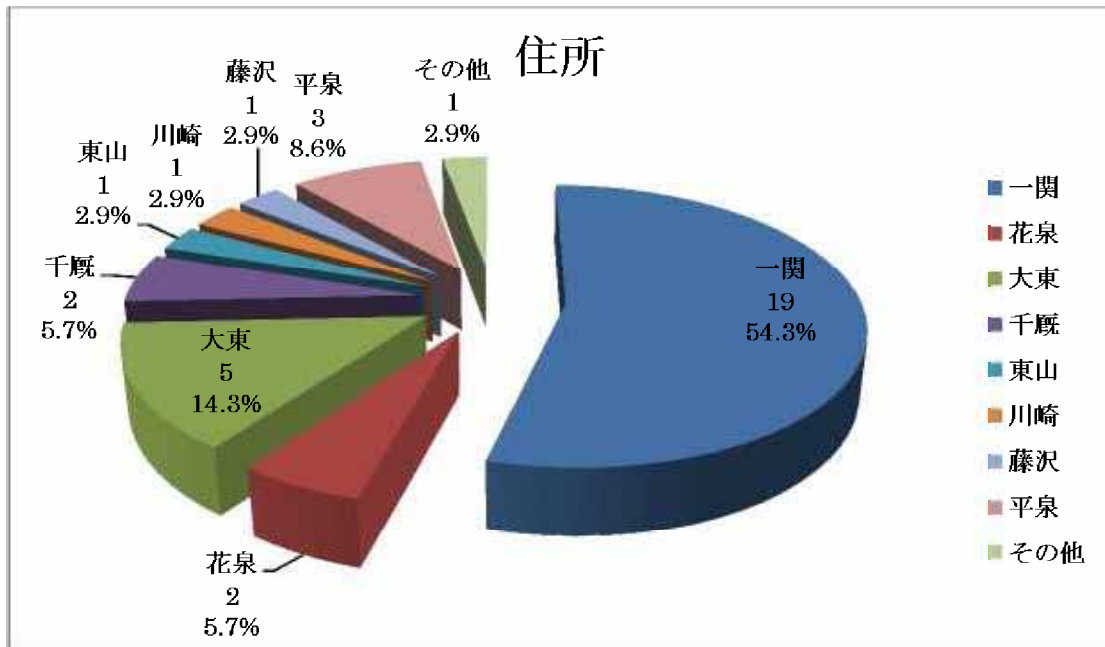
質問2 年齢

20歳代	3人 (8.6%)	30歳代	11人 (31.4%)
40歳代	8人 (22.9%)	50歳代	10人 (28.6%)
60歳代	3人 (8.6%)		



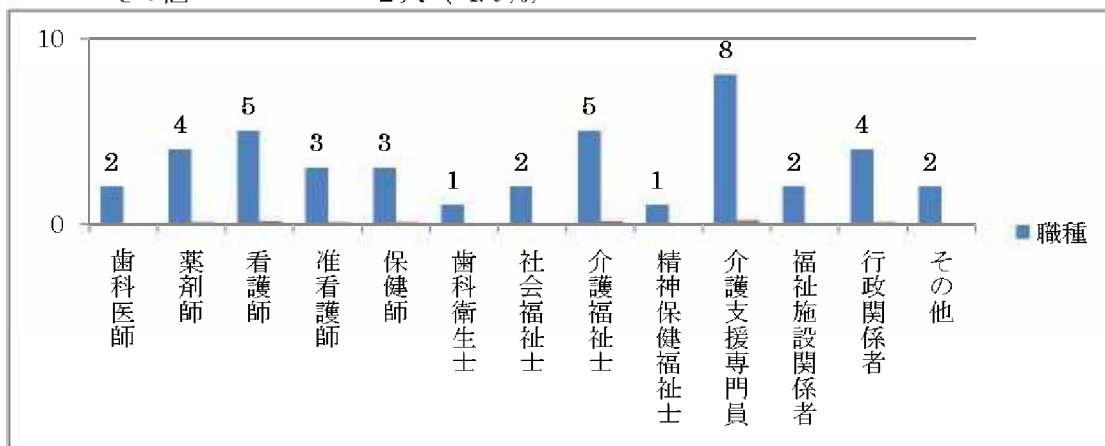
質問3 住所

一関	19人 (54.3%)	花泉	2人 (5.7%)
大東	5人 (14.3%)	千厩	2人 (5.7%)
東山	1人 (2.9%)	川崎	1人 (2.9%)
藤沢	1人 (2.9%)	平泉	3人 (8.6%)
その他	1人 (2.9%)		



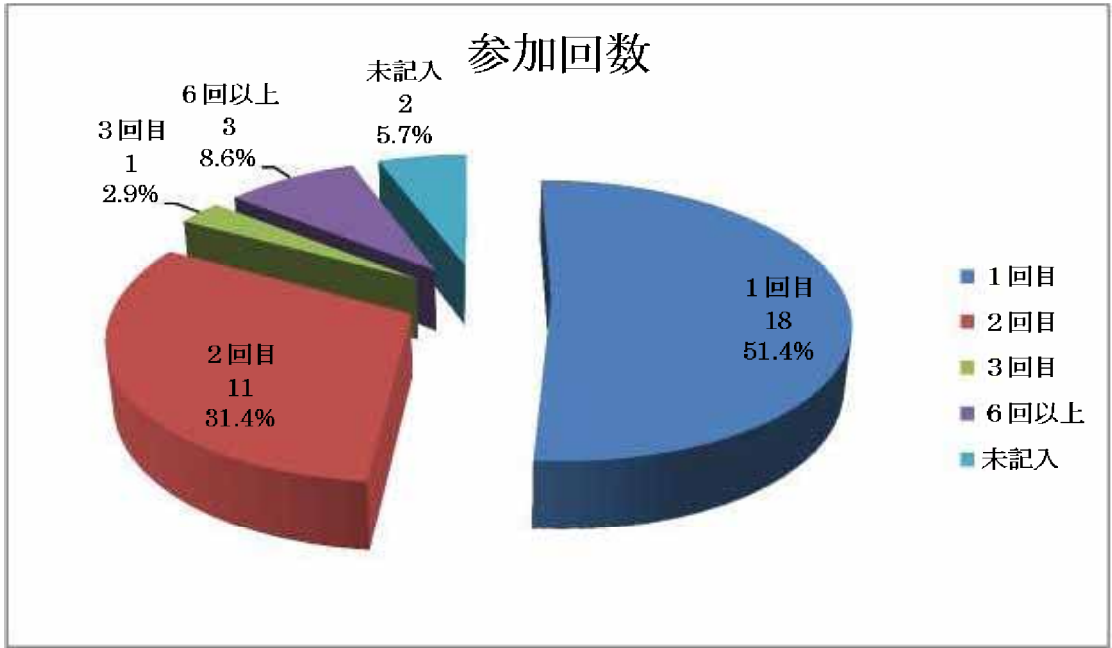
質問4 職種

歯科医師	2人 (4.8%)	薬剤師	4人 (9.5%)
看護師	5人 (11.9%)	准看護師	3人 (7.1%)
保健師	3人 (7.1%)	歯科衛生士	1人 (2.4%)
社会福祉士	2人 (4.8%)	介護福祉士	5人 (11.9%)
精神保健福祉士	1人 (2.4%)	介護支援専門員	8人 (19.0%)
福祉施設関係者	2人 (4.8%)	行政関係者	4人 (9.5%)
その他	2人 (4.8%)		



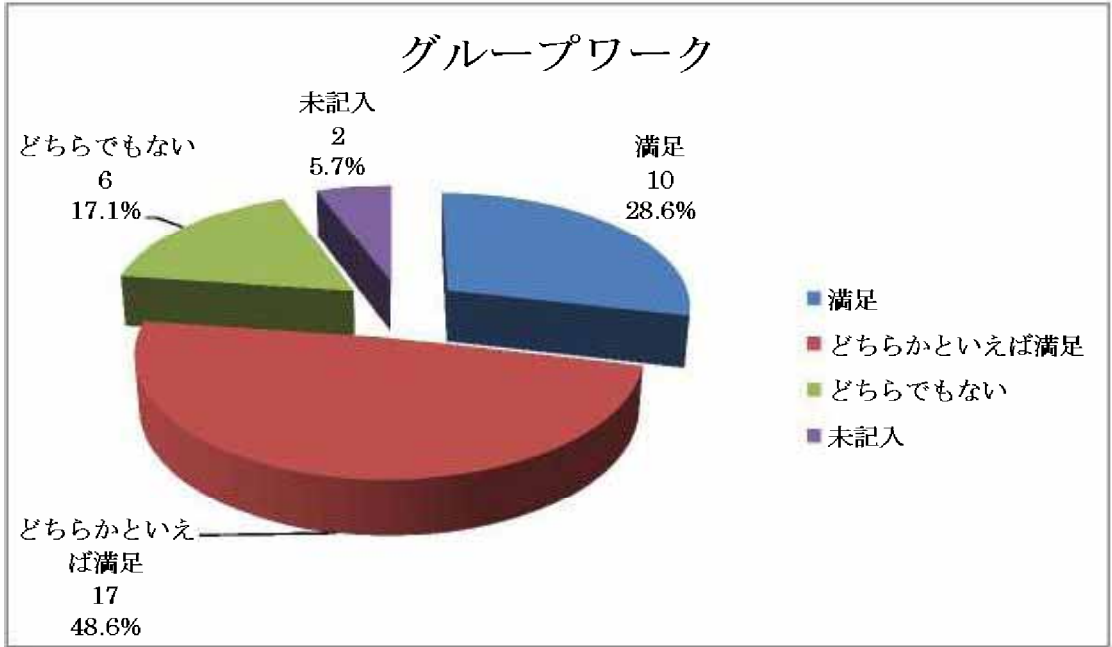
質問5 参加回数

1回目	18人 (51.4%)	2回目	11人 (31.4%)	3回目	1人 (2.9%)
6回以上	3人 (8.6%)	未記入	2人 (5.7%)		



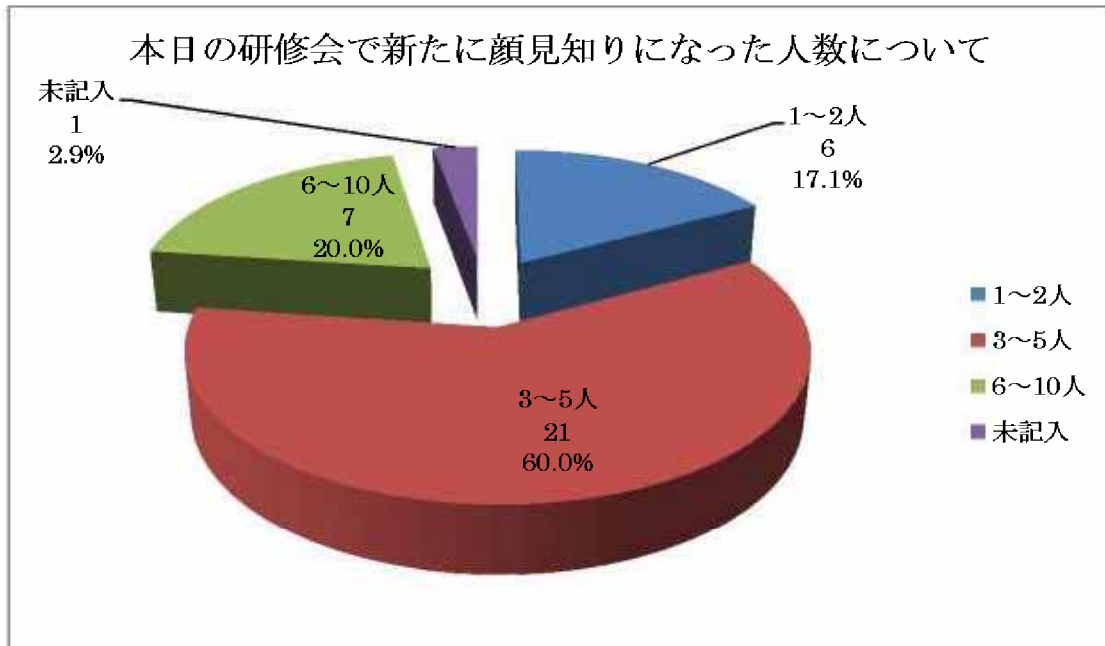
質問6 グループワークについて

満足	10人 (28.6%)	どちらかといえば満足	17人 (48.6%)
どちらでもない	6人 (17.1%)	未記入	2人 (5.7%)



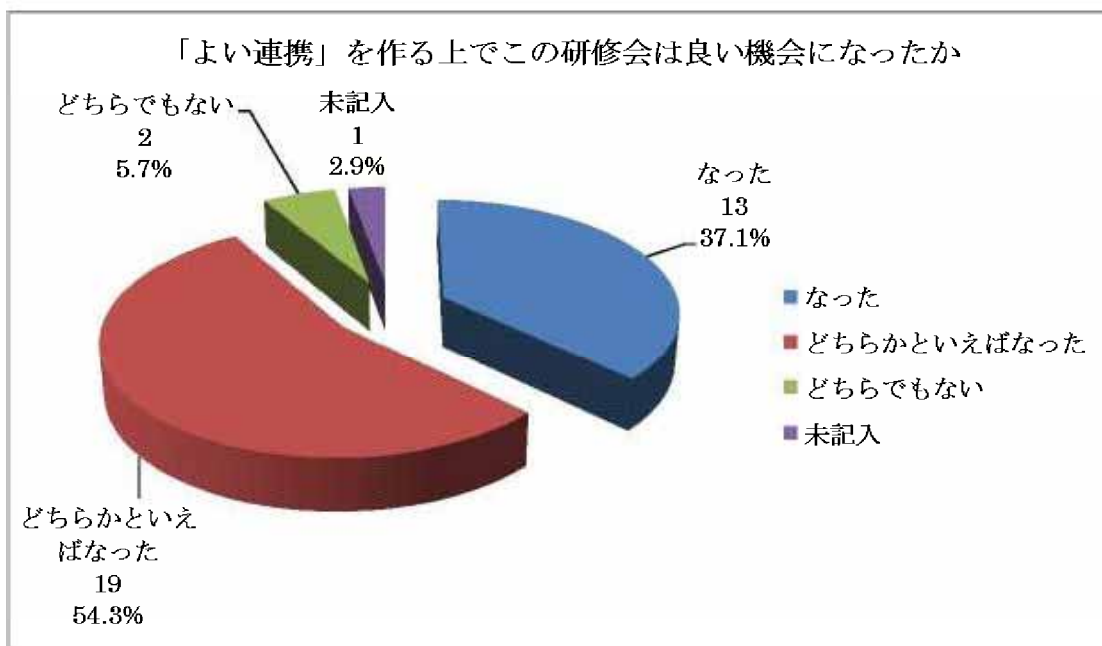
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

1～2人	6人 (17.1%)	3～5人	21人 (60.0%)
6～10人	7人 (20.0%)	未記入	1人 (2.9%)



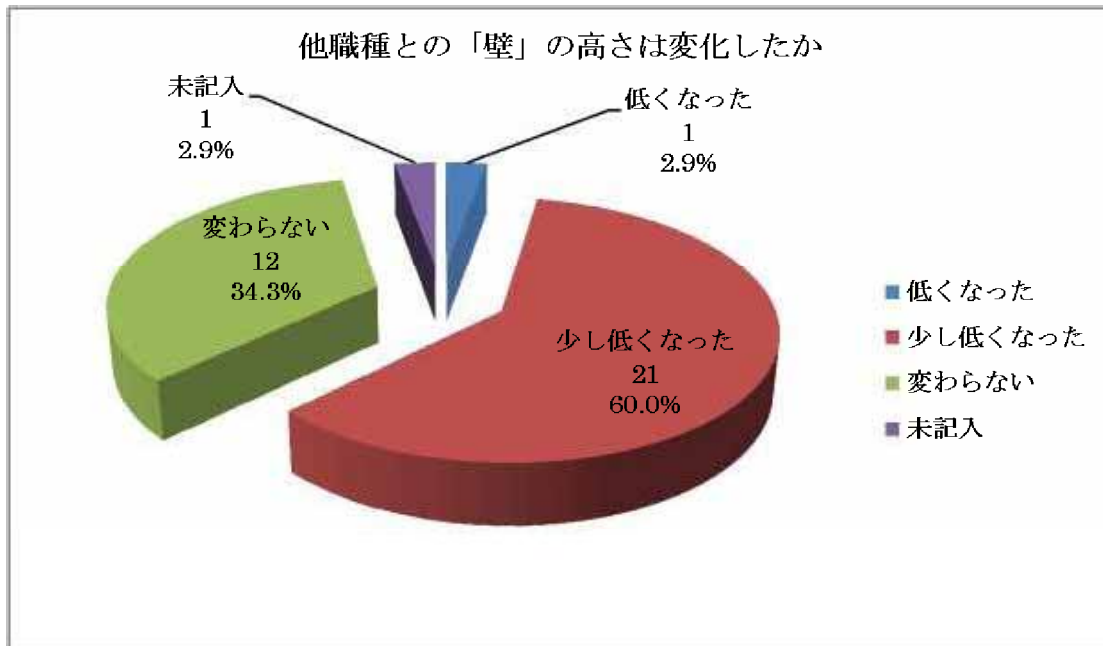
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	13人 (37.1%)	どちらかといえばなった	19人 (54.3%)
どちらでもない	2人 (5.7%)	未記入	1人 (2.9%)



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	1人 (2.9%)	少し低くなった	21人 (60.0%)
変わらない	12人 (34.3%)	未記入	1人 (2.9%)



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(歯科医師)

- ・お互いの業務について、もっとよく知ること。自分もいかに他職種について無知か痛感しました。
- ・垣根を低くすること。

(薬剤師)

- ・相互理解の場を増やすことと、共通の情報共有ツール。
- ・お互いの業務の理解。
- ・連携が大事。これから期待し頑張りましょう。

(保健師)

- ・情報共有、お互いの職種の理解。

(看護師)

- ・同一テーマ設定による話し合い (今日のGWはとてもよいと思います)。
- ・介護者にも医療の知識が必要だと思う。
- ・現実、実際の関わりで協力し合うことで連携、問題を一緒に考え対処し合う。
- ・利用者側のキーパーソンをはっきりさせて、利用を取り巻く各サービス事業者間の情報ツールがあるといい。各専門職の理解が必要となる。

(准看護師)

- ・情報共有。
- ・情報であり、共有出来ることでディサービスであり訪問入浴が出来るのであり、問題、注意点がほしい。
- ・退院サマリーの情報が多く、対応が難しく、Drと連絡・相談するためのアポが取りにくいという意見がありました。

(歯科衛生士)

- ・他職種の理解（どんな仕事、内容）どのように連携をとればいいのかわからない。

(介護福祉士)

- ・情報の共有。
- ・色々なサービスを利用する。
- ・家族と本人の気持ちが大変。
- ・小さな町の医師不足。
- ・話すこと。
- ・顔が見える関係。
- ・グループワークなど
- ・グループワークなど共通のテーマで話し合い理解を深めることだと感じた。今日は、薬剤師の方も、歯科助手の方も、ご利用者がどのような介護サービスを使っているのか、そのサービスの中で、薬をきちんと服用しているのか取り扱っているのか口腔ケアをしているのか知る手段がなかったとの事で、そのようなことを知りたがっているとわかりました。ただ個人情報との関係がありどこまでどれだけの情報を提示できるかの不安が残った。

(介護支援専門員)

- ・先生へご意見等をお聞きするためのアポイントが取りにくいので、退院時に病院から担当者会議を開いてほしい。
- ・最近、介護側が勝手に壁を作っているのでは？と感じることがある。

(福祉施設関係者)

- ・顔を合わせる事からが第一。
- ・情報交換の場作り。

(行政関係者)

- ・他職種の交流の場・理解がもっと必要だと感じました。

(その他)

- ・他職種でも連携の取り方がわかっていないのでツールを作って欲しい。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい

(歯科医師)

- ・グループワーク形成を今後とも続けて下さい。

(保健師)

- ・グループワークは良い。

(看護師)

- ・上手に医療・介護の連携をしている所の連携の様子について。
- ・ケースカンファレンス（事例検討）。

(歯科衛生士)

- ・どこに相談すればいいのかわかるツール。こんな時はここへ相談すればよいと言うのがわからないので学びたい。

(介護支援専門員)

- ・KJ法の継続。
- ・医師との懇談会や、医療関係者との意見交換会など、回数を重ねて欲しい。
- ・グループワークなどでは時間的にもまとめを語り合える時間が欲しい。

(福祉施設関係者)

- ・看取りについて

(行政関係者)

- ・結論を導けるよう、継続してディスカッションできる機会がほしいと思います。

自由記載欄

(看護師)

- ・今回のグループワークの続きをすればもっとうち解けて中身の濃い内容となると思う。

(介護支援専門員)

- ・とてもよい研修でした。今回50人定員で限られた参加者だったので、参加できなかった人のために2回目・3回目を開催してもいいのでは？（KJ法は、保健師などでも指導できるはず）。介護分野の参加が少なく感じた。医療との連携について壁を感じると言いながら、出席が少ないのは残念である。次回は各職種・業種で参加人数を振り分けてもいいのでは？
- ・今回薬剤師さんや、歯科関係の方と同じグループになり、参考になりました。市役所（行政・窓口）の方もいらっちゃって個人情報に関する苦勞・・・という点について話され、まさに連携の裏側に個人情報の適正な取扱いの難しさがあることに気づかされました。

平成 25 年度第 3 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 25 年 9 月 25 日 (火)
18:30～20:30
 - (2) 場 所 一関市役所千厩支所 2階 大会議室
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業者、行政関係者等
 - (5) 参加者 56名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 25 年度 第 3 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成 25 年 9 月 25 日 (火)

18:30～20:30

場所：一関市役所千厩支所

2階 大会議室

次 第

1 開 会 18:30

2 挨 拶

3 グループワーク 18:35～20:30

テーマ「施設や自宅での急変時について」

～ 特別養護老人ホームや自宅、DOA等、急変時の対応について
みんなで考えよう！ ～

グループワーク講師 谷藤内科医院院長 谷藤 正人 氏

18:35～18:55

グループワーク作業

18:55～19:55

プレゼンテーション、討議

19:55～20:25

4 閉 会 20:30

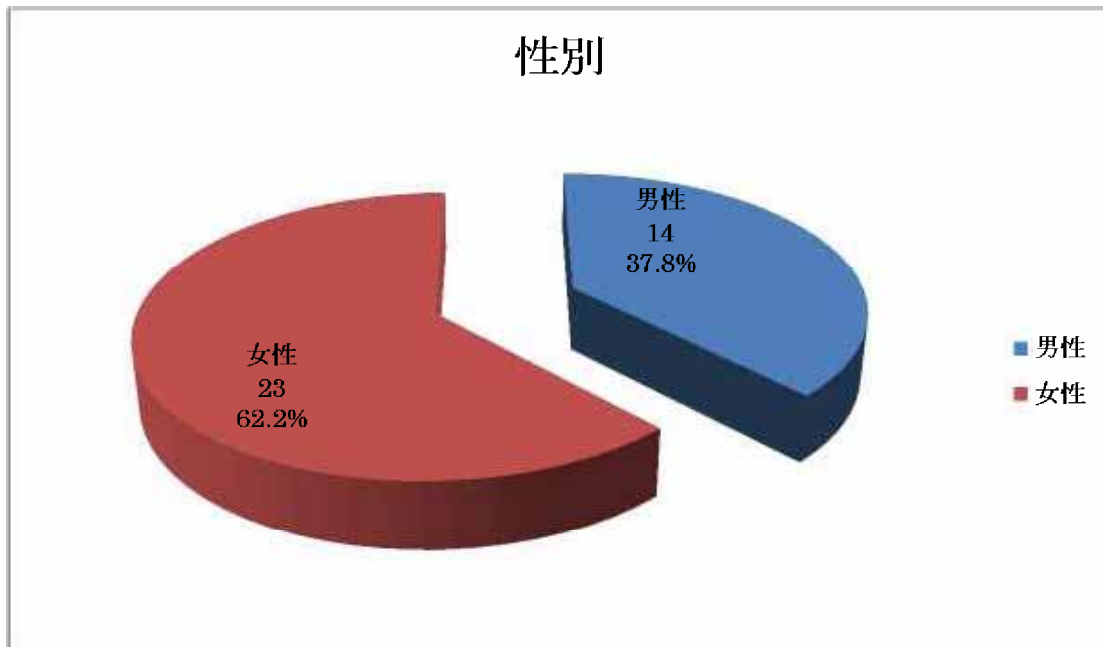
2 アンケートの集計結果

回答者数 37人 (回収率 66.1%)

質問1 性別

男性 14人 (37.8%)

女性 23人 (62.2%)



質問2 年齢

20歳代 3人 (8.1%)

30歳代 7人 (18.9%)

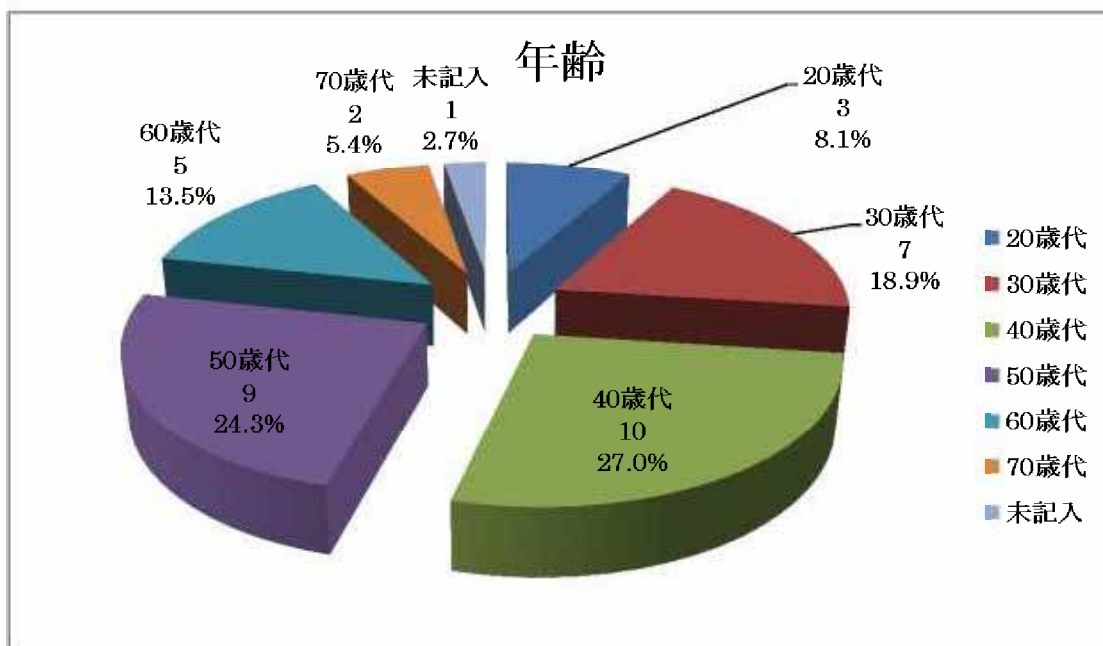
40歳代 10人 (27.0%)

50歳代 9人 (24.3%)

60歳代 5人 (13.5%)

70歳代 2人 (5.4%)

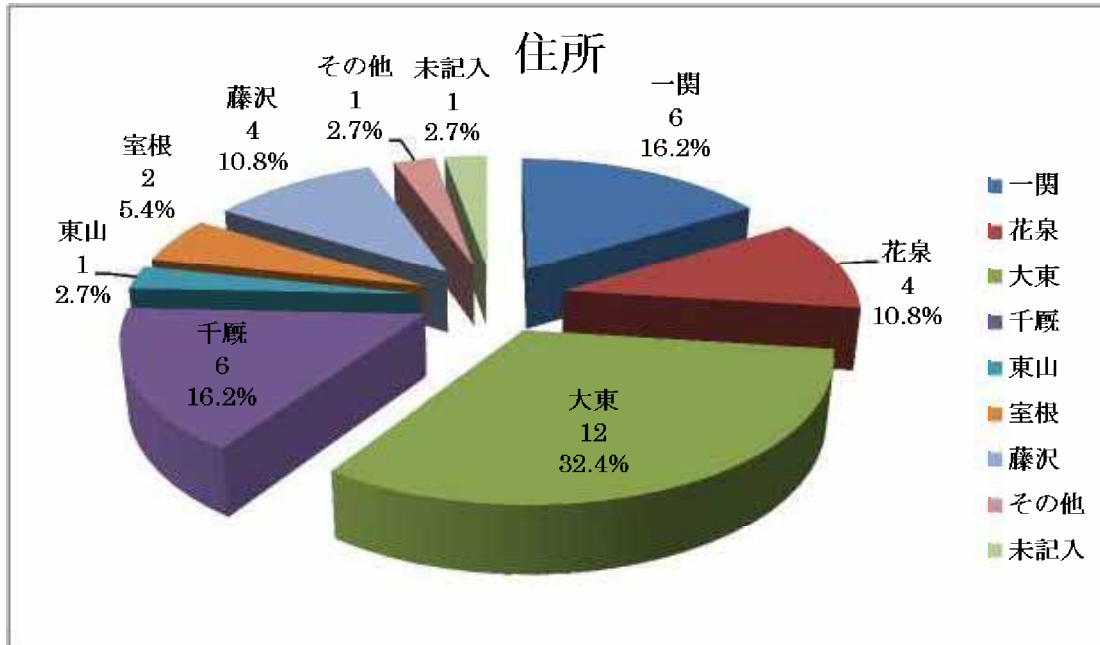
未記入 1人 (2.7%)



質問3 住所

一関	6人 (16.2%)	花泉	4人 (10.8%)
大東	12人 (32.4%)	千厩	6人 (16.2%)
東山	1人 (2.7%)	室根	2人 (5.4%)
藤沢	4人 (10.8%)	その他	1人 (2.7%)
未記入	1人 (2.7%)		

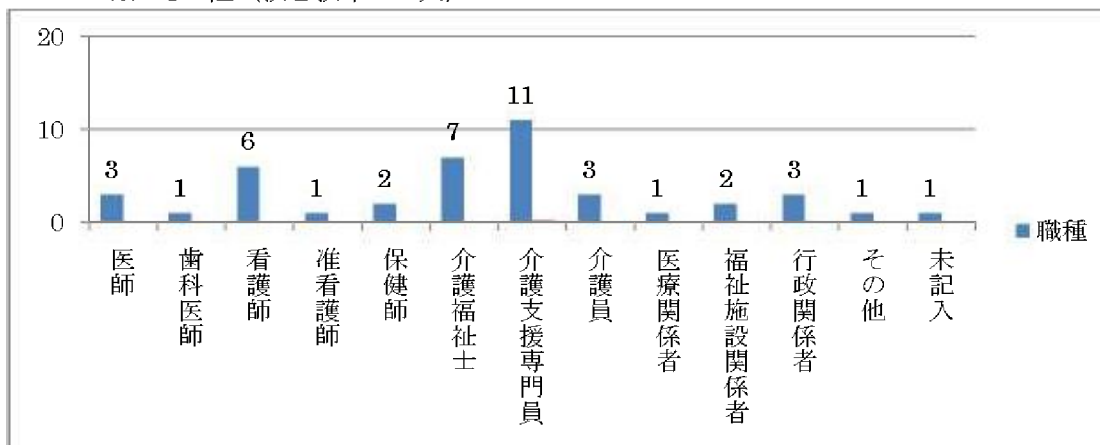
※ その他 (北上市1人)



質問4 職種

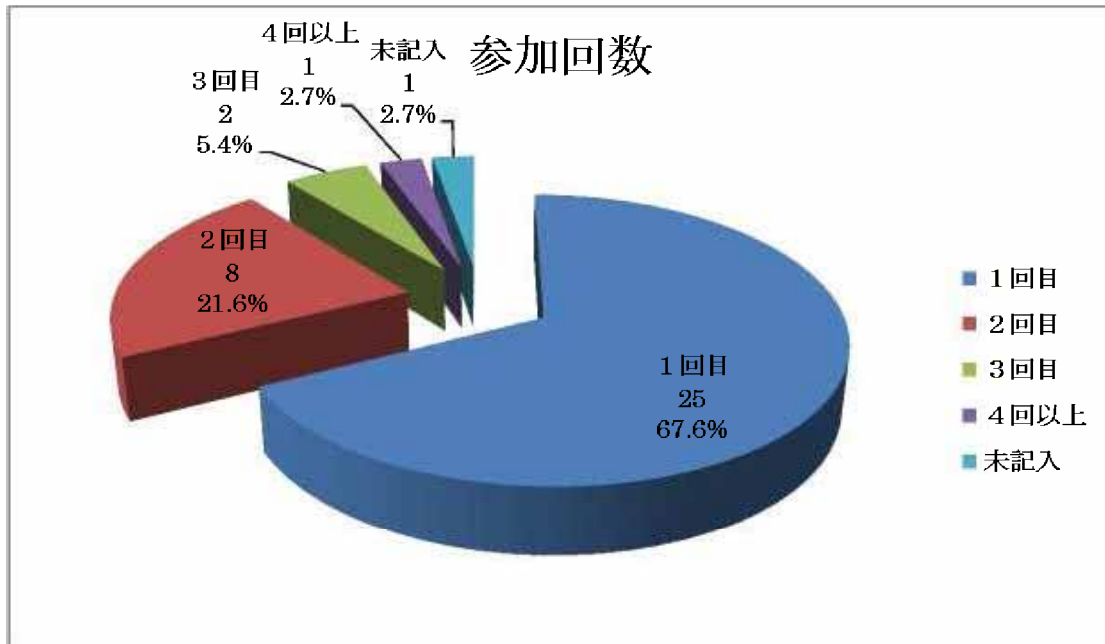
医師	3人 (7.1%)	歯科医師	1人 (2.4%)
看護師	6人 (14.3%)	准看護師	1人 (2.4%)
保健師	2人 (4.8%)	介護福祉士	7人 (16.7%)
介護支援専門員	11人 (26.2%)	介護員	3人 (7.1%)
医療関係者	1人 (2.4%)	福祉施設関係者	2人 (4.8%)
行政関係者	3人 (7.1%)	その他	1人 (2.4%)
未記入	1人 (2.4%)		

※ その他 (救急救命士1人)



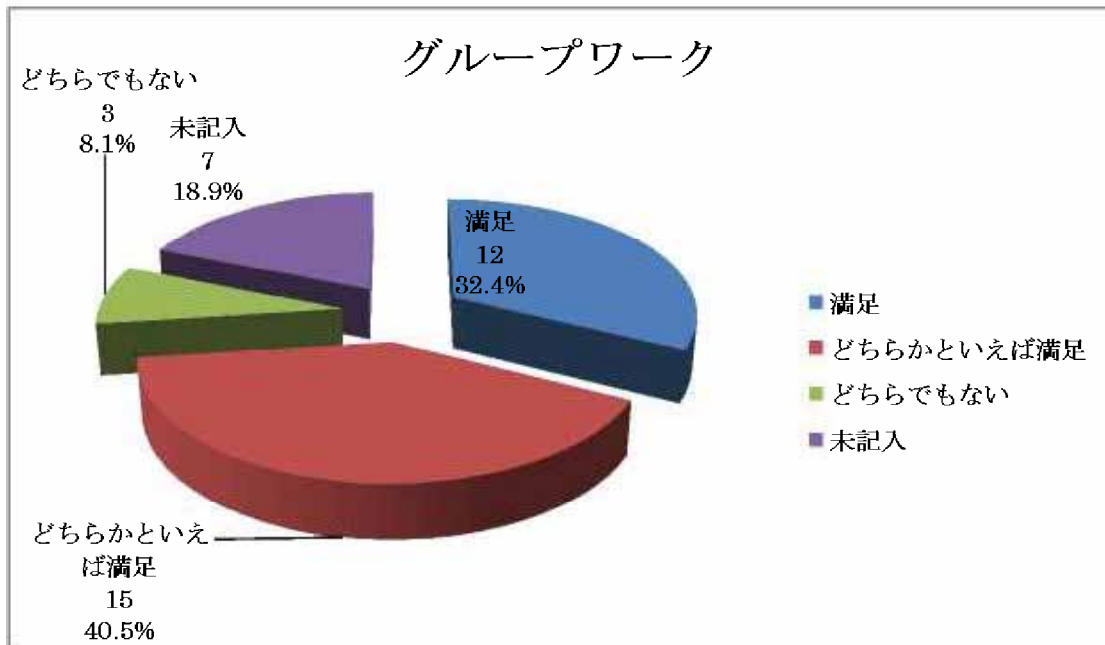
質問5 参加回数

1回目	25人 (67.6%)	2回目	8人 (21.6%)	3回目	2人 (5.4%)
4回以上	1人 (2.7%)	未記入	1人 (2.7%)		



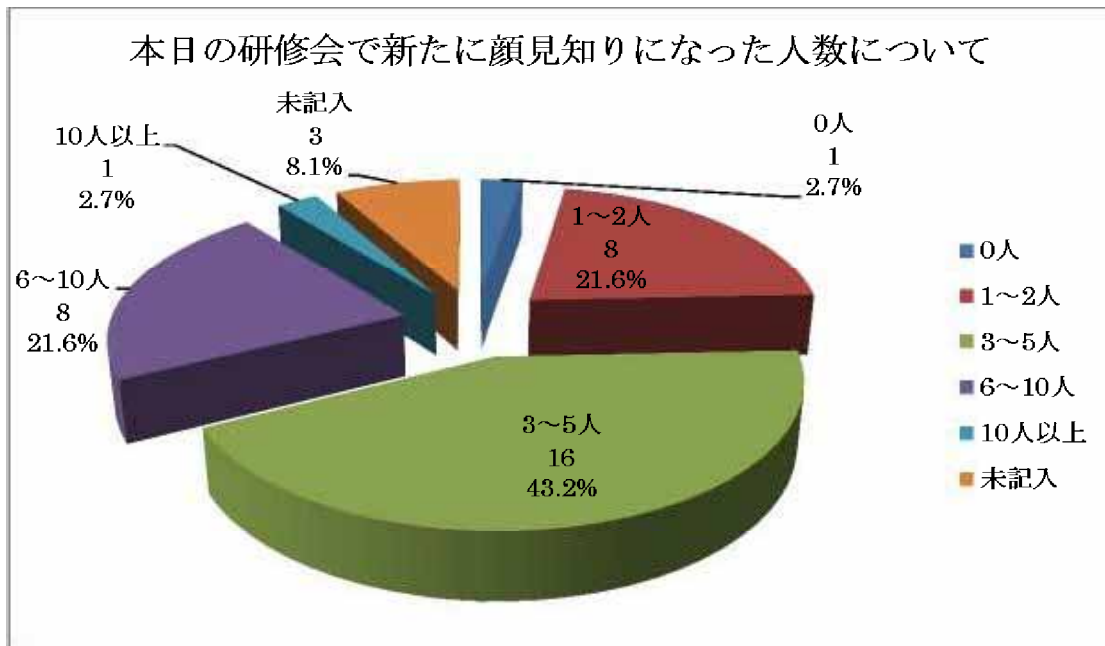
質問6 グループワークについて

満足	12人 (32.4%)	どちらかといえば満足	15人 (40.5%)
どちらでもない	3人 (8.1%)	未記入	7人 (18.9%)



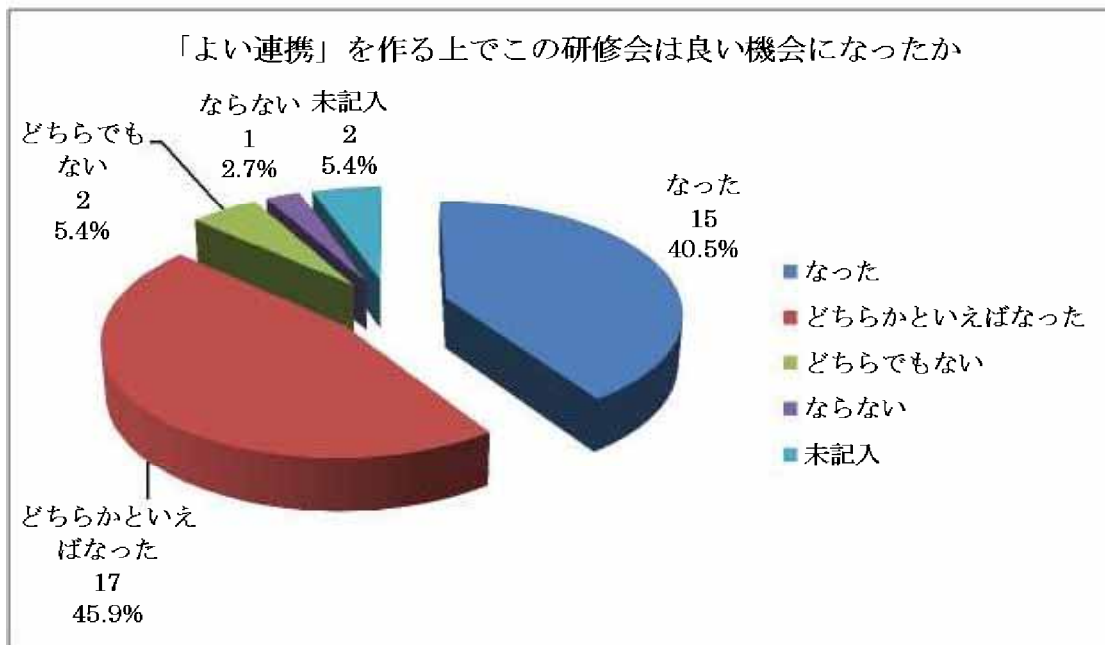
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

0人	1人 (2.7%)	1~2人	8人 (21.6%)
3~5人	16人 (43.2%)	6~10人	8人 (21.6%)
10人以上	1人 (2.7%)	未記入	3人 (8.1%)



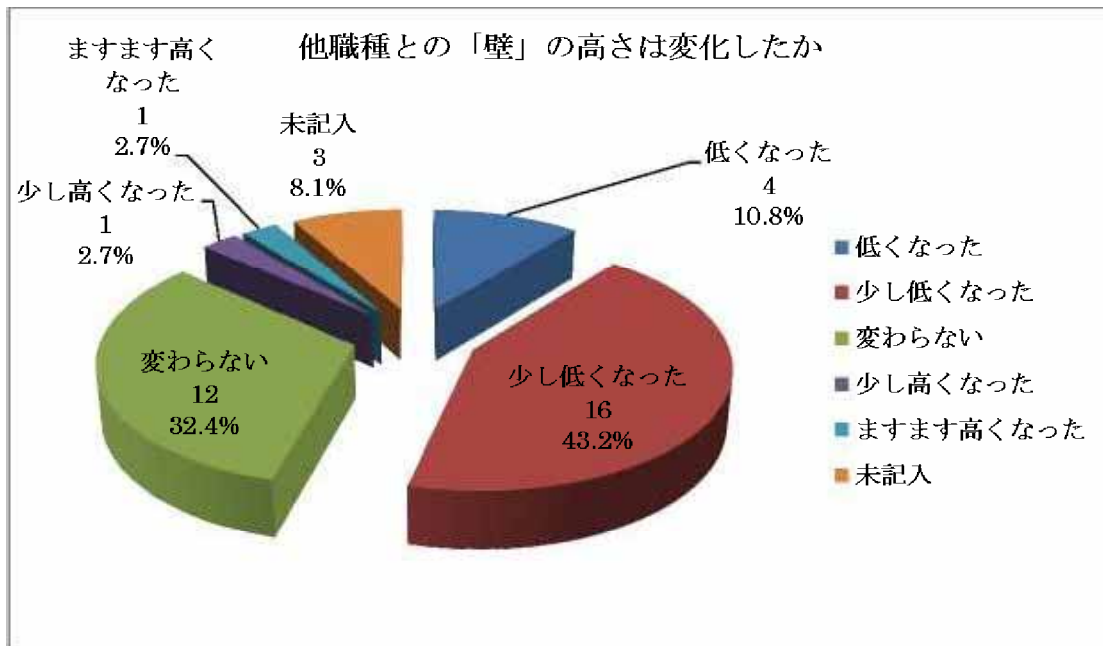
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	15人 (40.5%)	どちらかといえばなった	17人 (45.9%)
どちらでもない	2人 (5.4%)	ならない	1人 (2.7%)
未記入	2人 (5.4%)		



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	4人 (10.8%)	少し低くなった	16人 (43.2%)
変わらない	12人 (32.4%)	少し高くなった	1人 (2.7%)
ますます高くなった	1人 (2.7%)	未記入	3人 (8.1%)



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・医師が積極的に関わることが大切である。
- ・ケアマネジャーの資質をあげ、中心になって連携を図ること。
- ・在宅にも介護度が高い障がい老人が多い。訪問看護をもっと利用すべきである。

(歯科医師)

- ・人間力。コミュニケーション力。

(保健師)

- ・情報共有。お互いの職種の理解。

(看護師)

- ・多職種の人とより多くディスカッションする場があれば良いと思う。
- ・このような研修会などで、互いの状況を話し合っ理解し合うことが大切だと思いました。看取りについての話し合いが介護職の方々だけでなく、一般の人、介護する人の理解や、周知が必要。
- ・色んな職種で集まって、交流・話しの場を持てること。話しを交わすことで職種間の業務の実態や普段思っていることを知ることができて、職種間の隔たりが無くなっていくと良いなと思う。
- ・情報の共有。
- ・職員同士のプレーの強度化。

(准看護師)

- ・このような研修会は意義があったと思います。

(介護福祉士)

- ・情報の共有。
- ・コミュニケーション（1人の利用者に関わる人達でのコミュニケーションだけでなく、今回の研修のような場で、他職種、特にDrと話ができる機会）。
- ・医療と在宅介護が特に必要と感ずます（看取り）。

(介護支援専門員)

- ・地域で看取りに積極的な開業医がもっと増えてほしい。
- ・日頃から情報交換を行い、いざという時にすぐ連絡できる関係づくりをしていくこと。
- ・意見交換や協力の機会がもっと必要だと思います。
- ・看取りの場合は家族間の意思の統一が大切だと思う。サポートしてくれる人達との連携も大切。連絡体制を明確にしていくことも必要。
- ・このような研修会に参加し、顔の見える関係をつくること。
- ・モデルがはっきりしなかったため、論点が各班で違うようだ。

(介護員)

- ・事前、普段からの情報共有。チームでの関わりとお話しされましたが、対象者に関わる全てで、連携ができれば良いのでは・・・。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい

(医師)

- ・認知症の治療と介護の仕方、留意点。
- ・これから急増すると予想される認知症患者対策。

(介護支援専門員)

- ・医師、介護だけでなく、民生委員、警察、消防など、もっと幅広い分野の人々で情報交換し、自分がやるべきことを見出したいと思う。
- ・起こりうるケースを題材に、各職種との連携をどのようにしていくか？ というようなグループワーク。
- ・おもしろい研修でした。また参加したいと思いました。

自由記載欄

(保健師)

- ・やり方に慣れていない人も多いと思われたので、ファシリテーター役が欲しかったと思う。そうすることで、もっと話し合いの焦点が絞られたのではないかと思います。
- ・希望しても参加できなかった人もいたと聞きました。何度か行えればいいのかと思いました。

(介護支援専門員)

- ・前提となるシートがほしい。KJ法を全ての方が知っているとは限らない。ファシリテーター役は数グループに1名でもいいから付けて欲しい。

(行政関係者)

- ・事例を用いてのグループワークであれば、ケースはもとより、何を話し合っ欲しいのか、紙ベースで配布して欲しい。その場で考えるのではなく、あらかじめ固めていたもので話し合いをした方が各職種からの意見も聴取できると思う。グループワークでの方向性やテーマが不明瞭で円滑な話し合いが難しかった。

平成 25 年度第 4 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 25 年 12 月 7 日 (土)
13:30～16:30
 - (2) 場 所 一関市役所 2 階 大会議室
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 市民、医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 177 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 25 年度 第 4 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成 25 年 12 月 7 日 (土)

13:30～16:00

場所：一関市役所

2 階 大会議室

次 第

1 開 会 13:30

2 挨 拶

3 シンポジウム 13:35～16:00
様々な介護施設の役割を考える
～医療と介護の連携のために～

シンポジスト

特別養護老人ホーム明生園	管理者	熊谷 茂 氏
介護老人保健施設やまゆり	相談員	伊藤てるみ 氏
一関病院	病棟師長	佐藤ふじ江 氏
認知症高齢者グループホームほっとスマイル	所 長	吉田 良 氏
一関地区広域行政組合	介護保険課課長補佐	鈴木 浩一 氏

座 長

一関中央クリニック 院 長 長澤 茂 氏

4 閉 会 16:00

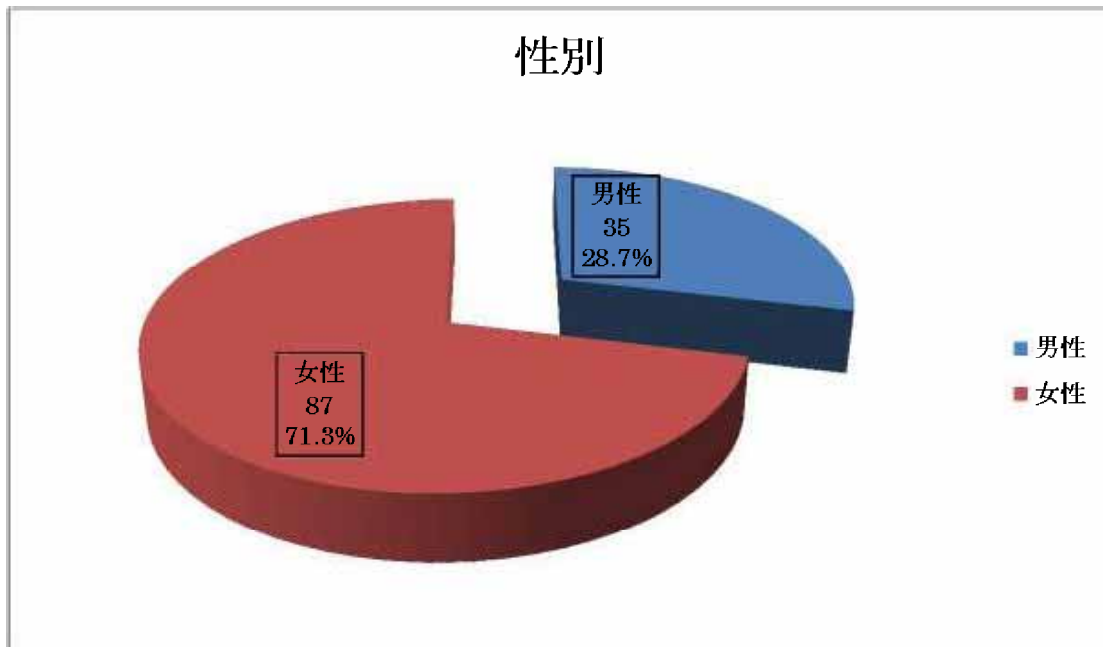
2 アンケートの集計結果

回答者数 122 人 (回収率 68.9%)

質問1 性別

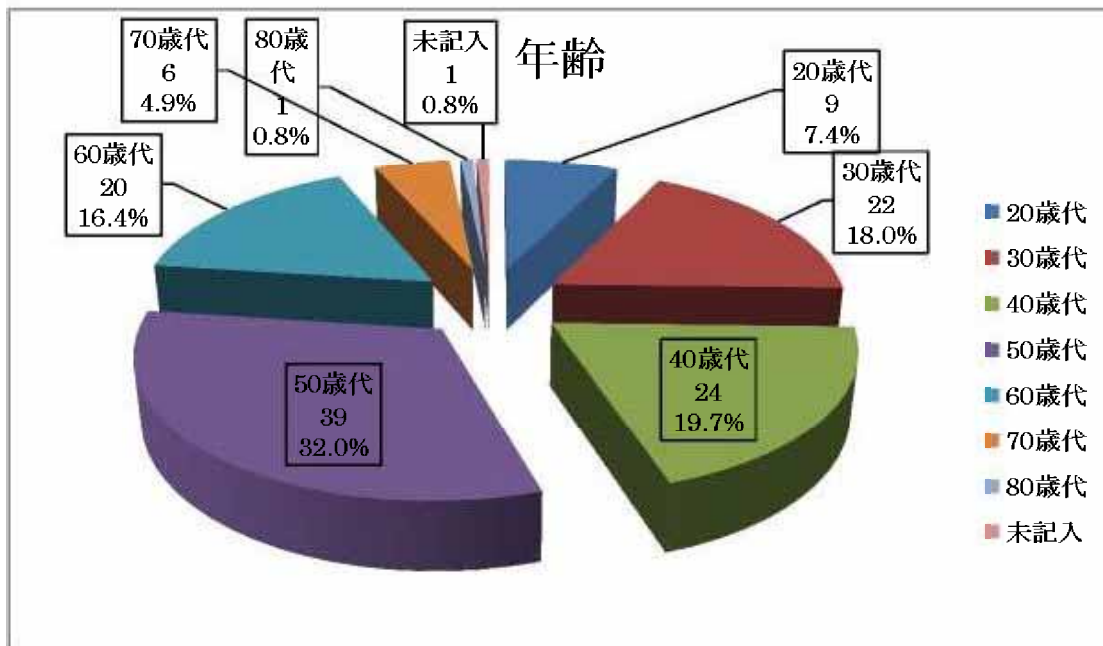
男性 35 人 (28.7%)

女性 87 人 (71.3%)



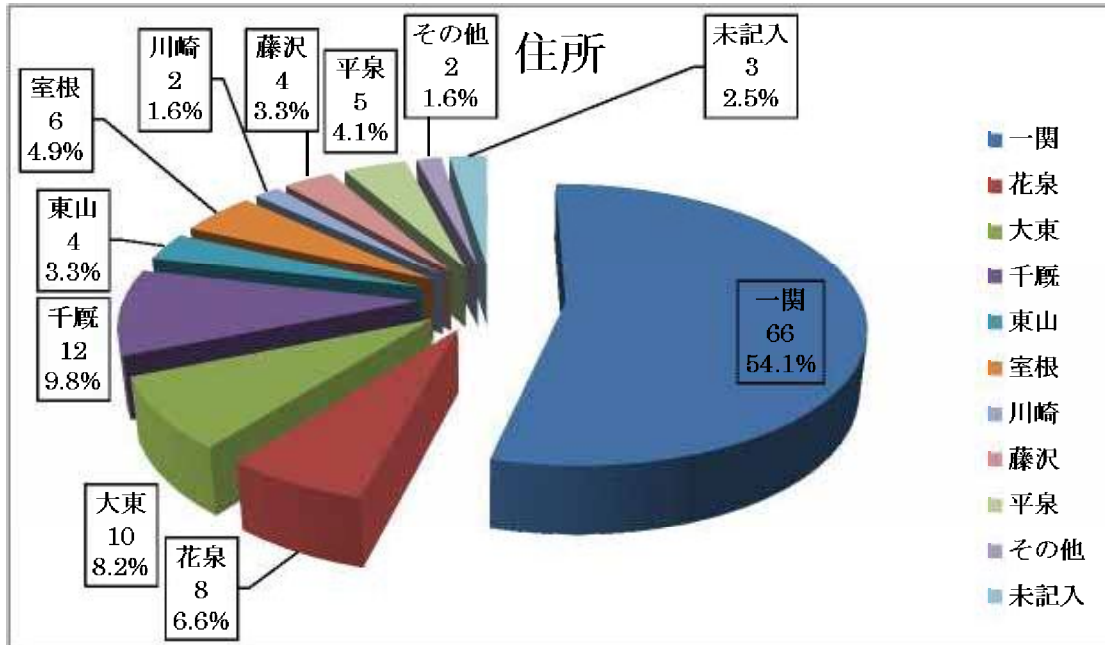
質問2 年齢

20歳代	9人 (7.4%)	30歳代	22人 (18.0%)
40歳代	24人 (19.7%)	50歳代	39人 (32.0%)
60歳代	20人 (16.4%)	70歳代	6人 (4.9%)
80歳代	1人 (0.8%)	未記入	1人 (0.8%)



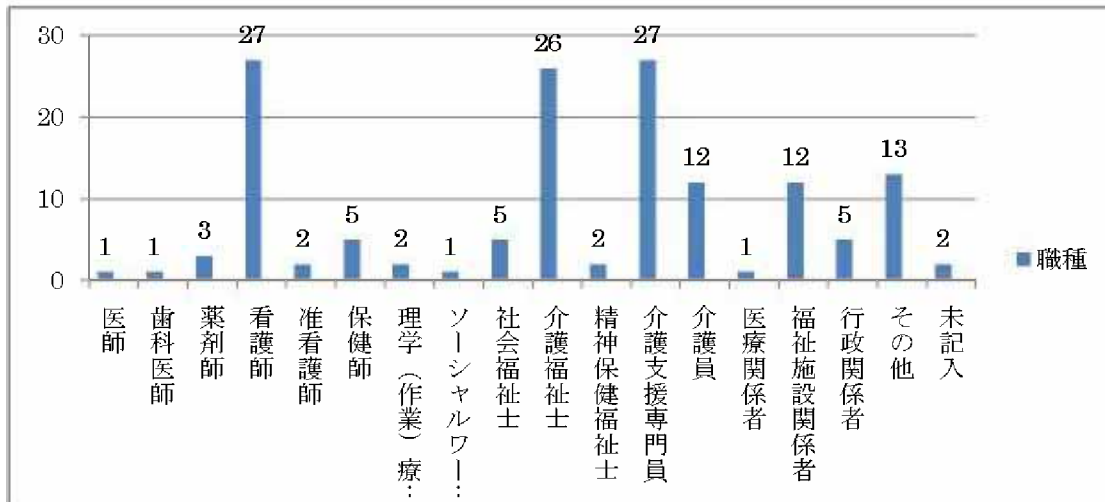
質問3 住所

一関	66人 (54.1%)	花泉	8人 (6.6%)
大東	10人 (8.2%)	千厩	12人 (9.8%)
東山	4人 (3.3%)	室根	6人 (4.9%)
川崎	2人 (1.6%)	藤沢	4人 (3.3%)
平泉	5人 (4.1%)	その他	2人 (1.6%)
未記入	3人 (2.5%)	その他 (奥州市1人)	



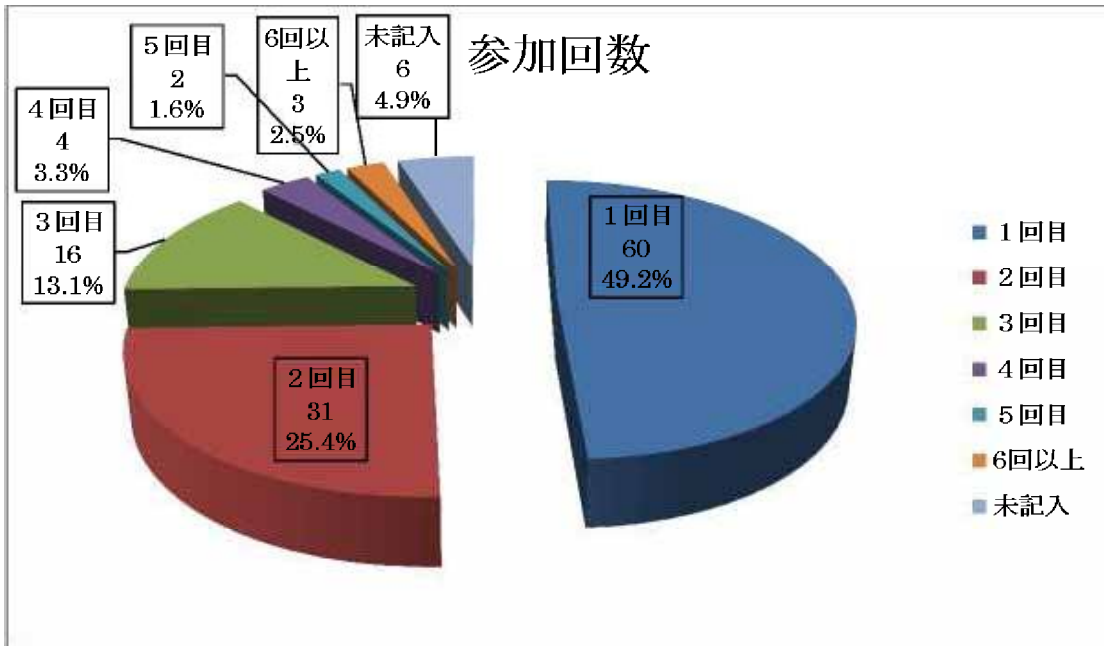
質問4 職種

医師	1人 (0.7%)	歯科医師	1人 (0.7%)
薬剤師	3人 (2.0%)	看護師	27人 (18.4%)
准看護師	2人 (1.4%)	保健師	5人 (3.4%)
理学(作業)療法士	2人 (1.4%)	ソーシャルワーカー	1人 (0.7%)
社会福祉士	5人 (3.4%)	介護福祉士	26人 (17.7%)
精神保健福祉士	2人 (1.4%)	介護支援専門員	27人 (18.4%)
介護員	12人 (8.2%)	医療関係者	1人 (0.7%)
福祉施設関係者	12人 (8.2%)	行政関係者	5人 (3.4%)
その他	13人 (8.8%)	未記入	2人 (1.4%)



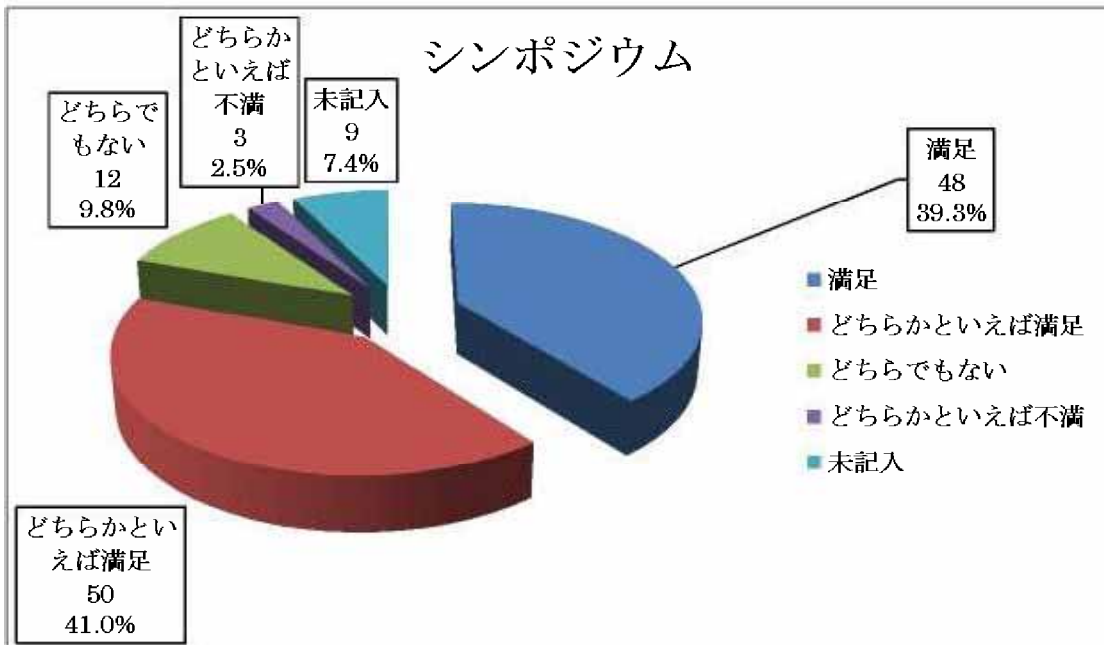
質問5 参加回数

1回目	60人 (49.2%)	2回目	31人 (25.4%)	3回目	16人 (13.1%)
4回目	4人 (3.3%)	5回目	2人 (1.6%)	6回以上	3人 (2.5%)
未記入	6人 (4.9%)				



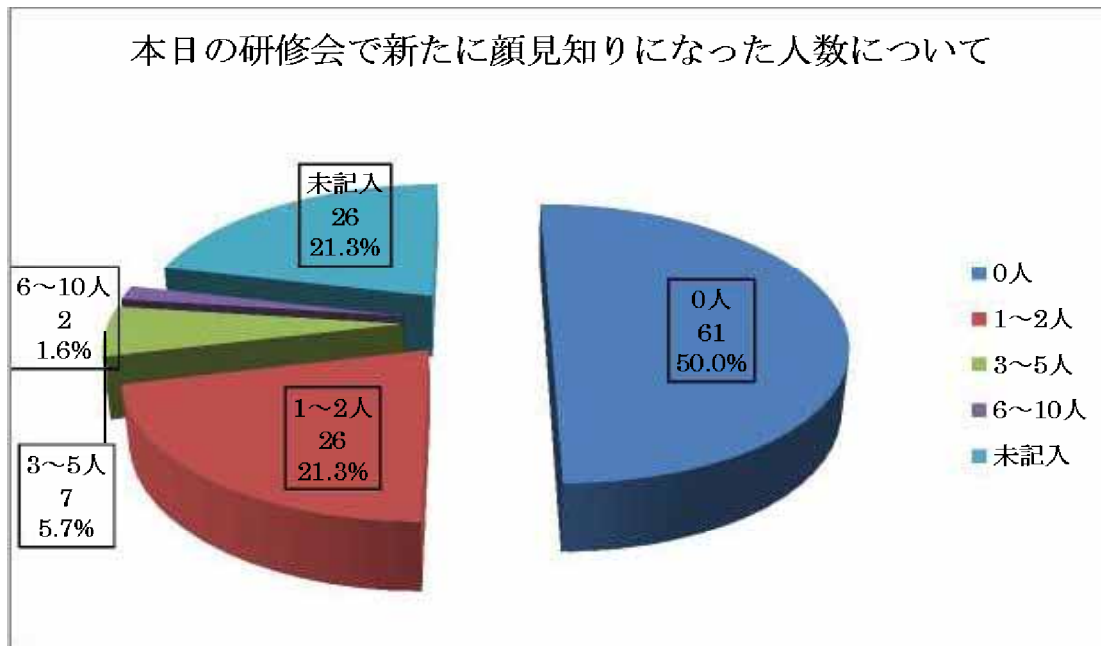
質問6 シンポジウムについて

満足	48人 (39.3%)	どちらかといえば満足	50人 (41.0%)
どちらでもない	12人 (9.8%)	どちらかといえば不満	3人 (2.5%)
未記入	9人 (7.4%)		



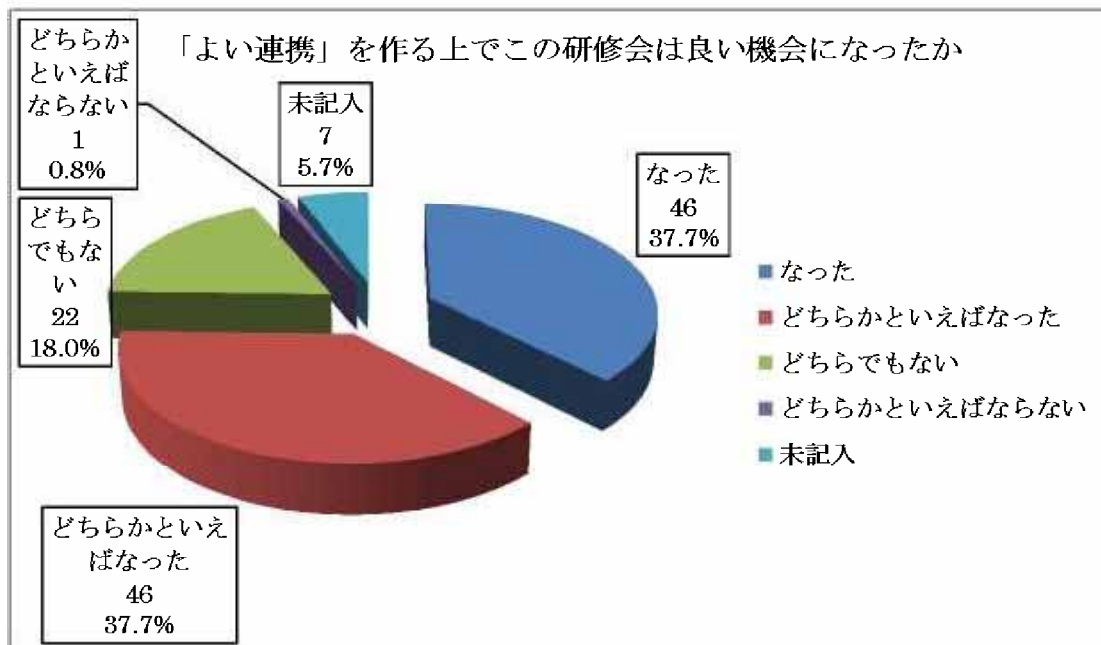
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

0人	61人 (50.0%)	1~2人	26人 (21.3%)
3~5人	7人 (5.7%)	6~10人	2人 (1.6%)
未記入	26人 (21.3%)		



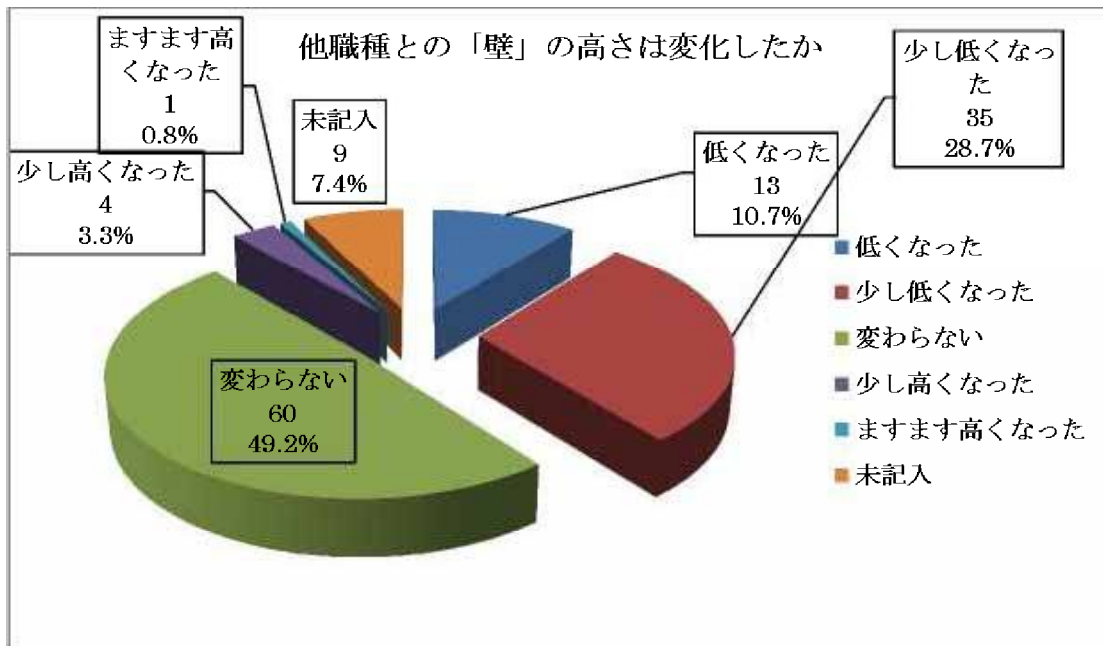
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	46人 (37.7%)	どちらかといえばなった	46人 (37.7%)
どちらでもない	22人 (18.0%)	どちらかといえばならない	1人 (0.8%)
未記入	7人 (5.7%)		



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	13人 (10.8%)	少し低くなった	35人 (28.7%)
変わらない	60人 (49.2%)	少し高くなった	4人 (3.3%)
ますます高くなった	1人 (0.8%)	未記入	9人 (7.4%)



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・住民の皆さんへの理解を広める必要がある。

(歯科医師)

- ・質問時間が短い。

(薬剤師)

- ・お互いの職種、内容の理解が必要。
- ・それぞれの専門性を発揮しながら、チームとして関わる事でQOLの向上に貢献できるのではないかな。
- ・協力できる所は他職種の出来る範囲を理解しやっていける様に調整していく必要があると感じた。
- ・もっと小規模で、顔が見える形の方が良いかもしれない。

(保健師)

- ・ゆとりの時間が少しでも欲しいのでは。研修の時間を持てる事を希望します。

(看護師)

- ・今日のシンポジウムは、病院と在宅の間での施設の悩みや苦勞が聞けました。改めて気づかされたこともあります。ありがとうございました。
- ・今日の様な研修会の開催は有益と思います。
- ・顔つなぎ、顔の見える連携。
- ・情報提供。
- ・認知症がある人を「歩かせるな。」と言われても、どうして良いか分からない。施設で安全の為の身体拘束は不可ですのでとても大変です。認知症をもっと理解して下さい。〇〇クリニックのように夜間Dr不在のクリニックが多く、夜間・休日対応がもっと受け入れ出来る連携を図ってほしいと思

います。

- ・在宅看護、在宅介護の充実が大切。地域との連携！！連携が上手く行っていない為に待機者が多いと考える。
- ・共通の知識。
- ・とりまく家族等、介護する側へのアプローチが必要かと思います。携わる側は大分連携がとれてきていますので、一般市民の方々の理解も大事だと思います。
- ・お互いの仕事状況を知る事が一番だと思います。今回の内容はとても分かり易く、各施設の内容を理解でき良かったです。情報交換できる場を作って頂ければと思います。
- ・意見交換の場も必要ですが、医療施設や介護施設各々の施設を開放した研修もあった方が、連携がとれるのではないかと思います。
- ・情報の共有。在宅での支援サービスの充実（一人暮らし、老老介護）。人材不足。経費。
- ・医療・介護、各々の立場を理解されているのでしょうか。全く歩み寄っていないと思います。医療の立場も分かりますが、高齢者を守るような事ばかり話していますが、施設に対して医師側の協力が足りなさすぎだと思います。
- ・この様な会を通じ、皆で共通意識を持つ事だと思います。
- ・利用者中心の支援の視点。
- ・家族のない人生を送る人が増えているこの時代に、若い時から老後の送り方を教える事も大事だと思います。
- ・情報の共有。（一人一人の気づきが大事となる）
- ・情報支援を行う事。

(准看護師)

- ・様々な介護施設の細かい役割を学べて、地域との情報の必要性、グループホームの内容など分かり易かった。視野範囲を広げて利用者さんとも関わって行きたいと思いました。

(理学（作業）療法士)

- ・医療と介護の関係者が直接話せる場所の設定が必要と考えます。専門職と一般の方でも、上記に有る「顔見知り」になるためには、座学では難しいかと思います。質問形式で挙手することは、なかなか難しいかと思います。
- ・共通課題としての認識。目標、課題の統一。

(ソーシャルワーカー)

- ・お互いの情報交換と、利用者・家族との意向確認。

(社会福祉士)

- ・信頼関係、共同の作業の積み重ね。
- ・この様な研修会！
- ・医療と介護の連携の他に、同じ介護でも施設サービス、居宅サービス同士の現状を理解し合う場、自由に意見交換できる場を設けて行く事も必要であると感じました。
- ・現場レベルでの話し合い、意見交換、他職種の仕事内容や、考え方についての理解が不足している。

(介護福祉士)

- ・最近多い研修と思いますが、何が足りないのでしょうか・・・。具体的に知りたいです。また、医師との「壁」は変わらないように思います。医師の一言は重いです。医師と家族との「壁」より、高く厚いのではないのでしょうか！！
- ・顔の見える関係を作ることはあるが、グループワークがあってもいいのではないかと思う。(以前にもあったが・・・)
- ・この様な会でお互いを知り、協力し合える事。
- ・家族の理解と協力。
- ・利用者のニーズや問題点を解決していく上で互いに情報を共有し、コミュニケーションを取り合う

事だと思う。

- ・利用者様と家族を一番に考える事。(生活)
- ・病院でもショートステイがあると聞いて利用したいと思う。ありがとうございました。
- ・他職種との壁をなくし、同じ目標、目的等に向かい協力し合うこと。
- ・気づき(小さな事でも職員間で話している)。情報提供。(各種から、NS、介護、栄養士、OT、PT・・・)報告。(必ずNSに報告、当日のリーダーに報告している)当日のリーダーが利用者の変化を入力し、職員全員が把握出来る状態になっている。

(介護支援専門員)

- ・医療ニーズの高い方は自宅で介護が難しいという声を家族から多く聞くので、受け入れてくれる施設が増えてくれると助かるのではないかと感じる。
- ・医師・医療チームの在宅介護及び施設介護への理解。
- ・相互の連携が必要な事。両者の目的、役割をお互いに理解しあまり踏み入れない事。
- ・もう少し歩み寄りたい。
- ・対象者の情報を共有できる様な形→市内で統一できる形だと良いと思う。
- ・コミュニケーション。
- ・医療はとても大切な事ですが、次の施設や行き場を紹介する時に、施設の役割や特徴を理解した上で家族へ紹介して欲しいです。相談に来られて病院側の話を家族から聞くと、がっかりさせられる事があります。

(介護員)

- ・世間体ではなく、本当に人の事、利用者と介護員、職員の事を考えるか。
- ・相互理解。介護員が利用者に適切な援助を提供するには、必要に応じて適切な関係や繋がりを築いていくことが重要だと思いました。
- ・情報の共有。他の事業所や病院ともっと関われる場が必要かと・・・。1対多数よりグループワークなど。
- ・医師の認知症に対する対応?があまりよろしくない・・・。(医療機関)
- ・仕事をしていて介護に対して思うのですが、医療関係の方は介護について(特に個人病院)あまり分からない事を感じます。また、個人病院は認知症患者の入院の受け入れが無いのが不思議です。大変だと思いますが受け入れが出来ないのなら、次の事を考えて欲しいです。

(福祉施設関係者)

- ・それぞれの事業所、職種への理解。その意味では本日の研修は大変良かった。
- ・お互いの知識や情報を得る事が必要だと思います。この様な研修会の場が多くあると良いと思います。
- ・医療従事者の圧力が強い為介護サービスの提供の妨げになるケースが多々あるので、まず医療と介護の間にある壁を取り除き同じ土俵で同じ目線で連携すべきと思う。
- ・在宅とは、介護者がいるところ。将来は介護者がいなくなるので、施設の不足がはっきりした。よって介護職員が必要。

(行政関係者)

- ・市民の方が研修会に参加し、市民が欲しいという情報が何か知ること必要と思います。
- ・当事者意識。

(民生委員)

- ・わかりません。

(その他)

- ・お互いに顔を合わせての交流だと思う。

- ・入所待ちがどこの施設でも多いとみられますが、在宅でお世話している方への援助方法を考えて欲しい。
- ・介護者への待遇を変える事で、資格者も増えるのでは。
- ・お互いの役割を明確にし、円滑なコミュニケーションツールを設ける。
- ・施設入所となった場合の医療を十分受けられるかどうか心配です。(助かる生命が助からないのではないか・・・)

(一般住民)

- ・介護サービスの制度や限界について、現状を理解すること。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい

(薬剤師)

- ・研修としては特になし。

(看護師)

- ・訪問診療をしてくれる医師が増えるような取り組みを是非行政主導で考えて欲しい。在宅医療の充実について取り組んで欲しい。訪問リハビリ事業所の立ち上げに取り組んで欲しい。
- ・在宅で頑張っている家族への資金提供。
- ・施設における「看取り」について、もっと知りたいです。
- ・在宅への整備。もどかしい。
- ・訪問介護や訪問看護等在宅サービスが医療と介護の連携に大きく関わっているので、何らかの形で取り上げてもらえればと思います。
- ・お互いの仕事を知る意味でGWで同じテーマを話し合ったり、情報交換の場を設けて頂けると良いと思います。
- ・特養等、施設に対しての医療側の理解、協力。施設での看取りを考えて頂くための、家族や一般の方々に対する理解を求められるような、研修があれば良いと思います。(昔は自宅で、老人を看取りましたよね)
- ・在宅での看取りについて。在宅で看取るということ。グリーフケア。
- ・医師の施設者への考えを教えて欲しい。
- ・個々のスキルアップも必要となる。その為に各々に足りない部分を学習できる研修会等があるといいのかと考えます。
- ・今回のテーマにて、継続してほしい。

(准看護師)

- ・デイサービスなどにおけるレクリエーション作業や運動、音楽などの内容を知りたい。

(保健師)

- ・全く身寄りのない方の支援。(看取りも含めて)

(理学(作業)療法士)

- ・はじめて参加させて頂きました。とても興味深い内容でした。ありがとうございました。

(ソーシャルワーカー)

- ・医療に求めるのは、各科の専門性も求められるが、人間の医療としての総合的医療が必要だと思われる。

(社会福祉士)

- ・今回の様な復習的な内容。

(介護福祉士)

- ・ざっくりばらんな情報交換ができ、各関係機関のコミュニケーションを良好にすることが大事ではないかと思う。
- ・認知症についてより深く取り組んだテーマで取り組んで頂きたい。
- ・事例研究などの研修があれば良いと思う。
- ・多種多様の施設の一体的に集めた考えをして欲しい。
- ・鈴木さんよりの話し内容、プリントが欲しいと思いました。

(介護支援専門員)

- ・個人情報にも関わってくると思いますが、実際の現場の見学や利用者・家族の生の声を聞いてみたいです。
- ・訪問リハビリを増やして欲しい。
高齢者向け住宅についての資料がなく、分かりにくかったのが残念。
- ・医療従事者への介護保険、在宅・施設介護についての研修。
- ・在宅療養の具体的なサービスについて。(管内) フォーマルもインフォーマルも。
- ・介護ロボットによる介護作業軽減への取り組み状況について。
- ・高齢者住宅について、もう少し理解できる資料が欲しかったです。

(介護員)

- ・暴力的な利用者を受け入れる医療関係の拘束可能な施設を作る事。
- ・以前認知症の入居者の通院介助をした際、騒いだ利用者に心ない行いをされとても悲しかったです。もう少し認知に対する研修、講演を希望します。
- ・一般の参加者は何人くらいいたのでしょうか？もっと参加してもよいと思った。
- ・在宅生活の具体的な医療と介護の連携、又はヘルパー事業所を対象にした研修会等。
在宅介護が必要と日々話があるが、ホームヘルパーに対しての研修が少ないです。医療の方がいつも多いので。
- ・医療・介護側家族を含めての話し合いの仕方について・・・。

(福祉施設関係者)

- ・医療は介護に、介護は医療の関係者にそれぞれ要望などを述べ合う座談会形式がよいと思う。

(民生委員)

- ・市民向けにもっと簡単な説明の機会が欲しい。(私の参加は場違いだったと思う)
この研修会は専門家の機会だったのでですね。

(その他)

- ・在宅介護者への援助はないものでしょうか、検討をお願いしたい。
- ・高齢者向け住宅についてよく知りたかったのですが、資料がないので理解不足で残念でした。(入所待機者が多いので、緊急時利用せざるをえないので・・・) 入所施設の判定を施設任せではなく、専門的な組織で判定して、待機者が平等に各施設を利用できる機関の設置を希望します。入所者家族の話では疑問・不審・不平等が多いです。公正な入所判定順番をお願いします。

(一般住民)

- ・在宅や包括ケアが理想。夢のように伝えられますが、市民に対してはっきり現状が厳しいことをPRして欲しい。

自由記載欄

(看護師)

- ・今日の話の内容から、保健(予防活動)の大事さが特に気になりました。この連絡会に保健も入れて、予防活動をしながら、なってしまった人の介護もやっていくという両論にならないのではない

かと強く感じました。

地域住民の方へ、もっともっと現状のPRをし、予防の大切さを訴えていかないと、待機者が多くなり介護職員が不足する事がますます深刻になるのではないのでしょうか。

(介護福祉士)

- ・施設や病院に入院（入所）した場合、外泊や外出がもっと自由に出来るようになれば・・・と思います。○泊○日等、決まりはないのでしょうか・・・？
- ・土曜のPMだというのに、医療側の参加がとても少なく残念である。

(行政関係者)

- ・高齢者向け住宅に関する情報を誰に対して提供しようと考えているのか、姿勢に疑問。それぞれの住宅、サービスの違い、選択のポイント等を明確にすることが本日の目的と考えるが、住民に知らせたくない意図がありあり。(既存の資料がない訳ではないはず)

平成 25 年度第 5 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 26 年 2 月 8 日 (土)
14:00～16:30
 - (2) 場 所 一関市役所花泉支所 4階 東大会議室
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 52 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 25 年度 第 5 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時:平成 26 年 2 月 8 日(土)

14:00～16:30

場所:一関市役所花泉支所
4階 東大会議室

次 第

1 開 会 14:00

2 換 拶

3 グループワーク 14:05～16:30

テーマ「在宅における服薬管理」

グループワーク講師 千厩調剤薬局管理薬剤師 飛沢 洋 氏 14:05～15:00

グループワーク作業 15:00～16:00

プレゼンテーション、討議 16:00～16:30

4 閉 会 16:30

2 アンケートの集計結果

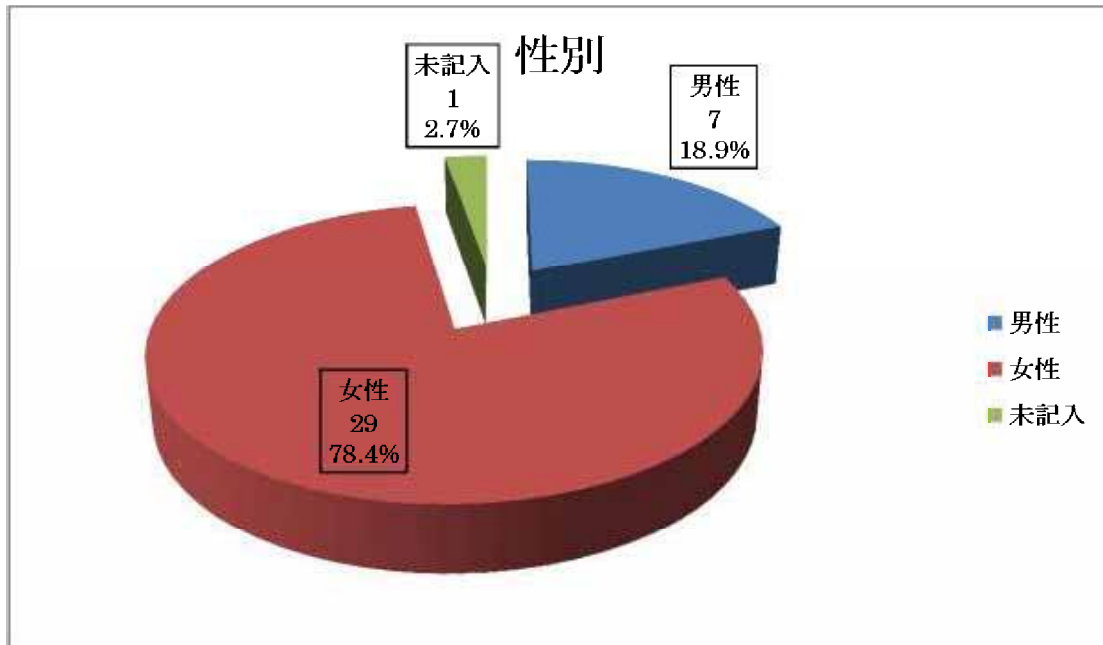
回答者数 37人 (回収率71.2%)

質問1 性別

男性 7人 (18.9%)

女性 29人 (78.4%)

未記入 1人 (2.7%)



質問2 年齢

20歳代 6人 (16.2%)

30歳代 10人 (27.0%)

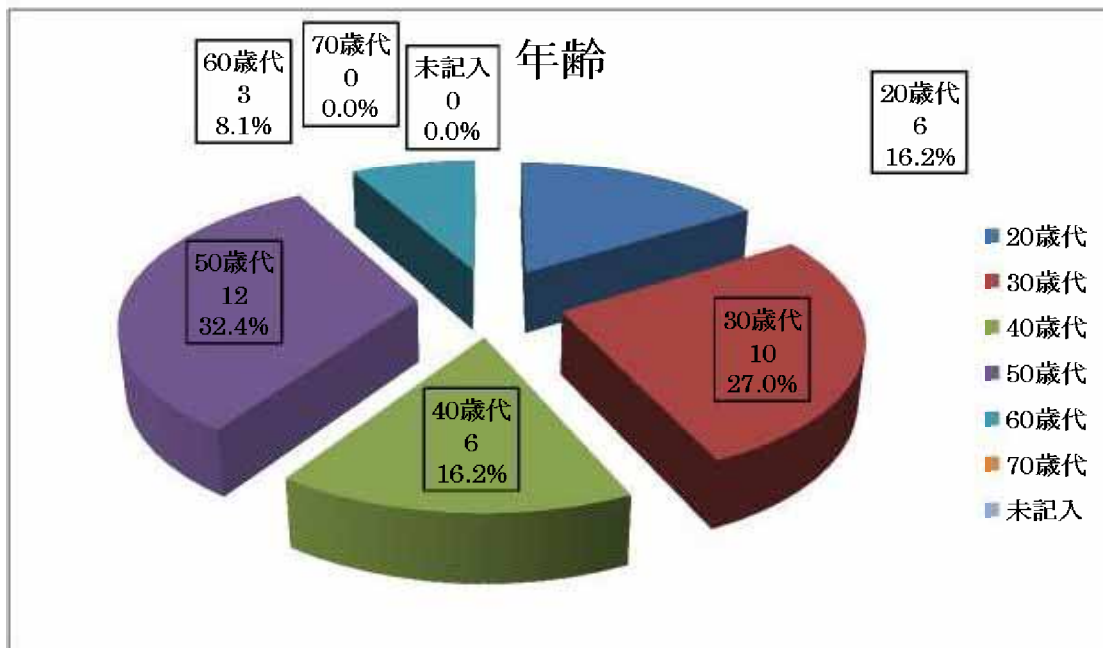
40歳代 6人 (16.2%)

50歳代 12人 (32.4%)

60歳代 3人 (8.1%)

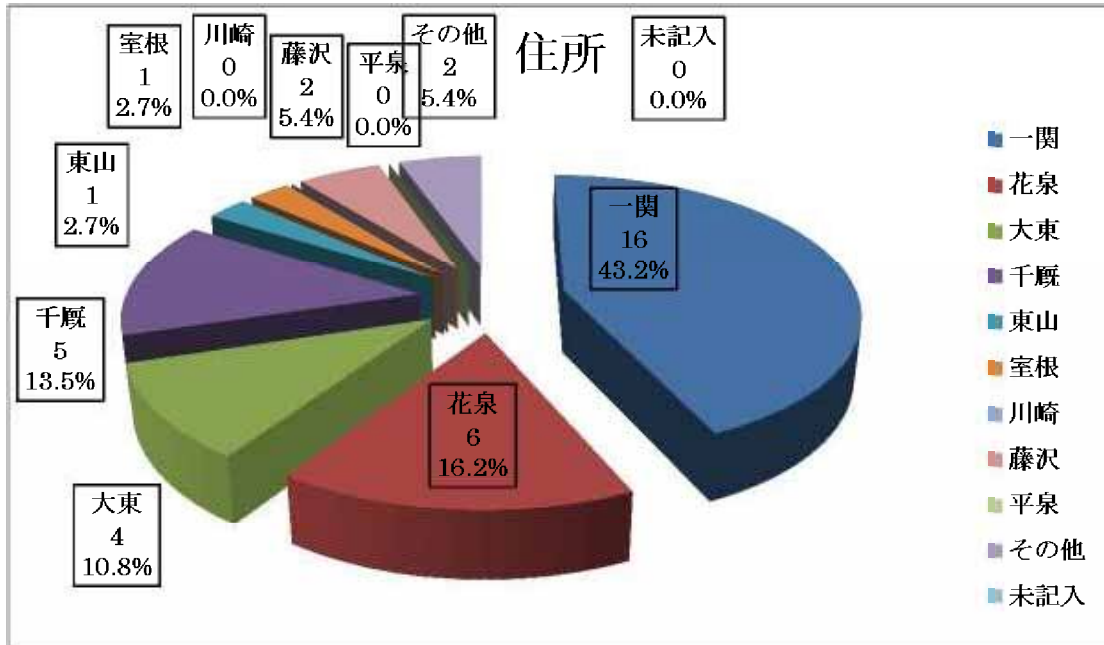
70歳代 0人 (0.0%)

未記入 0人 (0.0%)



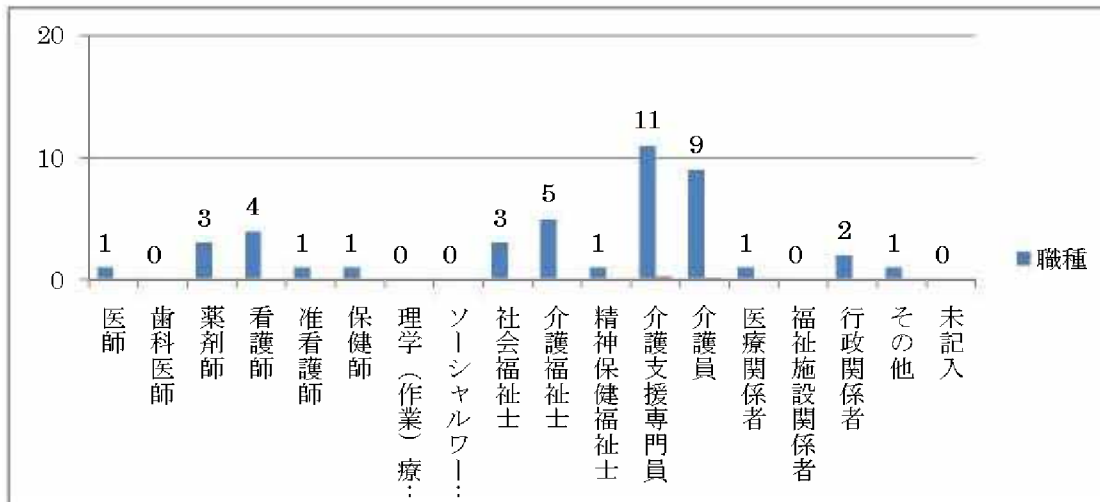
質問3 住所

一関	16人 (43.2%)	花泉	6人 (16.2%)
大東	4人 (10.8%)	千厩	5人 (13.5%)
東山	1人 (2.7%)	室根	1人 (2.7%)
川崎	0人 (0.0%)	藤沢	2人 (5.4%)
平泉	0人 (0.0%)	その他	2人 (5.4%)
未記入	0人 (0.0%)	その他	(栗原市1人、奥州市1人)



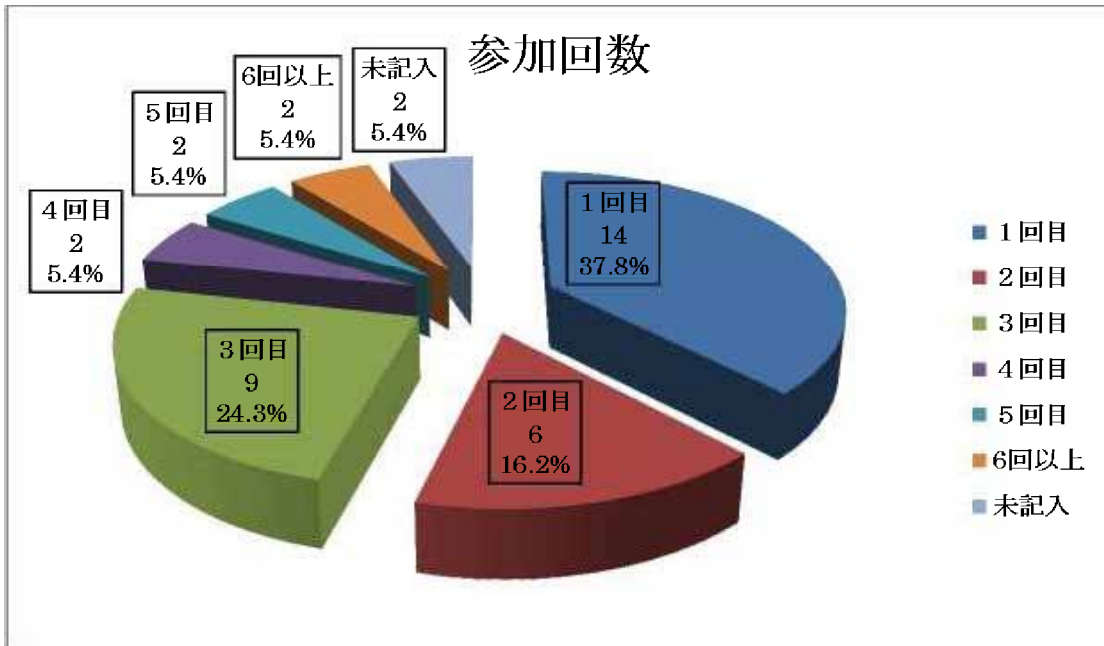
質問4 職種

医師	1人 (2.3%)	歯科医師	0人 (0.0%)
薬剤師	3人 (7.0%)	看護師	4人 (9.3%)
准看護師	1人 (2.3%)	保健師	1人 (2.3%)
理学(作業)療法士	0人 (0.0%)	ソーシャルワーカー	0人 (0.0%)
社会福祉士	3人 (7.0%)	介護福祉士	5人 (11.6%)
精神保健福祉士	1人 (2.3%)	介護支援専門員	11人 (25.6%)
介護員	9人 (20.9%)	医療関係者	1人 (2.3%)
福祉施設関係者	0人 (0.0%)	行政関係者	2人 (4.7%)
その他	1人 (2.3%)	未記入	0人 (0.0%)



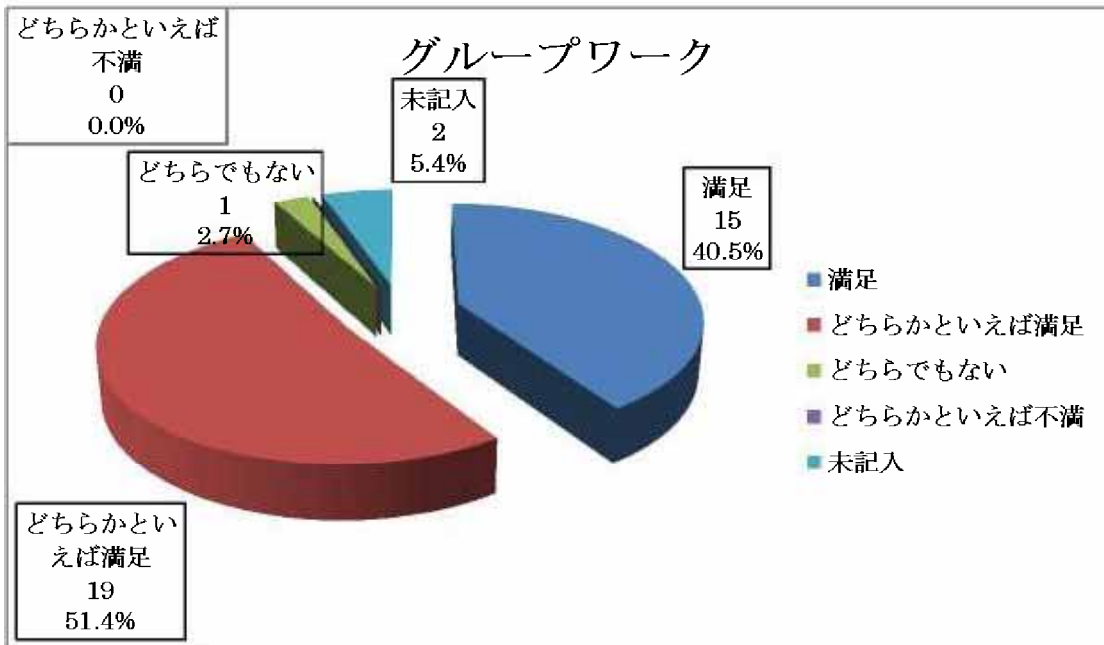
質問5 参加回数

1回目	14人 (37.8%)	2回目	6人 (16.2%)	3回目	9人 (24.3%)
4回目	2人 (5.4%)	5回目	2人 (5.4%)	6回以上	2人 (5.4%)
未記入	2人 (5.4%)				



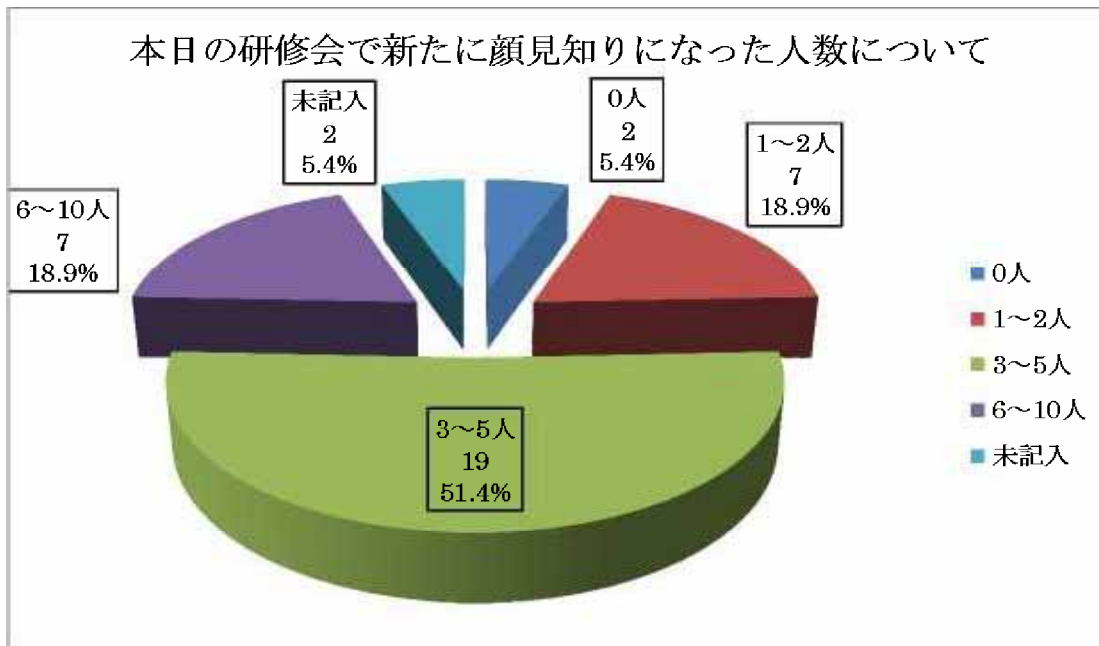
質問6 グループワークについて

満足	15人 (40.5%)	どちらかといえば満足	19人 (51.4%)
どちらでもない	1人 (2.7%)	どちらかといえば不満	0人 (0.0%)
未記入	2人 (5.4%)		



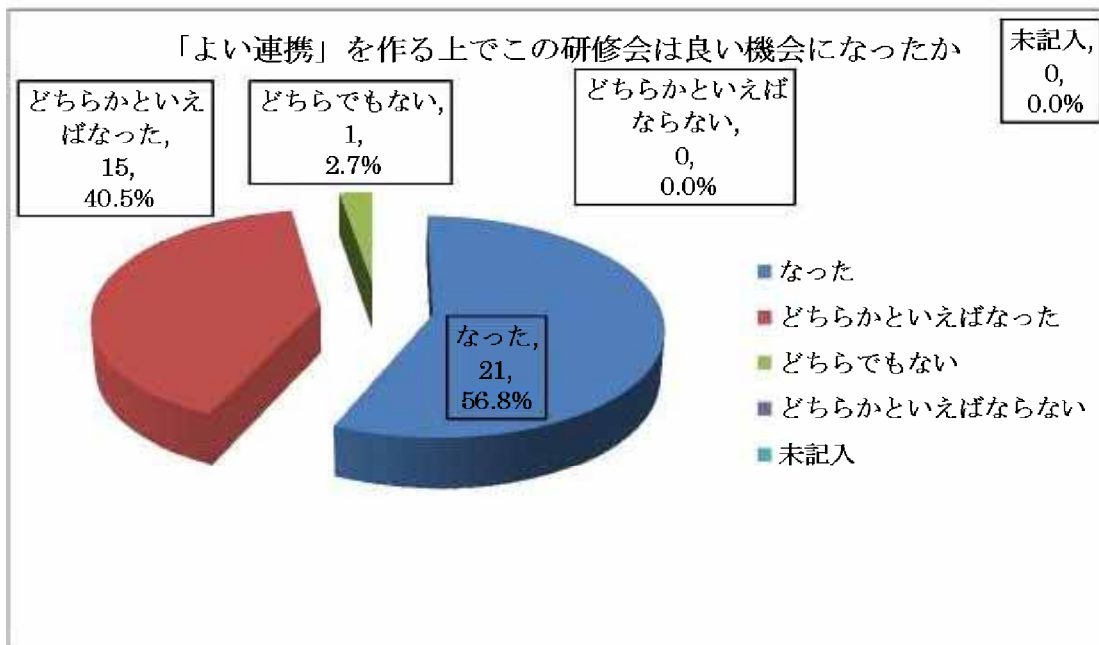
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

0人	2人 (5.4%)	1~2人	7人 (18.9%)
3~5人	19人 (51.4%)	6~10人	7人 (18.9%)
未記入	2人 (5.4%)		



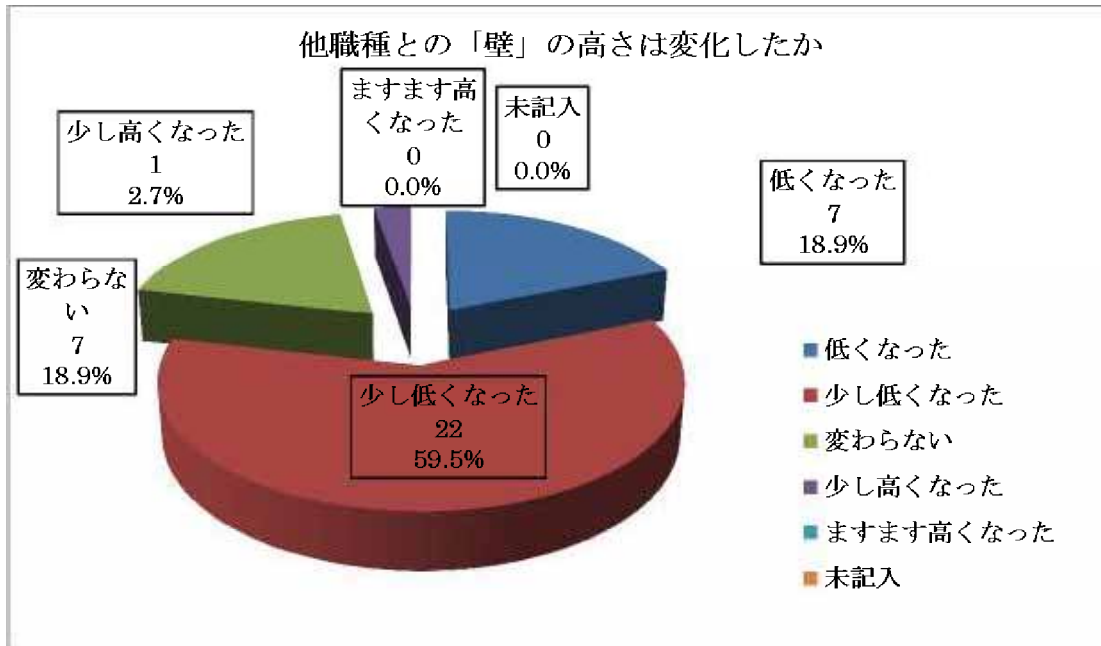
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	46人 (37.7%)	どちらかといえばなった	46人 (37.7%)
どちらでもない	2人 (18.0%)	どちらかといえばならない	1人 (0.8%)
未記入	7人 (5.7%)		



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	7人 (18.9%)	少し低くなった	22人 (59.5%)
変わらない	7人 (18.9%)	少し高くなった	1人 (2.7%)
ますます高くなった	0人 (0.0%)	未記入	0人 (0.0%)



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(医師)

- ・ 枠をつくったが、魂を入れなければならない。
- ・ 全体を overview するような報告をして欲しい。

(薬剤師)

- ・ 情報共有が必要。
 - ・ 話をする機会を積極的に作る。
 - ・ 密な連携が必要である。
- 薬剤師としての仕事があることが見えて、参加してよかったと思いました。勉強になりました。

(看護師)

- ・ お医者さん、薬剤師さんの情報共有がまず必要で、その上で我々の方との共有があり、また我々と家族、利用者さんとの情報共有がほしいと思います。
- ・ それぞれの職種間での情報共有。

(社会福祉士)

- ・ 懇談会。

(介護福祉士)

- ・ 利用者、家族と介護サービスに関わる人達と話す機会を増やす。
- ・ 同じ席で顔を合わせて情報を共有する事が大事だと思った。
- ・ 相談や会議が必要だと思います。
- ・ いつもいらっしゃる Dr は同じですね。

(介護支援専門員)

- ・情報の共有（色々な職種）。
- ・定期的な意見交換の場が必要。
- ・必要な情報交換。
- ・一緒に話し合う場。
- ・やはり顔と顔が見える関係が大切だと思います。
- ・利用者、患者の情報共有。
- ・地域の医師の介護への理解。

(介護員)

- ・情報の共有。
- ・健康手帳について話が出ましたが、とても良い事だと思いました。
- ・情報の共有。
- ・介護員の立場として考えると、我々は医療的な事にはほとんど関与できません。介護員が生活的な援助をするのに対し、医療の方々はその方面で利用者の援助をするのでお互いが連携しなければ、より良い援助は出来ないと思います。

(医療関係者)

- ・情報共有。

(その他)

- ・情報共有。壁がないこと。横のつながり。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(薬剤師)

- ・薬剤師も関わっていける様な研修をお願いします。

(看護師)

- ・栄養。

(社会福祉士)

- ・今回のような内容、従事者自身がリフレッシュするような内容。（体を動かしたり）

(介護福祉士)

- ・薬局と Dr との連携がとれているように感じました。ケアマネとして有効にしていきたいと思いました。

(介護支援専門員)

- ・看取りを在宅で行う事。
- ・胃ろう造設について。
- ・ターミナルケアについて。
- ・行政制度について。

(介護員)

- ・健康手帳などの情報の共有などについて。

(その他)

- ・ヘルパーの研修（現場ヘルパー向け、サ責向け）を企画して下さい。

自由記載欄

(医師)

- ・グループワークのファシリテーターの工夫が必要。外から歩いて回るのではなく、内部に入った方が良い。

(介護福祉士)

- ・グループワークの進め方をわかりやすく記載して欲しい。(初めてお会いする方もいますので)

(行政関係者)

- ・服薬者、介護者が薬の消費期限を常に分かるように表示を工夫してもらいたい。

平成 25 年度第 6 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

アンケート調査結果

1 開催状況

- (1) 日 時 平成 26 年 3 月 1 日 (土)
13:30～15:30
 - (2) 場 所 東山地域交流センター 2階 大会議室
 - (3) 目 的 医療と介護の円滑な連携
 - (4) 対象者 医療関係者、高齢者施設従事者、介護サービス事業関係者、行政関係者等
 - (5) 参加者 40 名
 - (6) 主 催 一関市医療と介護の連携連絡会
 - (7) プログラム
-

平成 25 年度 第 6 回一関市医療と介護の連携連絡会研修会

日時：平成 26 年 3 月 1 日 (土)
13:30～15:30
場所：東山地域交流センター
2階 大会議室

次 第

1 開 会 13:30

2 挨拶

3 グループワーク 13:35～15:30

テーマ「在宅・施設での口腔ケアについて」

～医療・介護従事者がどのように対応しなければならないか～

グループワーク講師 久保田歯科医院医師 久保田 文吾 氏 13:35～14:00

グループワーク作業 14:00～15:00

プレゼンテーション、討議 15:00～15:30

4 閉 会 15:30

2 アンケートの集計結果

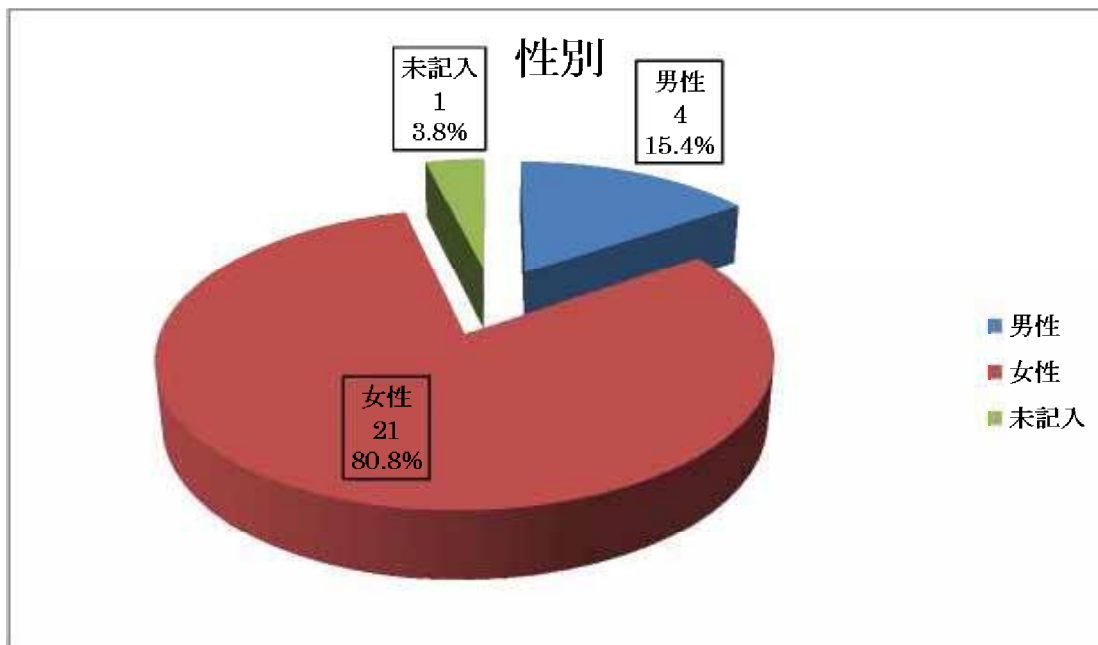
回答者数 26人 (回収率 65.0%)

質問1 性別

男性 4人 (15.4%)

女性 21人 (80.8%)

未記入 1人 (3.8%)



質問2 年齢

20歳代 2人 (7.7%)

40歳代 4人 (15.4%)

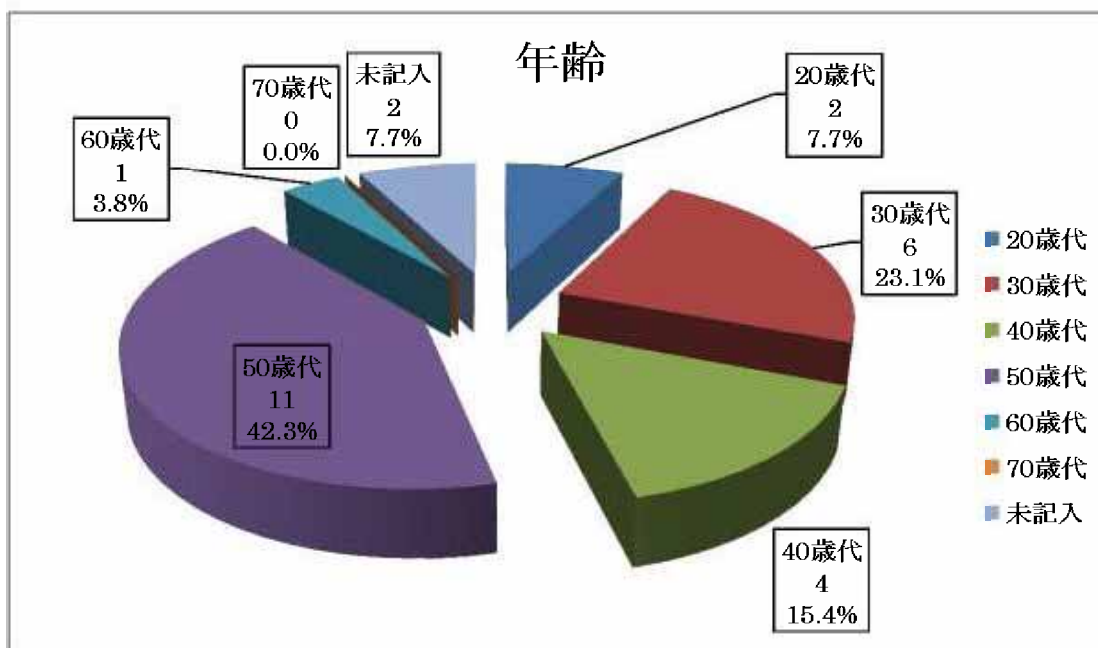
60歳代 1人 (3.8%)

未記入 2人 (7.7%)

30歳代 6人 (23.1%)

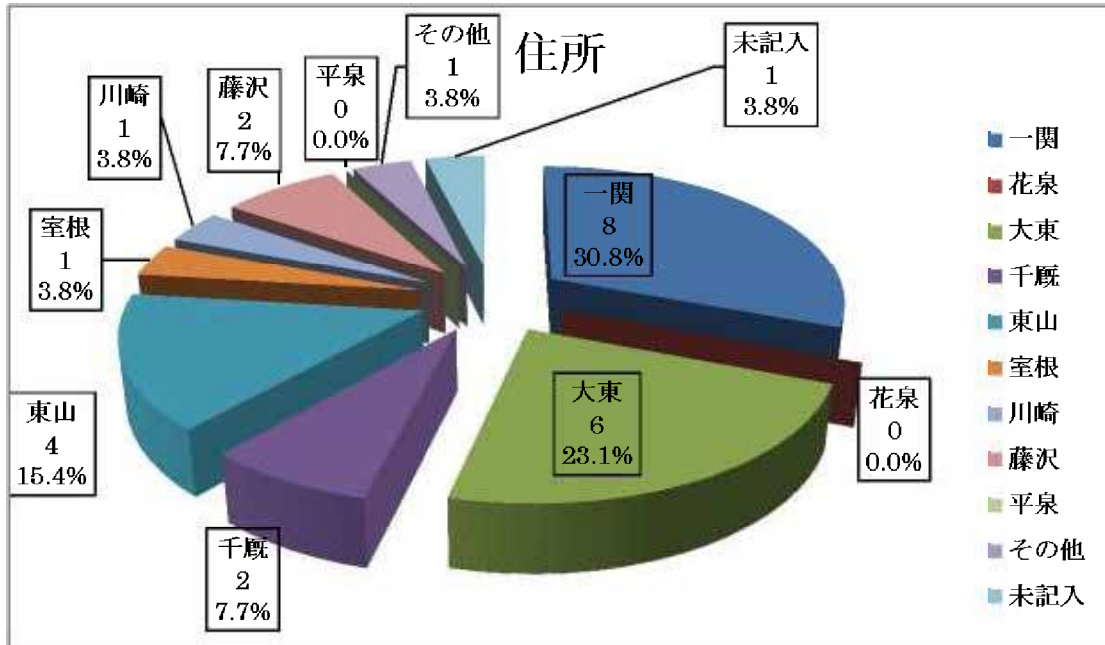
50歳代 11人 (42.3%)

70歳代 0人 (0.0%)



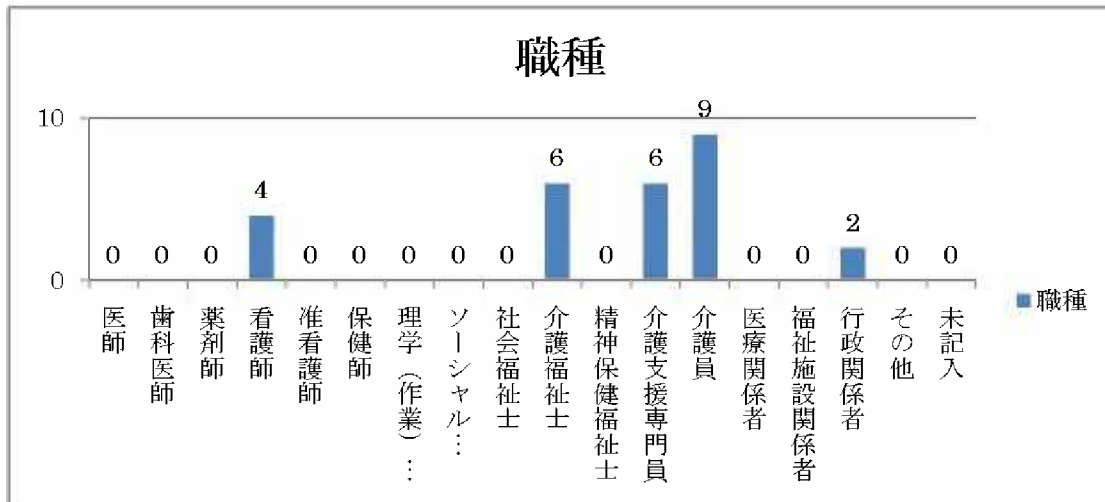
質問3 住所

一関	8人 (30.8%)	花泉	0人 (0.0%)
大東	6人 (23.1%)	千厩	2人 (7.7%)
東山	4人 (15.4%)	室根	1人 (3.8%)
川崎	1人 (3.8%)	藤沢	2人 (7.7%)
平泉	0人 (0.0%)	その他	1人 (3.8%)
未記入	1人 (3.8%)		



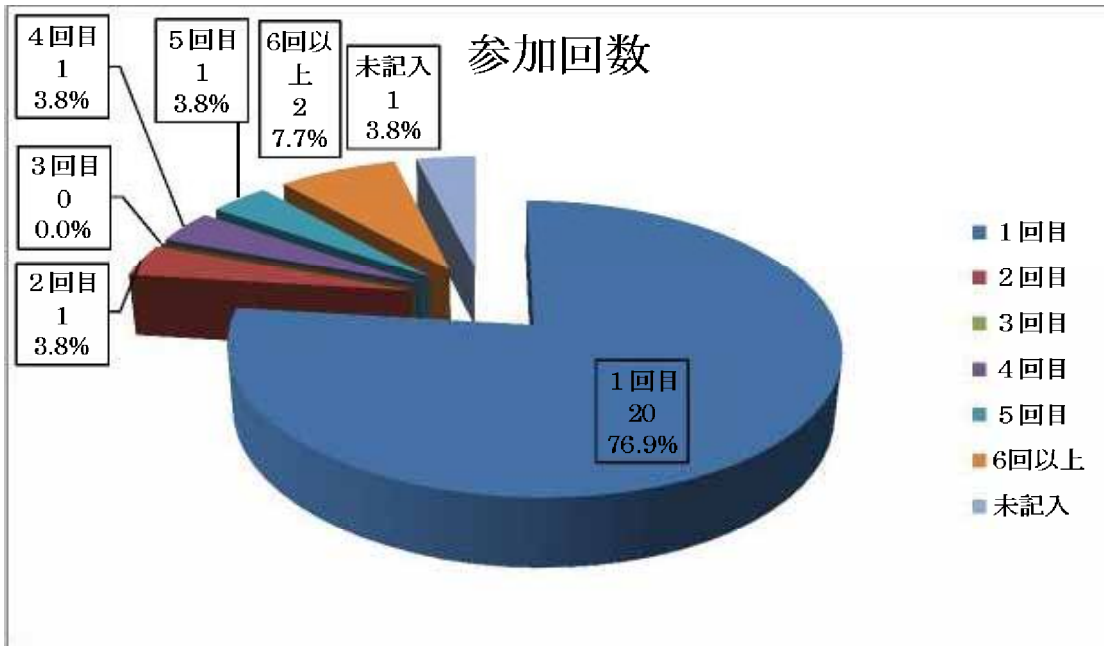
質問4 職種

医師	0人 (0.0%)	歯科医師	0人 (0.0%)
薬剤師	0人 (0.0%)	看護師	4人 (14.8%)
准看護師	0人 (0.0%)	保健師	0人 (0.0%)
理学(作業)療法士	0人 (0.0%)	ソーシャルワーカー	0人 (0.0%)
社会福祉士	0人 (0.0%)	介護福祉士	6人 (22.2%)
精神保健福祉士	0人 (0.0%)	介護支援専門員	6人 (22.2%)
介護員	9人 (33.3%)	医療関係者	0人 (0.0%)
福祉施設関係者	0人 (0.0%)	行政関係者	2人 (7.4%)
その他	0人 (0.0%)	未記入	0人 (0.0%)



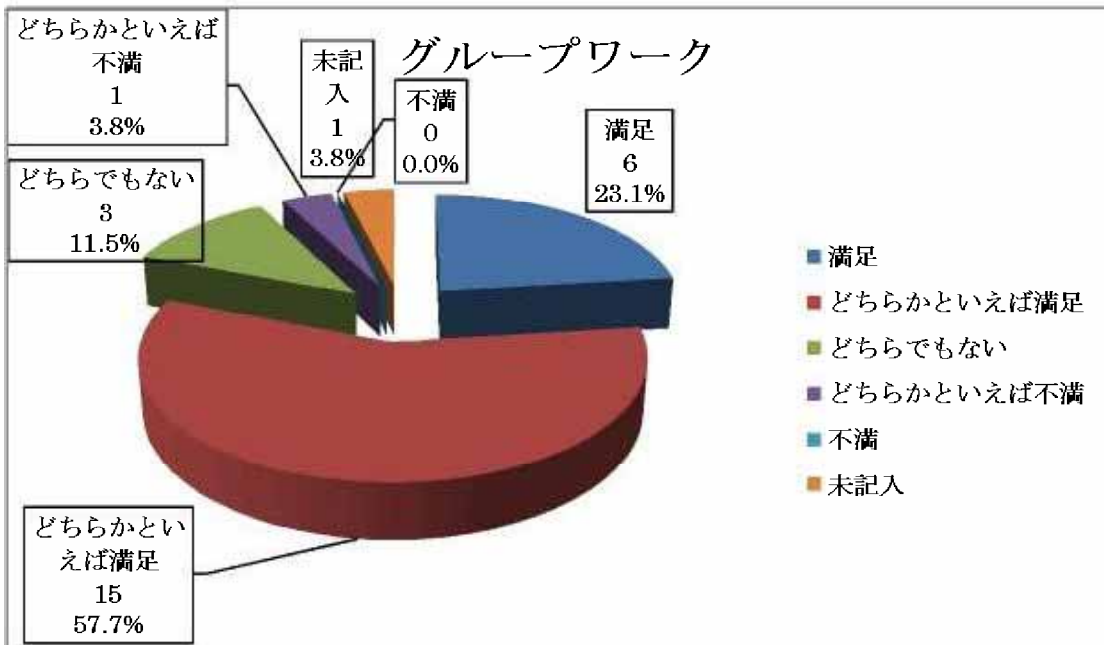
質問5 参加回数

1回目	20人 (76.9%)	2回目	1人 (3.8%)	3回目	0人 (0.0%)
4回目	1人 (3.8%)	5回目	1人 (3.8%)	6回以上	2人 (7.7%)
未記入	1人 (3.8%)				



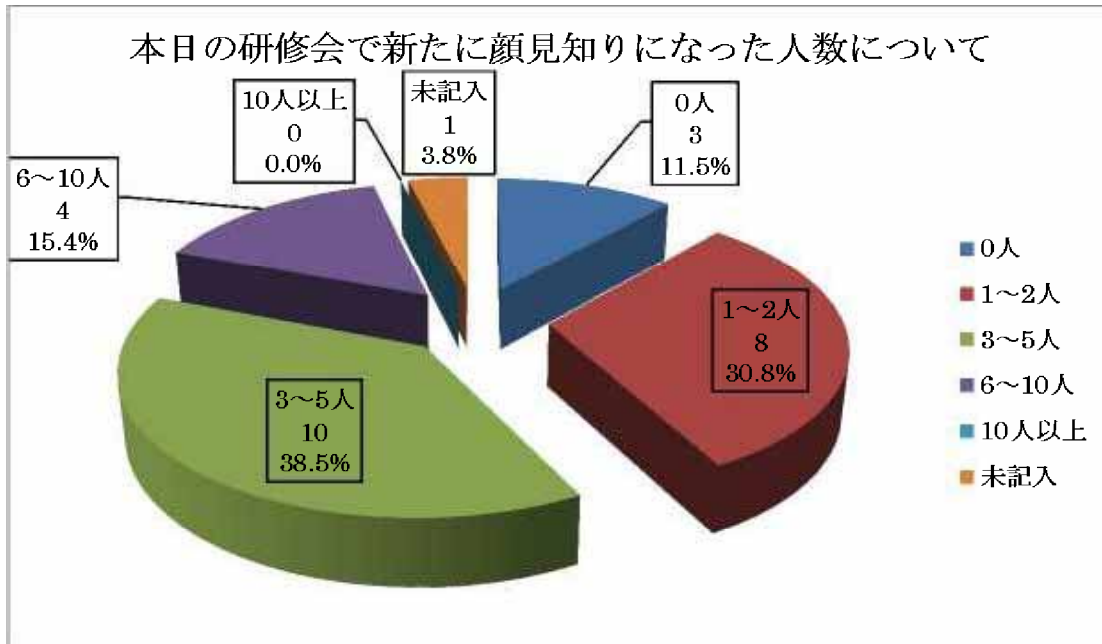
質問6 グループワークについて

満足	6人 (23.1%)	どちらかといえば満足	15人 (57.7%)
どちらでもない	3人 (11.5%)	どちらかといえば不満	1人 (3.8%)
不満	0人 (0.0%)	未記入	1人 (3.8%)



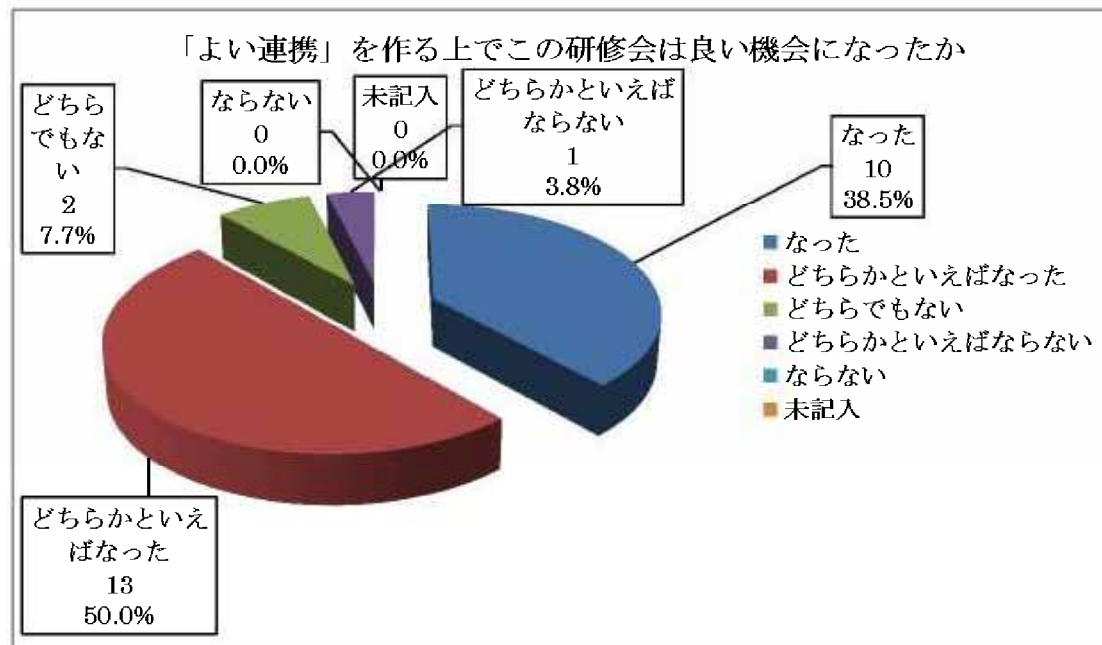
質問7 本日の研修会で新たに顔見知りになった人数について

0人	3人 (11.5%)	1~2人	8人 (30.8%)
3~5人	10人 (38.5%)	6~10人	4人 (15.4%)
10人以上	0人 (0.0%)	未記入	1人 (3.8%)



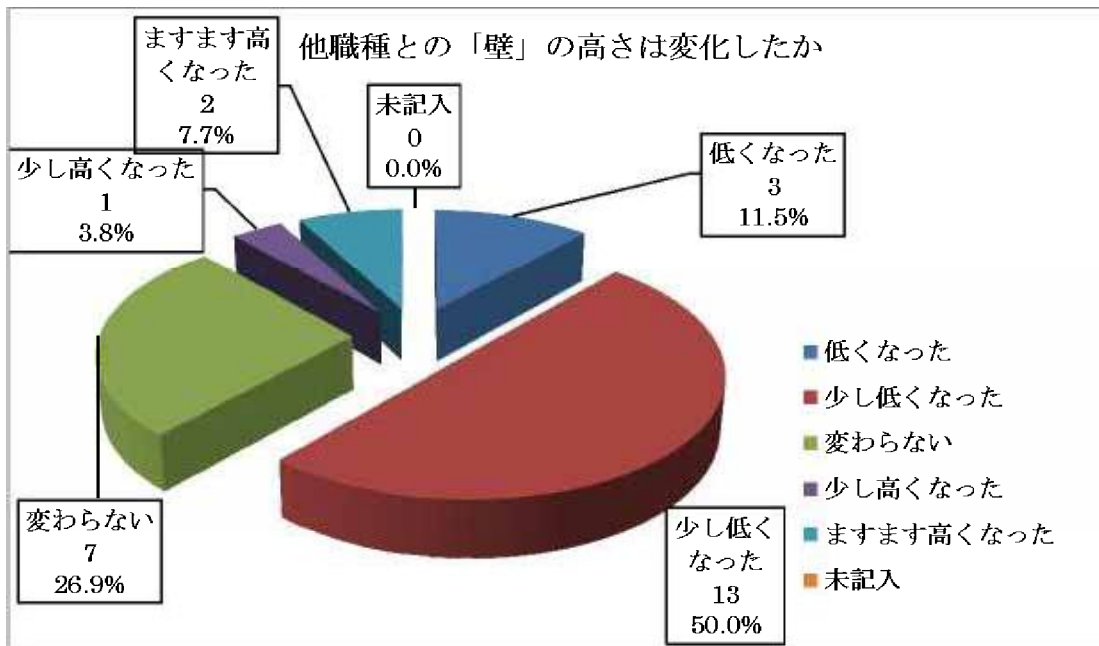
質問8 「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会になったか

なった	10人 (38.5%)	どちらかといえばなった	13人 (50.0%)
どちらでもない	2人 (7.7%)	どちらかといえばならない	1人 (3.8%)
ならない	0人 (0.0%)	未記入	0人 (0.0%)



質問9 他職種との「壁」の高さは変化したか

低くなった	3人 (11.5%)	少し低くなった	13人 (50.0%)
変わらない	7人 (26.9%)	少し高くなった	1人 (3.8%)
ますます高くなった	2人 (7.7%)	未記入	0人 (0.0%)



質問10 医療と介護の連携に必要なことは何だと思えますか？ご意見をお聞かせ下さい。

(看護師)

- ・ 細かな情報の報告、連絡、相談をしていく事。
- ・ 健康診断も必要な事だけれども口腔ケア、口の働きなど日々の事なので継続し介助に当たりたいと思います。知識を得て視野も増やしていきたいと思います。

(介護福祉士)

- ・ もう少しゆっくり説明、考える時間が欲しかったように思います。結果的にモヤモヤで終わってしまいちょっと残念でした。
- ・ お互いを尊重し、理解しようと思う気持ち。

(介護支援専門員)

- ・ お互いの職種の技術を出し合うことで、理解が深められることだと思います。

(介護員)

- ・ 情報の共有。
- ・ 施設への訪問など多くしてほしいと思います。
- ・ 会話をすること。
- ・ 報告、連絡、相談がやっぱり必要と感じました。

(行政関係者)

- ・ 継続的な多職種研修。

質問 11 一関市で取り組んでほしいことや、医療と介護の連携連絡会等で希望する研修内容やテーマをお聞かせ下さい。

(看護師)

- ・看取りについて。
- ・楽しんで参加出来る運動レクやストレッチなど。

(介護支援専門員)

- ・今後も継続して欲しいです。

(介護員)

- ・口腔体操。

自由記載欄

(介護福祉士)

- ・食べることによってイキイキする。
口の環境を整えて食べる楽しみを引き出すお手伝い → 口腔ケア

(介護員)

- ・口腔状態に合ったケア方法が分からない。
- ・問題点は沢山出たが解決にはならなかったのが残念です。

医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

文・一関医師会理事 寺崎公二

加 速する少子高齢化

市の高齢化率（65歳以上の人口比率）は昨年10月に30%を超え、岩手県の27.9%、全国の24.1%を上回っています。今後20年、要介護者や認知症患者は増加すると見込まれており、地域での医療から介護まで継続したサービスの提供が求められています。核家族化や夫婦共働き家族の増加に加え、保護者の専門医志向、コンビニ受診などの影響で、休日・夜間救急医療や小児救急医療は病院勤務医の大きな負担となっています。

限 られた医療資源

平成22年の本市の「人口10万人当たりの医師数」は181.2人。岩手県の219.7人、全国の230.4人に比べ医師不足が深刻であり、かつて地域で完結していた小児科、産科、呼吸器科、血液内科などは厳しい診療体制を強いられています。また、かかりつけ医の多くは地域住民の診療に加え、▶往診▶訪問診療▶救急当番医▶施設嘱託医—など多岐にわたる業務に従事しています。休日当番医、小児・成人夜間救急に参加している医師の平均年齢は58.4歳と高齢化が進んでいます。

少子高齢化に伴い地域で求められるニーズが多様になる中で、市民が健康で自立した生活を送るためには、限られた医療資源を有効に活用して医療機関、介護サービス事業所、行政、住民がそれぞれの役割を担い、地域医療体制の充実を図っていくことが重要です。

か かりつけ医ガイドブックの活用

「かかりつけ医ガイドブック」が今年3月、市内全世帯に配布されました。ガイドブックには市内全ての▶診療所▶病院▶歯科医療機関▶調剤薬局—が掲載されています。また、救急医療については、▶病状からチャート式で小児救急受診の判断を示した手引き▶心肺蘇生法▶救急車を要請するときの病状の「安」▶夜間小児と電話相談の利用促進—など、家庭で活用できる情報を盛り込みました。医療機関受診や救急医療の適正受診に活用してください。

上 手な医療機関のかかり方

かかりつけ医は比較的軽症の患者の初期診療、日常的な病気や生活習慣病、安定した慢性疾患の診療に加え、往診、訪問診療、在宅での看取りや介護サービスとの連携なども担当しています。また、病院は専門の医療設備を整備し、中度～重度の主に入院を要する患者の治療を行います。それぞれの医療機関の役割を理解して適切に利用しましょう。

次のことに協力してください。①健康管理を心がける②健康診断を受ける③診療時間内に受診する④休日や夜間の受診は当番医を利用する⑤お薬手帳を持つ—など、皆さんの意識で、医療機関の負担は軽減します。一人一人ができることから始め、地域医療を守りましょう。

●本庁健康づくり課 ☎ 2160



●お詫びと訂正：本誌5月15日号9ページ文中「無形録」は「無刑録」の誤りでした。お詫びして訂正します。

＊2回目以降の試験は左記まで
 ●保健福祉環境部保健福祉環境センターまたは県庁自然保護課 ☎ 019-6295371

交通災害共済へ加入を
 交通災害共済は、県民対象の共済制度です。
 ◇対象：県民または就学や単身赴任などで県外在住の人
 ◇共済掛金：年額1人400円
 ◇加入方法：9月30日①までに取扱い金融機関の窓口へ（以降は本庁生活環境課または各支所

市民課で受け付け）
 ＊共済期間、見舞金など詳しくは左記まで
 ●本庁生活環境課 ☎ 8342 または各支所市民課

水位情報テレホンサービス
 を廃止します
 川崎支所が行う北上川や砂鉄川の水位情報テレホンサービスを7月1日①から廃止します。河川の水位や雨量の情報は、テレビのデジタル放送で確認できます。チャンネルをNHKに合

わせ、リモコンの「dボタン」を押して「くらし安全」を選択してください。国土交通省のホームページからも確認できます。
 ●川崎支所地域振興課 ☎ 2111

いよいよプールがオープン
 初日は無料開放します
 ●一関水泳プール
 ◇利用期間：6月29日①～9月8日①0時～19時
 ◇利用料：就学前50円、高校生以下100円、一般200円

●花泉水泳プール
 ＊利用期間、利用料は一関水泳プールに同じ
 ●東山B&G海洋センター
 ◇利用期間：6月22日①～9月8日①9時～21時（毎週①定休日）※6月22日①は17時まで
 ◇利用料：高校生以下100円、一般200円
 ●一関水泳プール ☎ 8020（期間内）または一関市総合体育館 ☎ 3111（期間外）●花夢バル ☎ 1086 ●東山総合体育館 ☎ 1141

News Frash




5/25 優秀な自衛官の採用に期待 市内24人の自衛官募集相談員に委託状交付

市と自衛隊岩手地方協力本部は、24人に自衛官募集相談員の委託状を交付しました。相談員は優秀な自衛官採用に向け、情報提供や広報活動を行います。
 【一関】佐藤寛一、村上文吾、伊藤定子、千葉親、佐々木希、神崎浩之、佐藤徳男、西田泰

樹、氏家栄悦【花泉】稲邊勝郎、小野寺友雄【大東】小野寺康美、佐藤兵七、小山耕一【千歳】菅原恵次さん、菅野富彦【東山】吉田泰夫、佐藤喜一【室根】岩瀬一司、芳賀武雄【川崎】滝澤政司、千葉康弘【藤沢】島山正一、阿部桃紅（以上敬称略）

●6月15日号のお詫びと訂正：6月15日号の「医療と介護の窓」の誤りがありました。お詫びして訂正します。(誤)一関医師会 (正)一関市医師会



医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

文・一関歯科医師会会長 久保田文吾

□のはたらき
口は食べ物や液体を身体に取り入れる入口です。口の中に入った食べ物は、よくかみだ液と混ぜ合わせた状態で喉に送られます。口や歯が十分に働かなければ、うまく食事ができません。また、唇、舌、頬や歯などを使って、「言葉」でコミュニケーションすることができます。歯がなかったり、麻痺したりしていると、言葉が不明瞭になります。その他に表情をつくる、息をするなど、口は生きることに密接に関わり、生きる力を支える重要な役割を果たしてくれます。普段、ほとんど意識することがなくても、一度不都合が生じると途端に大きな不便を感じるようになります。

体が健康な状態であれば、口の中に何か異常があればすぐに受診して完治させることができます。定期的な口の中をチェックしたり、クリーニングしたりする人も多いでしょう。ところが体が不自由になり通院が困難になると、むし歯や歯周病が放置された状態になったり、入れ歯が壊れて合わなくなってしまうことも少なくありません。歯みがきなど日々のケアも十分にできなくなり、口の中の汚れや口臭の悪化が進んでいくことになります。

誤 うまく飲み込むことができないと気管へ食べ物が入ったり、だ液が入ったりすることがあります。65歳以上の主な死因の一つは肺炎です。口の中が不潔だと、食べ物やだ液と共に菌も肺へ送られて肺炎の原因になるからです。特に体力の低下している寝たきりの高齢者などは、口の中を常に清潔に保つことがとても重要です。

家 歯科医院に通院できない在宅の寝たきりの人を対象に、市は歯科医師会と共に家庭訪問歯科診療に取り組んでいます。本人または家族が電話などで保健センターに訪問歯科診療の申し込みをします。それを受けた保健師が家庭を訪問し、健康チェックや希望歯科医師などを伺います。その後、歯科医師が訪問して歯科健康診査や訪問歯科診療を行います。口のトラブルはぜひ、かかりつけの歯科医師または保健センターに相談ください。

●本庁健康づくり課 ☎ 2160

市営住宅など入居案内 ●本庁建築住宅課 ☎ 8532 または各支所建設課

地域	募集する住宅
大東	掘沢駅前特定公共賃貸住宅6号 ①木造2階建2階②H13③1DK ④28,000円⑤単身用
	掘沢駅前特定公共賃貸住宅8号 ①木造2階建2階②H13③1DK ④28,000円⑤単身用
	山谷特定公共賃貸住宅35号 ①木造平家②H20③3DK ④48,000円⑤単身不可

■募集期間：8月1日④～9日⑤(③除く)
 ■入居資格：…同居の親族がいる(①②)は半額以上の収入証明書の交付を受けた人を除く
 ■収入が基準に該当している・住宅に困っている・市税などを滞納していない・暴力団員ではないの要件を全て満たしている人
 ■抽選会：8月20日④10時～
 ■会場：大東支所2階会議室、東山支所2階第2会議室

広報いちのせき「I-Style」7月15日号の印刷経費は1部31円です

- 高齢受給者証の有効期限は7月31日です。7月下旬に新しい高齢受給者証を郵送します。
- 後期高齢医療制度について
- ◇保険証の更新：現在使っている保険証の有効期限は7月31日です。8月1日から使用する保険証は、7月下旬に送付します。
- ◇25年度の保険料額が決定：7月中旬、加入者に「保険料額決定通知書」を送付します。普通徴収の人には納入通知書も送付します。
- 本庁国保年金課 ☎ 8343 または各支所市民課
- サイレンにあわせて黙とうを
 広島と長崎の原爆死没者の慰霊式と平和祈念式典「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に合わせ、サイレンを吹鳴します。その1分間の黙とうをお願いします。
- ◇日時：①8月6日②8時15分～③9日④11時2分～⑤15日⑥12時
- 本庁児童福祉課福祉企画係 ☎ 8352
- リサイクル品を抽選販売します
 市内または平泉町在住の人を対象に、リサイクル品を抽選販売します。詳しくは問い合わせください。
- ◇受付期間：8月1日④～28日⑤9時～16時(⑥除く)
- ◇抽選日時・会場：8月30日④
- 10時30分～一関清掃センター
 ●一関清掃センター ☎ 2157
- 介護保険サービスの
 利用者負担額を軽減します
 介護保険サービス(訪問介護、通所介護、特別養護老人ホームなど)の利用者負担額が4分の1または2分の1に軽減されます。対象要件、対象事業所や申請方法については問い合わせください。
- 本庁社会福祉課 ☎ 8370 または各支所保健福祉課
- クマに注意してください
 県内でクマによる人身被害が増えています。山に入るとき、山の近くで作業するときは注意してください。
- 本庁農地林務課 ☎ 2111
- 市長・市議選の
 立候補予定者説明会
 9月29日執行予定の一関市長選挙および一関市議会議員選挙の立候補予定者説明会を開催します。
- ◇日時・会場：8月8日④14時～16時30分・市役所本庁2階大会議室
- 市選挙管理委員会事務局 ☎ 2111 (内8680)
- 毎月勤労統計調査特別調査に
 協力してください
 厚生労働省は、常用労働者1～4人を雇用している事業所を対象に調査を実施します。賃金、労働時間などを明らかにする必要があります。対象事業所には、8月9日に調査員が伺います。
- 県庁調査統計課 019-629-5306
- 電子証明の発行・更新が
 一時的にできなくなります
 7月29日④、30日④の両日、公的個人認証システムの更新のため、本庁と千原・藤沢支所市民課での電子証明の発行や更新などの業務ができません。交付を希望する人は、上記以外の業務日に手続してください。
- 本庁市民課 ☎ 8310

●お詫びと訂正：本誌7月15日号33ページの「小学生卓球」の名前に誤りがありました。お詫びして訂正します。(○)市内単社くん (正)堀川単社くん

医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

文・一関薬剤師会会長 小笠原啓夫

一関薬剤師会の薬剤師は病院、診療所、調剤薬局、市販薬を販売している薬局、保健所、問屋などで仕事をしています。主に病院や診療所の医師が出した処方せんの薬を調剤し、処方せんの薬の量、薬の使い方や併用薬を確認。患者さんから質問や医師に伝え忘れたことなどを聞いて、その内容を医師にフィードバックしています。常に患者さんを気遣っているのです。

お薬手帳の重要性に「併用薬の確認」が挙げられます。最近ではジェネリック医薬品(後発医薬品)が多く使用されているため、薬品名が違っていても同じ成分の場合もあります。救急で受診した時に服用薬の確認ができると、重複して服用することを避けられます。お薬手帳を作成し、病院、診療所、調剤薬局に必ず持参してください。

薬剤師は薬に関してだけでなく、生活習慣病、食生活、高齢



毎年7月に開かれる「いちのせき健康まつり」での「くすりのなんでも相談」。「併用薬率測定」とならんで大好評のコーナー。

者の在宅医療などの相談にも応じています。そのため、毎月2回ほど、さまざまな分野の専門家を迎えて研修会を行っています。

また、東日本大震災以後は大船渡市・陸前高田市の病院の支援や仮設住宅へ訪問などボランティア活動にも力を入れています。

市内に勤務する私たち薬剤師は、市民の皆さんの健康の維持増進を願っています。薬に関する相談はもちろん、気軽に声をかけてください。

●本庁健康づくり課 ☎ 2160

下水道不明水調査を実施しています

下水道管への不明水の浸入を早期発見するための調査作業を行っています。調査時は道路交通規制がかかったり、市の腕章と身分証明書を携帯した調査員が敷地内に立ち入ったりします。
◇調査期間…9月24日④まで
◇調査地域…中里、山目区域 ※対象は右図の青色した範囲の地域
●本庁下水道課 ☎ 8584



作業する▼こまめな休憩、水分、塩分を補給▼屋内では風通しを良くし、換気する
◇熱中症の応急処置：▼涼しい場所に避難▼衣服を脱がせ、身体を冷やす▼水分を補給 ※意識がない場合は、すぐに救急車を呼んでください
●本庁農政課 ☎ 8427 または各支所産業経済課

を発表します。
◇特別警報：警報の発表基準をはるかに超える現象に対して発表します。(例)平成23年台風第12号による豪雨、東日本大震災における地震や津波など
◇特別警報が発表されたら：▼避難所へ避難▼屋外が危険な場合は、屋内の安全な場所に留まる。など、身を守るために最善を尽くしてください
◇発表開始：8月30日(金)～(予定)
●気象庁盛岡地方気象台防災業務課 ☎ 019-622-7870

一関市防災行政情報システムの整備・運用について

市は、市内全域に一気に防災情報や行政情報を発信する新しいシステムの整備を進めています。平成27年4月の全域運用に向けて現在、屋外マストなどの工事を行っています。本年9月1日以降は、新設および改修された屋外マストの運用が始まります。ただし、全域運用開始までの「過渡期」は、地域によっては「時報」や「行政情報」が既存のマストとは違う場合もありますので承知ください。詳しくは下記まで。

●【マスト、設備など】消防本部消防課 ☎ 5912 / 【時報・行政情報など】本庁市政情報課 ☎ 8182

解体のことならお任せください。一般住宅・車庫・物置・倉庫から工場まで
廃棄物のリサイクル・中間処理も自社で行っております。
●コンクリート・アスファルト廃材の受入れ・再生砕石の生産
○再生砕石の販売【土壌改良剤m³あたり1,000円(税込)】
●41ダンプ1台あたり(運搬込み) 一関地区 4,725円(税込)
●廃木材(解体材)・パレット類・伐根等 受入れ・チップ化
○環境にやさしいチップ化で、ボード原料・燃料化を促進しています。お問い合わせ
有限会社 中村解体 URL http://n-kaitai.ftw.jp/

月極め駐車場
1か月5,250円 (消費税込み)
一関市新山2-1
駅から歩いて5分
お申し込みは プロフィット企画 ☎ 0191-31-3076

広報いちのせき「I-Style」8月15日号の印刷経費は1部31円です

●9月は介護保険料普通徴収第2期の納期：納期限は9月30日0時です。納付は口座振替が便利です。一関地区広域行政組合 ☎ 3223

医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

文・岩手県看護協会一関地区支部長 佐藤信一

近年、高齢化率が21%を超える「超高齢社会」が全国的に増えています。一関市の高齢化率(65歳以上の人口比率)は昨年10月、30%を超えました。高齢化は、一人暮らし世帯の増加や家族形態の変化などを引き起こします。医療現場では「医療と介護の在り方」が重要視されています。

「少子高齢化」が急に進み、「多死社会」(少子高齢多死社会)を迎えている現在、疾病構造の変化により、慢性疾患や複数の病気になる患者が増え、医療介護の需要が急増すると予測されています。

このようなことを踏まえ、一関市と平泉町は「一関市医療と介護の連携連絡会」で医療介護、歯科、行政がそれぞれ果たすべき役割を考えた取り組みを始めています。

適切な医療を提供するためには、これから増すであろう医

療の需要に対し、供給を合わせなくてはなりません。現在、日本の看護職人口は147万人です。看護職は全国的に増加傾向にありますが、18歳人口の減少に合わせて看護師不足が懸念されています。

看護師の「使命」は、病氣と闘う患者や家族を尊重し、患者の心と身体を両方をサポートすること。「魅力」は、患者が自分らしく生き生きと輝くための手伝いができることです。

看護師になるためには①高卒後に「看護大学」「看護短期大学」「看護専門学校」(昼間3年)のいずれかを卒業して国家資格を取得する②高卒後に「准看護学校」を卒業して准看護師の免許を取得する一のいずれかです。

看護協会は、看護職再就業支援、潜在看護職員の復職、働き続けられる職場環境の改善支援などを行い、看護師の確保につながる活動をしています。古里の地域医療をこれからも守っていくために、看護師を目指す人が増えることを願っています。

●本庁健康づくり課 ☎ 2160

市営住宅など入居案内

地域	番号	募集する住宅
大東	①	大明神団地42号 ※身体障がい者専用住宅(選考基準あり) ①木造平家②H9③3DK ④29,000円～43,100円⑤単身不可
	②	摺沢駅前特定公共賃貸住宅6号 ①木造2階建2戸②113③1DK ④28,000円⑤単身用
	③	摺沢駅前特定公共賃貸住宅8号 ①木造2階建2階②H13③1DK ④28,000円⑤単身用
東山	④	山谷特定公共賃貸住宅35号 ①木造平家②H20③3DK ④48,000円⑤単身不可

- ◇募集期間…10月1日④～10日①②③④
- ◇入居資格…①同居の親族がいる(①②半端以上のり災証明書交付を受けた人を除く)②収入が基準に該当している
- ③住宅に困っている④市税などを滞納していない⑤暴力団員でないこと一を全て満たしている人
- ◇抽選会日時…10月21日 10:00～
- ◇会場…①②③ 潤い活力プラザ2階ギャラリー1
- ④ 東山支所2階第2会議室
- 本庁建築住宅課 ☎ 8532 または各支所建設課

でに引き取りできる市内、平泉町に居住する小学生以上の人
◇申し込み：直接来館して申し込んでください。※電話不可
●一関清掃センター ☎ 2157

一定以上の土地取引は届け出が必要ですが、一定面積以上の土地を購入した場合、国土利用計画法に基づく届け出が必要です。土地売買契約を締結した日から2週間以内に、届け出してください。

◇届け出が必要な面積：①都市計画区域内・5000平方メートル以上 ②都市計画区域外・1万平方メートル以上

※購入したそれぞれの土地の合計が上記の面積を超える場合も届け出が必要。また、都市計画区域内で1万平方メートル以上の土地を取り引きする場合には、別に定

める法律による事前の届け出が必要ですが
●企画調整課 ☎ 8641

市排水設備指定工事店の新規指定申請を受け付けます
◇受付期間：10月1日④～10月18日④(①②③を除く、8時30分～17時15分)

◇申請方法：所定の申請書を直接提出してください

◇対象者：①営業所ごとに、専属の排水設備工事責任技術者が1人以上いる ②工事の施工に必要な機械器具を有している ③県内に排水設備工事店の営業所を有する ④法律上の行為能力が認められていないなどの欠格要件に該当しない一を全て満たす業者

※詳しくは問い合わせください
●下水道課普及係 ☎ 8582

解体のことならお任せください。一般住宅・車庫・物置・倉庫から工場まで

廃棄物のリサイクル・中間処理も自社で行っており、見積無料

- コンクリート・アスファルト廃材の受入れ・再生砕石の生産
- 再生砕石の販売 [土曜値下げ] 1,050円(税込)
- 例 4t ダンプ1台あたり(運搬込み) 一関地区 4,725円(税込)
- 廃木材(解体材・パレット類・伐根等)受入れ・チップ化
- 環境にやさしいチップ化で、ボード原料・燃料化を促進しています。

有限会社 中村解体 URL <http://n-kaitai.ftw.jp/>

准看護師から看護師へ

●東北福祉大学の施設を活用した技師の教育環境 ●安心・納得の学費

学校説明会日程 ☎ 14:00～16:00

10/6 奥州会場 ●奥州市文化会館2ホール

11/10 釜石会場 ●釜石ベイシティホテル

出願期間

【第2次】10月1日(火)～10月14日(月・祝)

【第3次】12月24日(火)～25年1月13日(月・祝)

TEL ☎ 022-727-2422 FAX ☎ 022-727-2423

URL ☎ <http://www.tfu.ac.net/tfu/>

医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～



文・県立磐井病院院長 加藤博孝

かかりつけ医をもちましよう

医療の高度化・複雑化によって、一つの病院で全ての医療を行うことは難しくなっています。そのため、それぞれの医療機関が機能を分担することが必要です。市内の医療機関をまとめて「一つの病院」として考えれば、当院は「手術室」と「病棟」の役割を果たしています。

上手な病院のかかりかたは①外来を担当する「かかりつけ医」を受診②手術や入院が必要な人は当院に紹介してもらい③当院で手術など必要な処置を受ける一です。

普段から健康状態を把握し、病気のことならなんでも相談できる「かかりつけ医」を持つことが大切なのです。

退院調整看護師が活躍

退院調整看護師は、退院後も病気や障害などと向き合っ
て生活していく人のサポートをする看護師のことで、他
の医療機関や介護施設などと連携して、退院後のより良い
生活のために活躍しています。

次世代の医療者を育てています

当院は県の臨床研修病院群(いわてイーハートウグ臨床研
修病院群)の「臨床研修指定病院」の一つとして、新しい医
師を育てており、現在、当院では医師の道を歩み始めた12
人の初期臨床研修医が研さんを重ねています。

また、医師以外にも医学生、薬学生や看護学生などの実
習も積極的に受け入れを行い、地域医療を守るため「次世
代の医療者」の育成に真剣に取り組んでいます。

☎健康づくり課(一関保健センター内) ☎ 2160

11月9日(土)・15日(金)は
秋季全国火災予防運動
各消防署・分署は「消防防
談窓口」を開設します。
◇3つの習慣：①寝たばこは
しない②ストーブは燃えやす
いものから離れた位置で③ガ
スこんろなどのそばを離れる
ときは火を消す

秋の一斉清掃を実施します
10月20日(土)を中心に、市内
全域で実施します。
※家庭ごみは、通常の収集日に
④本庁生活環境課 ☎ 8334
1または各支所市民課

秋の農作業安全月間
▼一人で作業しない▼家族
に場所と帰宅時刻を伝える▼
農機具の点検整備時はエンジ
ンを停止▼誰でもエンジンを
停止できるように、スイッチの場
所を知らせておく▼などして、
事故を防止しましょう。
④本庁農政課 ☎ 8427ま
たは各支所産業経済課

お知らせ

◇内容：多重債務、離婚や相
続などくらしとお金の相談
④消費者信用生活協同組合 ☎
0120・101・978

11月は児童虐待防止推進月間
「最近、様子がおかしい」と
いう児童や親子はいません
か。虐待を受けている可能性
があります。気になる点が
あった場合は、左記へ連絡し
てください。
④児童相談所 ☎ 20560、
児童福祉課 ☎ 8361また
は各支所保健福祉課

11月は児童虐待防止推進月間
「最近、様子がおかしい」と
いう児童や親子はいません
か。虐待を受けている可能性
があります。気になる点が
あった場合は、左記へ連絡し
てください。
④児童相談所 ☎ 20560、
児童福祉課 ☎ 8361また
は各支所保健福祉課

住民票の内容の確認を
厳美・萩荘・舞川・弥栄地区、
東山町、室根町、川崎町の世
帯に調査票を送付します。調
査内容は①住所②世帯全員
の氏名(ふりがな)③生年月日
④性別⑤世帯主との続柄⑥本
籍および世帯主の続柄(外国
籍の場合は、国籍・地域、在
留資格等の確認)です。本
年度から外国籍の人も対象に
なりました。内容に誤りがあ
る場合は訂正し、同封の返信
用封筒で返送してください。
④本庁市民課 ☎ 8310、
東山・室根・川崎支所市民課

◇4つの対策：①住宅用火災
警報器を設置②寝具、衣類や
カーテンは防炎品を使用③住
宅用火器を設置④隣近所の
協力体制を作る
④消防本部予防課 ☎ 591
1または各消防署、分署

※広告に関するお問い合わせは、岩手
日日新聞社 ☎ 5111まで。

月極め駐車場
1か月5,250円
(消費税込み)
一関市新山2-1
駅から歩いて5分
プロフィット企画 ☎ 0191-31-3076

郷の家
一関モデルハウス
AM10:00～PM5:00
一関市中區南町1-1-2
お気軽にお越し下さい
EC南部コーポレーション株式会社 ☎ 0191-23-3578

●11月の納税：11月は国民健康保険税5期の納付月です。納期限は12月2日⑩です。納期限内に納付しましょう。一関市納税貯蓄組合連合会

医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

回復リハビリ病棟

県立千蔵病院5階に7月1日、回復リハビリ病棟を開設しました。これは県立大東病院の機能が当院に移管されたものです。スタッフは9人。リハビリ病棟へのより迅速な患者の受け入れにより、早期の在宅・社会復帰を目指します。

高齢化が進む現在、脳血管疾患などの人が社会復帰を果たすためのリハビリ部門の充実は必要不可欠です。東磐井地区と沿岸南部にはリハビリ施設がなく、当院のリハビリ部門が果たす役割は大きいと考えています。

在宅医療の推進

回復期リハビリの次に位置するのが、在宅の維持期リハビリです。リハビリを含めた在宅医療は、各部門の医療スタッフと、訪問看護ステーションやケアマネージャーなど多くの医療関係者との協力が大切です。世間では「支える年代」の減少が問題視されています。医療機関も同様で、在宅医療の管理力を向上させることが今後の大きな課題です。患者と医療機関の情報交換をさらに密にして、在宅医療の推進を目指します。

基幹病院との連携

回復期病棟を有効に活用するためには、急性期の治療を迅速かつ確実に行わなければなりません。当院は、救急隊との連携による病態別の救急患者のトリアージなどによって、治療開始の遅滞を防いでいます。急性期治療には、当院で対応できるものとできないものがあります。地域の皆さんの正しい理解と協力が必要です。次世代の医療を担う人材の育成

当院は、地元中高生の実習を受け入れています。たくさんの人に医療現場を理解してもらい、医療機関への就職を希望する人が増えるよう願っています。

●健康づくり課(一関保健センター内) ☎ 2160

金など詳しくは左記へ
 ●千蔵アイスアリーナ ☎ 4568
 12月1日からサンアビの利用申請変更(障がい者等を除く) 毎月1日(祝・休館日は翌日)の申請が交わります。これまで利用日は、先着順で決定しましたが、12月1日⑩の受け付け(26年1月利用分)から、到着順にかかわらず受け付けを9時開始にします。希望日が重なった場合は抽選です。インターネット受け付けと2日目以降の利用申請は変更

わりません。詳しくは左記へ。
 ●サン・アビリティーズ 一関 ☎ 2162
 狩猟が解禁されます
 この時期、山林に立ち入る場合は、目立つ色の服を着るなどして、事故に遭わないよう注意してください。「網」や「わな」の標識の周辺には近付かないでください。休猟区の範囲などについては、県ホームページまたは左記へ。
 ◇期間：11月15日⑩～26年2月15日⑩ *鹿は3月31日⑩まで
 ●一関保健福祉環境センター ☎ 1412

農業用廃プラスチックを回収
 ◇回収対象：塩化ビニール、ポリエチレン、サイレージ用ラップフィルムなど
 「JAいわて南管内」
 ◇日時・場所：12月1日⑩・JAいわて南中央営農経済センター、花泉営農経済センター
 「JAいわて東管内」
 ◇日時・場所：12月13日⑩・JAいわて東東部園芸センター、南部園芸センター、室根営農センター
 *時間はいずれも9時～15時、詳しく

くは各農協・農家組合長から配布されるチラシで確認してください
 ●JAいわて南経済課 ☎ 3009、JAいわて東農政対策課 ☎ 3312または農政課 ☎ 8427
 住宅リフォーム助成事業の要件を一部緩和します
 ◇対象：7月26日から28日に発生した大雨・洪水で被災した住宅
 ◇要件：工事着手後の申請も可、建築経過年数を問わず
 ●本庁建築住宅課 ☎ 8532または各支所建設課

広告に関するお問い合わせは、岩手日日新聞社 ☎ 5111まで。



2014 春のブライダルコレクション *Bridal Collection*

新作ドレス大展示会

2013.12/1 sun - 24 tue 10:00-18:30 [水曜日定休]

ブライダルサロン 七福人

衣装合わせ予約制 [右記の時間帯でご予約下さい] ■10:00~ ■13:00~ ■16:00~



Bridal Salon SHICHIFUKUJIN

ブライダルサロン七福人

F023-0203 岩手県南水産総合振興センター44-1
 ☎0120-188-500
 TEL0197-23-8555
 info@bs-shichifukujin.com
 http://www.bs-shichifukujin.com
 ●フットスタジアム プリエ
 ●ビューティーサロン フェリス光臨

●お詫びと訂正…本誌11月15日号31ページ掲載の「医療と介護の窓」熟者氏名が未掲載でした。お詫びして訂正します。執筆者は「県立千歳病院院長 吉田徹」さんです。

医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

文・一関市国保藤沢病院病院事業管理者 佐藤元美

インフルエンザ流行期の面会について (一関市国保藤沢病院の取り組み)

昨年、一関市国保藤沢病院病棟内でインフルエンザが小流行しました。入院中の患者さんは脆弱なため、インフルエンザから肺炎になりやすく、重症化する危険があります。病院では、病棟での流行を防ぎ、万一流行した場合でも、拡大しないようさまざまな対策を行っています。今回はその内容を紹介します。

- (1)入院患者、入院する危険の高い心臓疾患、肺炎患、糖尿病、腎臓病などの外来患者にインフルエンザワクチン接種を勧める
- (2)患者と接触する医療スタッフにインフルエンザワクチン接種を勧める
- (3)病棟内で流行が見られた時には、接触した患者、医療スタッフに発症予防のための薬を使う
- (4)病棟内で流行が見られた場合には▶入院を制限する▶入院患者を減らす▶面会を制限する▶病棟に立ち入る来客を減らす—などとして広がらないようにする
- (5)インフルエンザ発症の患者さんは、原則個室で管理し、他の患者さんに広がらないようにする
- (6)流行期の対策については、感染症対策委員会が県立磐井病院感染対策専門看護師と相談して決め、病院全体で守るようにする

つまり、病院内でインフルエンザがひとたび流行すると病院の機能が著しく制限されます。インフルエンザが流行する冬季は、肺炎、心不全、脳卒中などで入院が必要な人が増加します。必要な時に入院できないことは大変危険です。予防治療や入院患者制限は、病院の経営に悪影響を与えます。

地域の皆さんに、インフルエンザ対策で、ぜひお願いしたいことがあります

- (1)早めに、インフルエンザワクチン接種を受けましょう。ワクチン接種から予防効果が得られるまで2週間ほどかかるといわれています。流行期に入ってからワクチン接種のために受診することは、感染の拡大につながりかねません。来季からは、ぜひ早めの接種に協力してください。
- (2)インフルエンザの症状で受診される際は、周りの人に感染させないよう、マスクを着用して来院してください。インフルエンザが疑われる外来患者は、一般外来ではなく、発熱外来で診察します。
- (3)入院患者の面会は、必ず医療スタッフの指示に従ってください。不要不急の面会は、避けてください。許可なく病室に立ち入ることは、感染予防の観点からもご遠慮ください。流行期には、原則面会禁止になります。
- (4)流行期には、早めの退院をお願いすることがあります。ご家族の協力をお願いします。
- (5)この際、入院患者へのお見舞い(現金を入院中の患者さんに届けること)は、ご遠慮いただきます。家族以外の見舞い客の多くが、お見舞いを届けるために来院しているようです。

◎健康づくり課(一関保健センター内) ☎ 2160

本庁給水課 ☎ 8566 または各支所水道課

水道管の凍結に注意してください
気温がマイナス4℃以下になると、防寒対策が不十分な水道管は凍ったり、破裂したりします▼むき出しの▼北向き▼風当たりの強い場所にある水道管は、しつかり対策をしましょう。
◇破裂したら:メーターボックス内の止水栓(または水抜き栓)を閉め、水の噴き出しを止める。破裂部分をテープで巻くなど応急処置をしてから市指定給水工事業者へ修理を依頼する◇凍結したら:タオルをかぶせ、上からゆつくりぬるま湯を掛けて溶かす。熱湯は破裂の原因になることがあるので注意

冬季死亡災害ゼロ
100日運動展開中
◇期間:11月21日～26年2月28日◇主催者:一関労働基準監督署◇実施者:一関労働災害防止団体等連絡協議会

による警戒区域などの被災者については、免除期間が26年2月28日までとなっています。
◎本庁国保年金課 ☎ 834
3または各支所市民課

消費税と地方消費税が26年4月から変わります
26年4月1日から消費税および地方消費税の税率が8%に引き上げられます。また、総額表示義務について、税込価格であると誤認されないための措置を講じていけば、税込価格による表示をしなくてもよいとする特例が設けられました。(例)100円(税抜き)。詳しくは、国税庁ホームページ(www.nta.go.jp)を

●お詫びと訂正
本誌11月15日号の内容に誤りがありました。お詫びして訂正します。
「特集 五線譜に描く夢」8ページ(正)東北福祉大学混声合唱団(誤)東北福祉大学混声合唱部(正)全日本合唱コンクール(誤)全国合唱コンクール/11ページ(正)残念(誤)座念
「百歳の寿」19ページ(正)俊郎さん(誤)敏郎さん

NTTの新しい電話帳を各世帯へお届けします
NTT東日本は、12月中旬に新しい電話帳(26年1月発行)を各家庭・事業所にお届けします。使用中の電話帳は、配達員へお渡しください。
◎タウンページセンター ☎ 120506309

消費税と地方消費税が26年4月から変わります
26年4月1日から消費税および地方消費税の税率が8%に引き上げられます。また、総額表示義務について、税込価格であると誤認されないための措置を講じていけば、税込価格による表示をしなくてもよいとする特例が設けられました。(例)100円(税抜き)。詳しくは、国税庁ホームページ(www.nta.go.jp)を

●1月は市民税第4期、国民健康保険税第7期の納期です。納期限は1月31日⑥です。納期限内に納付しましょう。納付は口座振替が便利です。一関市納税貯蓄組合連合会

医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

文・花泉地域診療センター長 加藤博孝

岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センターについて

当診療センターは、24年4月から県立磐井病院の附属診療センターとして運営しています。診療科目は内科と外科です。内科は午前と午後、外科は下表のとおり曜日によって診察時間が異なります。また、特殊外来として「頭痛外来」と「物忘れ外来」を毎週火・金曜の午後に行っています。

加速する高齢化や地域の限られた医療資源を考えた時、自分の健康について何でも相談できる「かかりつけ医」をもつことはとても大切です。当センターは、今後も地域の医療機関との連携を深めながら、地域の人を支える医療に貢献していきたいと考えています。

診療時間	月	火	水	木	金	
内科	午前	○	○	○	○	○
	午後	○	○	○	○	○
外科	午前	-	-	○	○	-
	午後	15:30~	○	-	○	○
頭痛外来 物忘れ外来	午後	-	○	-	-	○

●受付時間…午前 8:30 ~ 11:30 / 午後 13:30 ~ 16:00

●休診…④⑤⑥、年末年始

●診療時間…都合により変更になることがあります。電話で確認してからお出かけください

●再来…原則予約制です。次回の予約票をお渡しします

●診療の予約・問い合わせ…☎0191・82・1231

○健康づくり課、一関保健センター内 ☎ 2160

**文化センター
利用者日程調整会議**
ホールの貸し切り予約は「利用者日程調整会議」で受け付けます。会議は3カ月ごとに開催しています。◇日時・会場…2月20日⑧時30分(時間厳守)・一関文化センター展示室◇対象年月…26年9月、11月分◇会場空き状況…2月6日④以降に館内とホームページに掲示◇申し込み…2月16日⑥までに申込書で *未提出の場合、提出した人の日程調整後に受け付け⑥一関文化センター ☎ 2121

業所得、不動産所得または山林所得の合計額が300万円超の人に必要だった記帳と帳簿書類の保存が、これらの所得を生ずる業務を行う全ての人(所得税および復興所得税の申告の必要がない人を含む)に必要となります。詳しくは、最寄りの税務署まで問い合わせるか国税庁ホームページ(Ⓐhttp://www.ita.go.jp)で「一関税務署 ☎ 4205

サイレン吹鳴と交通規制

市消防出初式のため市内全域にサイレンを鳴らします。火災と間違えないようにしてください

使用済み小型家電回収事業を開始しました

一関地区広域行政組合は、1月8日から使用済み小型家電の回収事業を開始しました。小型家電には金、銀、レアメタルなど貴重な有用金属が多く含まれ

い。◇日時…1月19日⑦時◇交通規制…観音と分行行進のため、①市総合防災センター前(料亭首羽角)〜大浪せんべい店(角)が8時〜10時②大町通り(駅前交差点)〜相川屋駐車場角が9時〜10時30分、全面通行止めになります。消防本部消防課 ☎ 5912

20歳になったら国民年金

20歳以上60歳未満の全国民に国民年金保険料を納めることが義務付けられています。国民年金は、老後の生活保障だけで

ており、使用済み小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律(25年4月1日施行「小型家電リサイクル法」)に伴い、これらを資源化し、国内で循環する仕組みができました。家庭ごみ収集とは別に小型家電を回収しますので、協力をお願いします。対象品目や回収方法など、詳しくは問い合わせください⑥一関清掃センター ☎ 2157

東日本大震災に伴う介護保険サードビズ利用料減免延長

東日本大震災で被災した人の介護保険サードビズ利用料の減免を26年12月分まで延長します。◇対象…震災で被災者またはその人と同居する世帯の生計を主として維持する人が次の

なく、病気やけがで障害が残ったときや、一家の働き手が亡くなったときなど、あなたの家族を守ってください。20歳になったら国民年金に加入を。(20歳前に就職して厚生年金等)に加入している人は手続き不要⑥一関年金事務所 ☎ 4246

いずれかに該当する場合①死亡した場合②障がい者になった場合③行方不明の場合④自ら居住する住宅(借家を除く)に、その住宅の価格の10分の2以上の損害を受け、かつ、被保険者等の前年中の合計所得金額の合計額が1000万円以下の場合⑤23年3月から24年2月までの所得金額が、前年中の合計所得金額等の2分の1以下に減少した場合(主たる生計維持者の前年中の合計所得金額等が600万円以下であること)◇減免割合…損害の割合、合計所得金額等により、利用料の全額または利用料の10分の3から10分の7に減免⑥一関地区広域行政組合介護保険課 ☎ 3223

●2月は固定資産税第4期、国民健康保険税第8期の納期です。納期限は2月28日⑤です。納期限内に納付しましょう。納付は口座振替が便利です。一関市納税貯蓄組合連合会

医療と介護の窓

文・一関在宅緩和支援ネットワーク会長 佐藤隆次

在宅緩和支援について

■在宅緩和ケアってなに？

「在宅緩和ケア」とは、自宅で療養を希望する患者や家族に対し、痛みをはじめとする体の問題、社会的な問題、生きがいの喪失による内面的な問題を取り除き、できるだけ普段と同じような生活を安心して送れるよう、総合的に支援するものです。

「緩和ケア」とは、終末期に行うケアに限られるものではなく、病気の進行とは別に、痛みやつらさがある時に受けられるケアです。

■一関在宅緩和支援ネットワークってなに？

一関在宅緩和支援ネットワーク（略称「IZAK」アイザック）は、「がんを患った人が自宅で過ごしたい」「家族の最期を自宅で看取りたい」というがん患者や家族が、自宅での緩和ケアを希望した際、積極的に支援するために結成されたネットワークです。

当ネットワークは、一関地域の医療関係者、訪問看護ステーション、調剤薬局、介護支援事業所や保健行政機関など、さまざまな職種で構成されており、互いに協力し合いながら活動しています。

■在宅緩和ケア普及活動を行っています

当ネットワークは、在宅緩和ケアに関する相談・支援のほかに、市民の皆さんにもっと「在宅緩和ケア」について知っていただくため、講演会やシンポジウムなどを企画しています。要望があれば、小規模な講演会や座談会などへの「出前勉強会」も行いますので、「在宅緩和ケア」をテーマに開催する場合は、気軽に相談してください。

☎一関在宅緩和支援ネットワーク事務局
（磐井病院地域医療福祉連携室内）☎3452

計	125,802人	(-148人)
人口	男	60,835人 (-55人)
	女	64,967人 (-93人)
世帯数	46,122世帯	(-14世帯)

計	2,444.76 ^ト	(143.38 ^ト)
市全体	一関	1,651.28 ^ト (98.64 ^ト)
	大東	793.48 ^ト (44.74 ^ト)
一人当たり	19.39kg	(1.35kg)

課 ☎ 3223

介護保険制度説明会
介護保険の仕組みやサービス利用の手順について理解を深めます。
◇日時：2月28日⑤18時30分～19時30分◇場所：川崎公民館ホール
☎一関地区広域行政組合介護保険課 ☎ 3223

お知らせ

場所：女性センター相談室◇対象
：市内に居住する女性◇内容：女性
性が抱える悩みや心配ごとなど◇
申し込み：匿名可。必ず電話で左
記へ予約
☎市女性センター ☎ 2145

車の検査、登録は早めに

自動車の検査や登録手続きは、
3月に特に集中します。できるだけ
2月に行ってください。
◇受付時間：④～⑧8時45分～正
午、13時～16時(⑧除く)
☎東北運輸局岩手運輸支局 ☎ 05

家畜の飼育・衛生管理報告を

口蹄疫や高病原性鳥インフル
エンザが発生した場合の防疫体
制を強化するため、家畜(牛、水
牛、鹿、めん羊、山羊、豚、いのし
し、馬、鶏、あひる、うずら、き
じ、だちよう、ほろほろ鳥、七面
鳥)を飼う人は、2月1日時点の
飼育状況を所定の報告書に記入
の上、4月15日までに、岩手県東
南家畜保健衛生所に報告してく

055402010/ホーム
ページ <http://www.tbird.go.jp>
tohoku/it/index.htm / 軽自
動車は、軽自動車検査協会岩手事
務所 ☎ 019-639-8011

春季全国火災予防運動

「消すまでは 心の警報 ONの
まよ」をスローガンに春季火災予防
運動が全国一斉に行われます。
◇期間：3月1日④～7日⑤◇住
宅防火のちを守る7つのポイント：
①▼3つの習慣①寝たばこはし
ない②ストーブから燃えやすいも
のを離す③ガスこんろなどから離
れるときは必ず消火▼4つの対策
①住宅用火災警報器を設置する②

ださい。報告書の配布と受領は本
庁農政課または各支所産業経済課
窓口です。詳細は左記へ。
☎岩手県東南家畜保健衛生所 ☎
019-723-3531

リサイクル再生品を抽選販売

◇販売品：家具1000～5000
円、大人用自転車2000円、子供
用自転車1000円、その他(収納
ボックス、雑貨等)100～3000
円◇受付期間：2月1日④～26日
⑤⑥⑦⑧8時30分～16時30分、
④8時30分～11時30分、⑤祝は休
または各消防署・分署

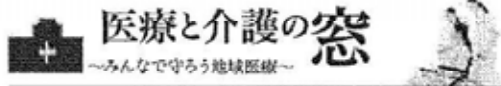
寝具、衣類、カーテンは、防災品を
使用する③住宅用消火器を設置す
る④隣近所の協力体制をつくる◇
消防相談窓口：期間中、各消防署・
分署に開設します。気軽に利用し
てください。

不審な電話に注意を

国税局や税務署の職員を装って、
アンケートや年金受給調査などの
名目で個人情報聞き出すという事
例が多発しています。不審な
電話があった場合は、最寄りの税
務署に問い合わせてください。
☎一関税務署総務課 ☎ 4205

館◇抽選日時：2月28日⑤10時30
分◇場所：一関清掃センターリ
サイクルプラザ◇対象：市内、平泉
町に在住の小学生以上で、当選後3
月14日⑤までに引き取りできる人
◇申し込み：直接来館(電話不可)
☎一関清掃センター ☎ 2157

●平成25年度分の納め忘れの市税は、3月末日までに納付しましょう。



医療と介護の窓

文・一関西部地域居宅介護支援事業所協議会副会長 氏家健司

一関西部居宅介護支援事業所協議会の活動内容

平成19年度に発足した「一関西部居宅介護支援事業所協議会」は、西部(旧一関市、旧花泉町と平泉町)の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター(介護予防支援事業所併設)、小規模多機能型居宅介護事業所を会員としています。居宅介護支援事業などを実施する事業所相互の連携と調整を行い、介護支援専門員(ケアマネジャー)の知識・技術・能力等の向上や地域特性を生かした質の高いサービスの提供などを目標としています。

主な活動は、▶研修会などを通じた介護支援専門員のスキルアップ▶介護支援専門員相互の連携強化▶関係機関との顔の見える関係の構築一などで、身近なところから地域の介護支援ネットワークを築こうと考えています。24年度には、顔写真入りの会員名簿を作成し、一関市医師会、一関市歯科医師会、一関市薬剤師会、医療ソーシャルワーカーが配属されている病院、市役所の保健福祉担当課などに配布しました。

会員事業所などの概要

●居宅介護支援事業所…在宅でケアマネジメントを行う県の指定を受けた事業所。要介護1～5の人を対象に、介護保険サービスはもとより、医療機関などと連携して必要なサービス調整などを行いながらケアプランを作成します。

●地域包括支援センター(介護予防支援事業所併設)…地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う専門職を配置した機関。介護予防支援事業所の役割も担い、要支援1～2の人を対象に介護予防プランを作成します。

●小規模多機能型居宅介護事業所…小規模な住宅型施設への「通い」を中心に、自宅に来てもらう「訪問」、施設に「泊まる」サービスを提供。施設の介護支援専門員が調整します。

一関市には、当協議会のはかに「一関東部地域居宅介護支援事業所協議会」があり、それぞれ西部と東部を拠点に活動しています。さらに、個人の介護支援専門員を会員とする「両磐地区介護支援専門員協議会」などもあります。

このように、各種団体や関係機関などが相互に連携協力しながら、一人でも多くの人が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、これからも地域と皆さんと共に介護支援の歩みを進めています。

◎健康づくり課(一関保健センター内) ☎ 2160

軽自動車、軽自動車は4月1日現在の所有者に課税されます。車両を取得したり、名義や住所を変更、廃車などをしたりする場合は15日以内に手続きしてください。

◇手続きをしないと…譲渡前の所有者に納税通知書が送付されたり、下取りに出した車に翌年度も課税されたりします◇3月中に軽自動車を廃棄し、手続きが遅れたとき…廃棄した事実がわかる書類などを提示してください。手続きする際は、必要なものを事前に確認してください◇車種と手続き

軽自動車の名義変更・廃車の手続き

●本庁市民課 ☎ 8310、千歳支所市民課 ☎ 3945、藤沢支所市民課 ☎ 5316

藤沢支所のバスポート・個人認証サービス事務が終了

市役所藤沢支所のバスポート申請・受領および電子証明書の申請・交付は3月31日に終了します。4月1日からは、本庁市民課または千歳支所市民課で手続きしてください。

①原動機付自転車(124cc以下)、小型特殊自動車(農耕用など) ②本庁税務課諸税係 ☎ 8241 または各支所市民課税務係 ③軽自動車(125cc) ④249ccのバイク、三輪、四輪、二輪の小型自動車(250cc以上のバイク) ⑤一関地区交通安全協会 ☎ 5264 または東磐井地区交通安全協会 ☎ 2343

スポーツ安全保険に加入を

◇対象：スポーツ・文化・ボランティア・地域活動を行う5人以上のアマチュア団体◇保険期間：4月1日～翌年3月31日◇掛け金：一人年額800円～1万1000円。詳しくは左記へ

◎スポーツ安全協会岩手県支部 ☎ 019・648・0400 または市体育協会 ☎ 3111

いわて花巻空港がますます便利になります

いわて花巻空港の定期便のダイヤが3月30日から改正されます。▼札幌 最短55分▼名古屋 最短70分▼大阪 最短85分▼福岡 最短115分など便利になります。このほか札幌、大阪、福岡線経由の乗り継ぎ便には、新たに「乗継割引運賃」が設定されます。詳しくは、左記へ問い合わせください。

3月の人口と世帯数
3月1日現在 () 前月比

人口	計	125,682人	(-120人)
	男	60,776人	(-59人)
	女	64,906人	(-61人)
世帯数	計	46,101世帯	(-21世帯)

1月のごみ排出量
() 前年比

市全体	計	2,374.01㌧	(-7.76㌧)
	一関	1,579.56㌧	(-13.39㌧)
	大東	794.45㌧	(5.63㌧)
一人当たり	計	18.84kg	(0.16kg)

一関市住宅用高効率給湯器導入事業補助金 3月末で終了します

高効率給湯器等設置促進事業補助金は、市民の皆さんの省エネ意識が高まり、高効率給湯器の普及促進が図られたため本年度で終了します。今後、補助金を活用しての導入を考えている人は、3月末日までに設置し、支払いが完了することが必要になります。

◎本庁生活環境課 ☎ 8342



医療と介護の窓

～みんなで守ろう地域医療～

文・公益社団法人岩手県看護協会立千歳訪問看護ステーション
所長 藤野みどり

訪問看護ステーションを知っていますか

訪問看護ステーションは、乳幼児から高齢者まで、医師が「訪問看護が必要」と認めた全ての人々が利用できます。市内には現在、10カ所の訪問看護ステーションと3カ所の病院・診療所併設の訪問看護があります。介護保険の認定を受けた人はもちろん、医療保険でも利用できます。担当のケアマネージャーやかかりつけの医師に相談してください。

どんなことをしているのですか

健康状態の観察、食事・排泄のお世話、寝たきりや認知症の人の介護・相談、リハビリテーション、痛みのケア、終末期の看護、医師の指示による医療処置(注射・点滴など)などを行います。また、ほとんどのステーションが24時間の連絡体制をとっているため、夜中でも電話相談を受けられます。

病院から在宅への流れは、今後推進していくといわれています。今まで病院内で行われていた尿カテーテル、胃ろうや点滴注射などが、在宅で管理することが増えてきました。病院の退院支援部門と連携し、退院した日から心身に安心して過ごせる手伝いをします。

在宅療養を希望する人は、訪問看護ステーションに気軽に問い合わせてください。

☎健康づくり課 一関保健センター内 ☎2160

市営住宅等の入居案内

番号	募集する住宅
① 一関	中田住宅316号 ①簡易耐火長屋2階建②S66③3DK ④15,500～23,100円⑤単身不可
② 一関	三反田アパート1-113号 ①2階建1階②S59③3DK ④14,900～22,200円⑤単身不可
③ 一関	宮沢アパート2-206号 ①3階建3階②H4③3DK ④19,500～29,100円⑤単身不可
④ 一関	宮沢アパート2-218号 ①3階建3階②H4③3DK ④19,500～29,100円⑤単身不可
⑤ 一関	小沢アパート1-126号 ①3階建2階②H11③3DK ④26,100～38,900円⑤単身不可
⑥ 花泉	ニツ植住宅37号 ①木造平家②S41③2K④3,600～5,300円⑤単身可
⑦ 大東	大明神団地42号 ①木造平家②H9③3DK ④28,700～42,700円⑤単身不可

◇募集期間…26年5月1日⑧～12日⑨(④⑤⑥⑦除く)◇入居資格…①同居の親族がいる(⑧を除く)②収入が基準に該当している③住宅に困っている④市税などを滞納していない⑤暴力団員でない一を全て満たす人 *⑧は高齢者障がい者優先、⑨は身体障がい者専用住宅(選考基準あり)◇抽選会…[日時]5月20日⑩10:00～[会場]本庁会議室棟2階、花泉支所3階、大東支所潤い活力プラザ
☎本庁建築住宅課 ☎8532または各支所建設水道課建設係

4月の人口と世帯数

4月1日現在 () 前月比

人口	計		(-668人)
	男	125,014人	
	女	64,555人	(-351人)
世帯数	46,033世帯		(-68世帯)

2月のごみ排出量

() 前年比

市全体	計		(-25.66%)
	一関	1,934.14%	
	大東	631.13%	(-11.97%)
一人当たり	15.47kg		(-3.37kg)

【心配ごと相談所へ】 【通常相談】

15日・熊本賢吾氏、22日・小原恒之氏、29日・赤津聡氏 ※いずれも(※)10時～15時◇場所：市役所本庁舎◇予約：3月28日⑪
☎本庁生活環境課 ☎8342
【行政相談】
◇日時・場所：5月9日⑫10時～12時・市社協藤沢支部、15日⑬9時～12時・市役所本庁、15日⑭13時30分～16時・川崎防災センター、22日⑮13時～16時・出河津公民館
☎本庁生活環境課 ☎8342または各支所市民課

女性のための相談事業 匿名でも受けられます。事前に予約してください。

◇日時：5月1日、8日、15日、22日、29日いずれも⑯10時～15時◇場所：市総合福祉センター
【移動相談(要予約)】
◇日時：5月9日⑰10時～15時◇場所：花泉総合福祉センター、大東保健センター、千歳農村勤労福祉センター、社協藤沢支部
☎市社会福祉協議会 ☎6020、花泉支部 ☎4002、大東支部 ☎1177、千歳支部 ☎2885、藤沢支部 ☎5122

お知らせ

◇日時：4月24日⑱10時～16時◇場所：女性センター◇対象：市内に居住する女性
☎市女性センター ☎2145
ツキノワグマの出没に注意
①野山に入る場合は、音の出るものを持つ②屋外で作業する場合は、十分に周囲を確認する③生ゴミや廃棄農作物は、地中深くに埋めるなど適切に処理する④藪や繁みを減らす一に注意してください。
☎農地林務課 ☎内8437また

は一関保健福祉環境センター ☎1412
緊急経済対策住宅リフォーム助成事業
◇対象住宅：建築後10年以上経過した市民が居住する住宅◇対象工事：市内の施工業者が行う住宅のリフォーム◇助成額など：工事に要した経費の10分の1(1000円未満は切り捨て)で上限10万円 *ただし、市木造住宅耐震改修工事助成事業を併せて実施する場合は上限20万円◇事業期間：26年度まで
☎本庁建築住宅課 ☎8532または各支所建設水道課

博物館などの入館料を変更しました ☎一関市博物館 ☎3180

4月1日⑲から博物館など関連施設の入館料が変更になりました。

入館者区分	入館料(1人)	証明書の提示
中学生以下	無料	なし
高校生・大学生	200円	学生証
大人	300円	なし
障がい者・介護者	免除	障がい者手帳等
65歳以上の市民	免除	年齢・住所が明記された証明書

*市博物館、石と賢治のミュージアム、芦東山記念館、大籠キリシタン資料館の4館は、入館料と減免基準を統一しました。

●4月は固定資産税1期の納期：納期限は4月30日⑳です。納期限内に納付しましょう。

一関市納税貯蓄組合連合会

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組

平成 26 年 2 月 12 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)

(再放送: 2 月 16 日 (日) 9:00~10:00 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 1 回放送 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長

一関中央クリニック 院長 長澤 茂先生

(聞き手: 塩竈一常)

塩竈 ラジオはこころ、くらしとくらしをつないでいく架け橋。誰かに寄り添う、その強さ、その優しさ、そのぬくもり。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」の時間です。

このコーナーは、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療から介護への切れ目ないサービス提供を目指し、医療機関や介護施設の役割や利用方法を市民の方々と、医療・介護・福祉関係者が共に理解・協力することを目的に、一関市健康づくり課の提供でお送りします。

塩竈 今日はスタジオにお客様をお迎えしました。一関市医療と介護の連携連絡会幹事長、そして一関中央クリニックの院長でいらっしゃいます長澤茂先生にお越し頂きました。長澤茂先生よろしくお願ひします。

長澤 どうぞ、よろしくお願ひします。

塩竈 長澤茂先生の声、お名前は、市内に住んでいる方はご存知の方が多いと思うのですが、このシーズンですと、インフルエンザとか患者さんが多いのではないですか。

長澤 はい、とても多くなりましたね。うちのクリニックですと、インフルエンザの定点観測所といって、出た場合には保健所にご連絡というお役目を仰せつかってますので、ずいぶんここ 1、2 週間で増えてきたなという。今日も 4、5 人出ました。

塩竈 そうですか。収録を 2 月 6 日に行って

いるんですけど、その身体、健康を保っていくところを皆さん心がけて頂きたいところです。このコーナーを通じて、皆さんにも医療というものに積極的に関わってほしいというところなのですが、先生、肩書のところに、名刺のところには沢山あるのですが、その中のひとつ一関市医療と介護の連携連絡会幹事会の幹事長でいらっしゃるということなのですが、医療と介護の連携連絡会というのはどのような会なのでしょうか。

長澤 ご承知のとおり色々な各地域で日本人の平均寿命がどんどん長くなってきたり、癌を筆頭に、なかなか医療がまだ完全に治すという技術まで及んでいないと。あるいは認知症の問題もその通りですが、病院で全て OK だという時代ではなくなりましたですね。特に、お年寄りの場合には、肺炎になった・肺炎を治した・さあ家に戻りました。寝ている間の期間が長くて、手足が動かなくなったとかですね。そうすると、ご自分の家で、ご自分らしく生活をしたいという方を、どうやってサポートしたら良いかというふうな問題が出てまいりました。よく言われる二十世紀型の医療と、全部病院に任せておけば良いんだという時代もあったのですが、最近はそのプラス、その人らしいその生活を支えようという。その人の生まれ育った地域で、一生を穏やかに終えるためにはどうすれば良いかということで、福祉、あるいは生活ということにウエイトが重きを置かれてきたということですね背景にあります。そのために、医療だけではなくてここにあります介護、それは西暦 2000 年ですから平成 12 年から介護保険が

始まりましたけれど、皆でその方の生活を支えようと、医療とが一緒に進む方向性を同一にして病院であってもご自宅であっても、その人らしい一生を寄り添っていければということが背景にありますね。

塩竈 そうですか。聞いていますと、一関地方の高齢化率が3割を超えているということで、いろんな皆さんが心豊かに、充実して暮らすためには、一関だけでなく全国的な課題になっている訳ですね。こうした地域医療を守っていくために、先程お話ししましたけれど福祉や保健もこういったところが連携を取っていく。医療と介護の連携連絡会は、こういった団体の皆さんが関わっているのでしょうか。

長澤 ずいぶん数多くの職の方が入っていますけれども、医師会、歯科医師会、薬剤師会、県立病院の先生方、連携室の方々、ご自宅に訪問するという部分では、訪問看護、訪問介護さん、ヘルパーさんとか、ケアマネージャーさんですね。それから理学療法士さんとか、作業療法士さん、行政では地域包括の職員の方々、ここでは一関市となっていますが、平泉町も一緒に歩調を揃えまして、県としては保健所の方々のご指導を頂きながら。数多くの方々が、それぞれの立場で意見を述べ合っていて、良い物に作り上げていこうというところがあります。

塩竈 健康な生活を送っていく為に、色々な分野での取り組み、アイデア、現場での悩み等が持ち寄られる訳ですね。

長澤 そうですね。

塩竈 現在ですけど、医療と介護の連携は、一関では具体的にどんな連携があるのか先生に伺って行こうと思います。様々な職種が連携して行く、色々な工夫があると思うのですが、これはどんな取り組みなのでしょう。

長澤 それぞれのお仕事の内容を、まずお互いを理解する事と。顔の見える関係の構築と

言っていますけれど、我々医師会の活動と、訪問看護の動きでは持ちつ持たれつなのですが、見えない所も多々ある訳です。垣根をお互いに手を携えて、色々な悩み、工夫等々を、色々な方々を同じ目線でもって集まって頂いて、教えを拝借すると。というところが、一番の重要なポイントであると思います。

塩竈 様々な知恵や経験を持ち寄るということですね。そういった方々が集まることによって、アイデアが磨かれていくのですね。

長澤 そうあって欲しいですね。

塩竈 それから、チーム医療という言葉もあります。これについては、どうでしょうか。

長澤 チーム医療はですね、在宅を意識してお話をさせていただきますと、患者さんの家と先生方と24時間365日、ご自分が在宅の患者さんを診るよという制度があります。私もずっとやっていたのですが、1人だと例えば出掛けるとか留守にするという場合に、なかなか十分な活動が出来ないという事がありますので、チームを組んで、複数の先生にサポートして頂いて、在宅の方の健康を支えるというのが、チーム医療であります。

塩竈 在宅医療という言葉が出てきましたけれど、ご自宅で生活、協力を高めて行く事が大事と言われています。介護の現場の皆さんとの繋がりというのは、とても大事ですね。

長澤 大事ですね。介護職、ヘルパーの方々が、いつもと違うぞというのがきっかけで、今話題の認知症の早期発見に繋がったり、飲んだり食べたりが上手に行かないという事から、肺炎の防止に繋がったりと。様々なことがありますね。

塩竈 そういった皆さんと、先程お話に出てきました病院であったり、医師の皆さんが情報を連絡し合う事によって、より素晴らしい医療に繋げて行けるという訳ですね。それから、往診とか訪問診療、一関では取り組まれ

ている訳ですけれども、住み慣れた地域や家で過ごしたいというのは誰しもありますので、そういった所の充実も求められますね。

長澤 そうですね。往診というのは、患者さんの家で急変した、熱が出た、具合が悪くなったという場合に、電話を医療機関に頂戴して、先生が駆けつけるというのが昔ながらの往診ですね。それから、訪問診療というのは毎月第2、第4の火曜日の午前中にお邪魔しますという計画に基づいて行うのが訪問診療であります。

塩竈 今お話に出てきました通り、様々な職種の皆さんが連携をしながら、皆さんの健康を守る為に、例えば往診、訪問診療、在宅もそうですし、介護をされている方がチームを組んで、皆さんの健康を守る活動をしています。これを結びつけて行くという事で、連携連絡会の皆さんの取り組みですとか、そういったアイデアを生み出していくことも一つですが、お話を聞いていましたらそういった取り組みをされている中で、私達利用する側の意識というの、こういった所を賢く使っていくこともそうですし、現状に合わせて利用方法を考えていく事も大事ですね。

長澤 大事ですね。おっしゃる通りですね、医療と介護の連携、様々な職種との連携が非常に上手く行ったという暁にですね、住民の方がどういう風に自分のものとして捉えて、利用して行くのか。厚生労働省では、地域包括ケアシステムと言いますが、結局は1人1人が、ご自分の一生をどんな形で過ごしていたら良いかというのを、考える外側のシステムとして、医療と介護の連携というのが、求められるという風に思うのです。介護だけでも駄目だ、医療だけでも片手落ちだと。そこがしっかり決まってくると、地域コミュニティで過ごす方々が、それぞれが手を携えながら、連携をどういう風に自分達のものとして取り組んでいくか、ここの所が一番の大事なポイントだと思います。

塩竈 先生のお話にもありました、20世紀型

の医療という現場、患者さんとの付き合い方を考えていくと、お医者さんや病院に任せて色々な物を結び付けていくという事がありますけれども、それが地域全体で健康を考えて行こうというところになった。受ける側の市民の皆さんの意識を変えていくのも勿論ですし、何よりもこういった取り組みが有るという事を普段から学んでおくことも、大事だと思いました。

長澤 おっしゃる通りですね。病院に行けば良いというのは、疾患によっては勿論ですが、そうも行かない時代が来ております。背景の一つとしては、お話ししました通り高齢者が増えてきたと。生物として生まれて、いつの時は死を迎えるという流れの中で、最期は自分はどんな生活を、医療をと考えた時は、常に考えておく必要があると思います。その時に20世紀型医療のみならず、これからは福祉、生活というモードに入りつつあるだろうというように思いますね。

塩竈 医療と介護の連携連絡会に関わっている方々、医療機関や介護施設に関わっている人数が限られている訳ですので、町ぐるみで利用、うまく育てていく事が大事なのだというのを感じます。今日は、一関市医療と介護の連携連絡会幹事会の幹事長、そして一関中央クリニックの院長の長澤茂先生にお越し頂きました。一関市の医療と介護の連携についてお話を伺いました。長澤先生、今日はどうもありがとうございました。

長澤 お世話様でした。ありがとうございました。

塩竈 みんなで育てよう地域医療、私たちも積極的に関わっていきましょう。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティ FM (FM あすも) 番組
平成 26 年 2 月 26 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)
(再放送: 3 月 2 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 2 回放送 一関市医師会 副会長

中野内科循環器科クリニック院長 中野淳平先生

(聞き手: 塩竈一常)

塩竈 さて、本日もスタジオにはゲストの方をお迎えしました。一関市医師会副会長、そして中野内科循環器科クリニック院長の中野淳平先生にお越しいただきました。中野先生よろしくお願いたします。

中野 どうぞ、よろしくお願いたします。

塩竈 先々週から始まりましたこのコーナーなんですけれども、地域医療の体制を充実させるために私達市民も積極的にその動き、その連携に関わって行かなければならないというお話を、先々週は長澤先生に色々とお話を伺ったんですけれども、中野先生にまず一関市医師会というのは、どういった団体なのかというところを説明していただきたいと思います。まずは医師会の構成ですが、会員の方は何人いらっしゃるのでしょうか。

中野 平成 26 年 2 月現在、171 名全部です。これは、多いか少ないかと申しますと人口 10 万人あたりの医師数で見ると、全国平均よりも約 50 人も少ない状態なんです。

塩竈 そうなんですか。全国的に見ていくと、お医者さんの数というのは、年々減っているとニュースで聞いたことがあるのですが、実際はどうなのでしょう。

中野 ご多分にもれず、都市部と地方の格差が増えてきて、全国的に医師数は少しずつ増えているのですが、一関市では若干減少の傾向にあるのです。

塩竈 そうなのですね。医師会の所属されてい

る内訳というのはどういう感じなのでしょうか。

中野 病院に勤務されている先生と、診療所を開業されている先生が約半数ずつ、勤務されている先生が若干多いという構成になっております。

塩竈 病院にかかる皆さんからすると、本当に先生方がお忙しく働いている姿を拝見している訳ですが、特に先生方の業務内容はどうなっているのでしょうか。

中野 私達のように、診療所を開業している医師は通常、日常の診療が日中ございます。その他に、当番を決めてやる事業なのですが、小児・成人夜間救急というのを 6 時から 8 時まで夕方行われます。後は、休日、日曜や祝日に当番医を朝の 9 時から 5 時まで。それぞれの先生によって違いますけれども、空いている時間に往診をされたり、看護学校の講義をしまして、地域で将来働いていただく看護師の育成だったり、後は幼児の予防接種、学校医や各企業の産業医だとか、様々多岐にわたって色々仕事をしております。

塩竈 普段、風邪をひいたりしてお医者さんにかかる場合があるんですけども、向かい合っている仕事だけでなく、こんなに多くの仕事があるんですね。

中野 日常の診療だけでなく、色々な所で医学的に関われることは、色々仕事をしているということをご分かっていただきたいと思っております。

塩竈 今、世の中を見ていると高齢化社会ということで、お医者さんにかかる人数は増え続けていると思うんですね。先程のお話では、全国的に医師の数は増えているけれども、一関の街では若干減少気味であるとのことでした。そうなってくると、お医者さんの数が限られている、医療資源が限られてくるということに繋がる訳ですね。

中野 これは、全国的に言われていることで、限られた医療資源というものを上手に利用していただきたいと。

塩竈 今日はこの番組を通じて、私達の街にある限られたお医者さんの数や、医療資源をどう効率的に活用していくか、先生と一緒に学ばせていただきたいと思います。まずは、病院の受診の仕方、救急外来への受診の仕方ですね。私達が病気になった時に、病院にどのように関わっていけば良いか教えていただきたいと思いません。

中野 一般に病院というところは、入院、あるいはより専門的な医療や検査を行う所ですね。診療所というのは、外来治療を中心として各個人の特性に合わせた医療をしております。病院・診療所というのは、役割分担が少し違ってきます。

塩竈 よく「かかりつけのお医者さん」という言い方をしますが、その場合は診療所のお医者さんの場合がそれに当たるのでしょうか。

中野 そうですね。かかりつけ医という意味はですね、普段から風邪をひいたとか、血圧が高いとか、自分の健康状態をよく把握して貰う先生をぜひ作っていただきたいと思います。それで、そういう先生にかかっていたら、より高度な医療が必要な場合は病院に紹介すると。自分の健康管理をする基地というか、基本となるかかりつけ医を作っていただくと効率良く病院にかかっていたらと思います。

塩竈 若い時からずっと同じ病院に通っている方も多いと思いますが、その方のデータや健

康遍歴が色々とまとまっている訳ですね。

中野 かかりつけ医の先生ですと、この患者さんは風邪をひくと咳が長引きやすいとか、こういう薬が合わない場合があるとか細かいところまでよく把握していただけるので、病気の度に色々な病院を受診しますとやはり効率が良くない。

塩竈 なるほど。効率良く病気の回復に向かっていくには、まずは普段からかかりつけのお医者さんを持っておく。それから、より専門的な医療を受けるために紹介をしていただく流れの方が効率的ですね。

中野 やはり病院も大変忙しい状況ですので、できるだけ事前にかかりつけ医の先生の情報があると何が問題なのかを把握しやすいんですね。そうでなくて、突然病院を受診されますと、また一から色々なことをやって行かなければいけないので、非常に時間もかかりますし、効率も良くないということになりますね。

塩竈 こういった病院・診療所の受診の仕方なんですけれども、何処にどういう病院・診療所があるのか、かかりつけのお医者さんにかかっている方はご存知かと思いますが、あらためて、かかりつけガイドブックという物を一関市では作っておりまして、基本的なことは書かれているので、ぜひ皆さん対応に困った時は、ご覧になっていただきたいと思います。先程、医師会の業務内容、病院と診療所の業務内容についてお話を伺ったんですが、夜間救急ですとか、休日当番医という形で緊急の対応を行っているというお話があったんですが、こういった現状について続いてお話を伺って行きたいと思います。対応されている先生方は何歳くらいなのでしょう。

中野 これも、非常に残念なんですけれども、今現在、夜間救急当番医や休日当番医を行っている先生方の平均年齢は61.8歳なんですね。本当に還暦を過ぎた状況になるのです。どうしても昼間、朝から夕方まで診療されたそれ以外に、こうやって夜間・休日仕事をされますので、な

かなか厳しい状況にはなっております。

塩竈 それに加えて、先程お話のあった往診だとか、病院の看護師さんを育てるお仕事だったりとか、学校や企業のお医者さんの役割を果たしていたりだとか、医師会の中での会議もある訳ですよ。

中野 そうですね。

塩竈 年齢が 61.8 歳という医師の方々に色々な負担や重責が今あるという状況なのですね。この様な一関市内の医療の現状をお伺いしますと、利用する側も上手に医療機関にかかることが大事になってきますね。

中野 そうですね。昼間、朝から晩まで仕事をして、さらに夜も救急で対応するというのは、年齢が高齢になるほど先生方も大変ですので、そこで効率良くかかっていたくことが、非常に大事に思います。

塩竈 患者さん自身の蓄積されているデータが、直接先生の元に渡ると診断もスピーディーに進みますよね。

中野 この患者さんは、アレルギー性の疾患を持っていらっしゃるかどうか、風邪で来られても普段風邪以外の病気があるかどうか、分かっている患者さんですと非常に対応が早く進みますし、全く分からない患者さんが来られると、色々な可能性を考えた診療になりますから、ぜひ情報を持っていただいて夜間等救急で行かれる場合はお薬手帳等、自分にまつわる情報を持って受診されることが大事だと思います。

塩竈 いざ病気になった時にも、頼りになる効率的な医療を受けられるメリットもありますし、例えばこれから先、高齢化が進んでいきますと在宅医療等がこれから出てくるかもしれませんが、先々の相談等もかかりつけの先生や主治医の先生が居るととても心強かったりしますね。

中野 やはり、その方の病気も大事です。家族構成ですとか、お父さんもお母さんもこういう

病気になっているとか、色々な情報を持っているかかりつけ医がいると、さらに高度な医療が必要なのか、将来在宅の医療を望まれた場合に家族構成等がしっかり分かっているならば、こういう形が望ましいのではないかと、幅広い選択肢の中の相談が出来るだろうと思います。

塩竈 はい。今日のお話でしたけれども、限られた医療資源の中で、私達が上手に医療機関に関わって行くために、自分の質の高い健康を守るために、まずその自分の健康状態をよく分かって下さる主治医の先生、かかりつけ医を持つことが大事というお話を今日伺いました。さて、先生は中野内科循環器科クリニックの院長先生でいらっしゃいますが、この時期はインフルエンザの患者さんが一週間ごとに来られているというお話を聞きますが。

中野 そうですね。今は非常に増えております。今年の感染症の特徴としては、インフルエンザも増えているんですが、相変わらず感染性胃腸炎も多いんですね。両者が平行して、数多く出ていますので、両方に共通して注意していただきたい。やはり、基本的なところではうがい、手洗い、人混みの中ではマスクをすとか、基本的なことをぜひ励行していただきたいと思います。

塩竈 そして、自分に少し症状が有りそうだなという場合には、早めに病院、かかりつけのお医者さんに行くことが大事ですね。

中野 病気によっては、早ければ早い程治りやすい病気が多いですので、通常と違うなどご本人が思うことは当たっていますので、おかしいなど思いましたら早めに病院にいらしていただくことが良いと思います。

塩竈 そして、現在各病院では面会制限が行われているところがありますが、これも大事ですか。

中野 そうですね。面会に関しては、非常に遠い所からわざわざいらしたり、される所を面会制限をすることは心苦しい場合もあるのですが、

どうしても病弱な患者さんにインフルエンザ等の感染症が移りますと、非常に重篤な事態になる場合もあります。それで、小さいお子さんだとか、何らかの風邪など様の症状がある場合には面会を制限したり、重症の患者さんがいるような病棟では、本当に親族の方が必要な方のみ面会するよう制限をする場合もありますので、事情を分かっていたいで面会制限をされてごっかりされるかと思いますが、患者さん達が早く良くなるためであるということをご理解して納得していただきたいと思います。

塩竈 今日のみんなで育てよう地域医療のコーナー、先生には一関市における医師の数ですとか、夜間救急・休日当番医に当たっている先生の平均年齢のお話等も出てきました。こういった限られた医療資源の中で、私達が賢く医療機関を利用する方法を伺ってきました。今日は、一関市医師会副会長、そして中野内科循環器科クリニック院長の、中野淳平先生をお迎えして、お話を伺いました。中野先生ありがとうございました。

中野 どうも、ありがとうございました。

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組
平成 26 年 3 月 12 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)
(再放送: 3 月 16 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第3回放送 一関歯科医師会 会長

久保田歯科医院医師 久保田文吾先生

(聞き手: 塩竈一常)

塩竈 さて、「医療と介護の窓みんなで育てよう地域医療」のコーナーです。今日、スタジオにお越しいただきましたのは、一関歯科医師会の会長 久保田文吾先生です。久保田先生、よろしくお願ひいたします。

久保田 よろしくお願ひいたします。

塩竈 久保田先生は、上大槻街の方で久保田歯科医院をなさっているそうですね。

久保田 はい。

塩竈 まず、先生にお伺ひするんですけども、この一関歯科医師会ですけれども会員の皆様というのは大体何名くらいになるのですか。

久保田 現在 67 名ですね。

塩竈 皆さんが、その歯科に関する医療機関、診療所をされている方々。

久保田 そうですね。ほとんどが、歯科医院、歯科クリニックを開設してそこで診療している方。あとは、病院に勤務されている方もいらっしゃるんですけども。

塩竈 歯科医師会ですけれども、こちらの方ではどういった取り組みですとか、こういったのを行っている団体なのでしょうか。

久保田 まず、主には一関市の歯科保健事業への協力ということで、乳幼児の歯科検診とかです、それから学校等での歯科検診です、小・中・高等学校等の学校での歯科検診。それから、

妊婦さんの歯科検診。それから、40 歳以降、節目で 40 歳、50 歳、60 歳、70 歳というふうな節目の時に成人歯科検診というのがあります。それから 5 月の連休とそれから年末年始には休日歯科診療というのが東西 2ヶ所で行われています。

塩竈 地域のその皆さんの歯を守るところ、これを協力して行っているということですね。

久保田 はい。

塩竈 この他にも、市民の皆さんに歯の健康について親しんでいただくということで「健康啓発事業」というのもあるそうですね。

久保田 これはですね、歯科医師会と市と協力して行っておりますけども、6 月の「歯の衛生週間」ですね、その頃の日曜日に、いつもイオンの 1 階のところで「歯の健康展」というものを行っております、歯の健康相談とかです、歯磨きコーナーとかです、それから市町村で行っている歯科保健事業のコマーシャルとかです、そういったことを行っておりますし、秋には社会福祉協議会で行っている「ゆいっこ広場」というのがありますけども、そこで同じ様にやはり「歯の健康展」を行っております。

塩竈 はい。皆さん、こういった「健康展」などでも、実はこういった歯科医師会のみなさんとのその繋がりというがある訳ですよ。さて、このコーナーではですねこの医療機関の役割、利用方法を市民の方々と、そして医療、介護、福祉関係の方々が共に協力して理解していくこ

とが大切だというコンセプトでお送りしているんですけども、今回、先生にはこの歯医者さん、歯科というところをこう注目してお話を伺っていきたいと思います。様々なその医療機関との連携、この歯医者さん歯科というのは他にどういった繋がりというのが他の医療機関とあるんでしょうか。

久保田 やはり歯科を受診される方は、医科を受診している方も一緒に受診しております、そういった方々は、いろんな沢山の薬を飲んだりとかしておりますので、そういったことで連携を取らないと私達の仕事もスムーズには進まないということになります。それから、身体の疾患で歯科と非常に密接に関わっている疾患というのが非常に多い。そのひとつの例として、糖尿病ですね。歯周病と糖尿病が、非常に関連が深い。糖尿病のある人は、歯周病になりやすいし、それから治りにくいというのがあります。

塩竈 糖尿病の治療の中でも、その内科的な治療だけではなく歯科とも関わって合わせて治療していく。

久保田 両方で治療すると非常に効果的だというふうに言われております。

塩竈 そうなのですか。この他にも、ガンの治療等でも最近では治療を本格的に始める前に、歯医者さんにかかるという、こういった流れというものもあるとお伺いしたんですけども。

久保田 特に消化器の上部の方ですと、口の中の汚れが手術後の経過に非常に影響を与えるということで、「手術を始める前に口の中をチェックして、きれいにしておいてください」ということとかですね、抗癌剤治療を使っていますと口腔内の乾燥とかそれから潰瘍ですね、口内炎の様なものができて非常に大変な思いをする場合があるんですけども、症状の軽減のために「口の中のお手入れをしましょう」というふうなことで連携を取る様にとということで今やられております。

塩竈 いざ、こういった糖尿病とかガンとか大

きな病と立ち向かう時というのは、身体へのその影響ですとか負担というのが結構大きい時だと思うんですね。それに合わせて、歯科の治療とかこういった様々なものを複合して治療していく、これやはり事前に予防ですとか歯を健康に保っていくことが大切というのが、ここからも分かりますね。

久保田 そうですね。痛くなった時だけの通院ではなくて、定期的なチェックというようなものが非常に大事になってくるのではないかと思います。

塩竈 町中などで春と秋を中心に行われています「歯の健康展」こういったのも行われていますので、ぜひとも皆さん足を運んでいただいて、この歯・口この健康についてしっかりとまた捉えていただければと思います。さて、先生にはですね今日は、「高齢化に伴う口腔の変化」というところちょっとお話を伺いたいんですけども、実は3月1日の日に東山地域交流センターで研修会が行われたということですね。これが、「在宅・施設での口腔ケアについて」ということで先生が講師として務めたということなんですけども、ご高齢になると歯の変化というのは、口の中の変化が出てくるというお話、あらためてラジオでも先生聞かせていただけてよろしいですか。

久保田 高齢になると、まず特徴的なのは「口の中の乾燥が非常に多くなる」ということです。唾液が出にくくなるというふうなことです。これは、いろいろ高齢に伴う唾液腺の委縮とか、あるいは薬剤の影響とかいろいろありますけれども、口が乾いてメタメタするとかですね、上手く話しが出来ないということがありますけれども、それに伴ってむし歯にもなりやすくなったりとか、歯周病が進行しやすくなったりするというふうな傾向があります。唾液には、むし歯とか歯周病を防ぐ、なりにくくする働きがあるんですけども、その唾液が出にくくなるということで、歯周病やむし歯が進行しやすくなるというふうなことがあるんですね。

塩竈 唾液というのをできるだけ沢山、分泌さ

せるふうにしていくのが大事なわけですか。

久保田 口の中が汚かったりしても、唾液が出ていくというのがありますので、口の中をきれいにしていったりとかというアプローチが必要になってきます。

塩竈 これは年齢がどんどん高くなっていくと、先程もお話しありましたけれども、段々出てくる量が少なくなってくる。てなると意識的にちょっとそういう唾液をこう出させる様な取り組みというのを個人個人でちょっとしてみた方が良いでしょうね。

久保田 簡単な方法ですと、唾液腺のマッサージというのがあります。

塩竈 唾液腺のマッサージ。

久保田 口の中には沢山の唾液腺がありますけれども、その中には大きな耳下腺(じかせん)、顎下腺(がつかせん)、舌下腺(ぜつかせん)というのがあります。

塩竈 耳下腺、顎下腺、舌下腺。

久保田 耳下腺というのは、耳の前の辺り、この辺あたりですね。ちょうどおたふくかぜの時に腫れる、そこが耳下腺です。そこをマッサージして揉んであげたりとかですね。

塩竈 甘い物を食べた時に「イー」となる辺りですよ。

久保田 顎下腺というのは、下顎の下の辺りですね。この辺にありますけども、これも親指なんかで揉んであげてください。舌下腺は、下顎の真ん中の辺りですね。その辺も、やっぱりマッサージしてですね。

塩竈 顎の下のところ首との間の辺りをちょっと優しく普段からマッサージする癖をつけておくと良いかもしれませんね。なるほど。こういった分泌を促していくことで、口の中を清潔に保ってくれるという役割がある唾液、これが

分泌しやすくなってくる。こういった様々なセミナーなどを通じて、いろんな皆さんにこの大切さっていうのを皆さんに伝えていってほしいということなんですね。

久保田 はい。

塩竈 このほかに年齢が高くなってくると、口の中の変化で気を付けなければいけないことって、どういったことがありますか。

久保田 まずは、歯の本数が減ってくるというふうなことがありますね。そうすると、やっぱり噛みにくくなりますから、やはり人工的なもので入れ歯とかですね、歯をきちんと入れて噛めるような状態にするということが大事になると思いますね。

塩竈 こういった口の中の変化について、いろいろこういった疑問が生まれてきたりとか、それから、こまめなそのメンテナンスといいますかね、口の中のチェックは大事かと思うんですけども、となると歯医者さんの待合室を見るとこの高齢者の方は多いんでしょうか。

久保田 そうですね。やはり一関市も、もう3割以上が65歳の高齢者ということで、非常に高齢の方が多くなってきております。さらには、以前は通院できたのに、段々通院できなくなってくるという方も増えてくるわけですね。

塩竈 なるほど。通院困難、家で寝たきりであったりとか、それから施設からなかなか動けなかったりとかあるわけですね。一関歯科医師会では、こういった方々への家庭訪問診療というのを行っているということなんですが、こちらについてもちょっと先生教えて下さい。

久保田 これもやはり、一関市の事業に私達も一緒にやっている事業なんですけども、ご家庭で寝たきりになってしまって、そして、口の中にいろいろなトラブルを抱えて、例えば「歯が痛い」とかですね、「入れ歯が割れてしまった」とかですね、「歯茎が腫れた」とかですね、あるいは「口の中が汚くて診てもらいたい」とかで

すね、そういったトラブルとか問題を解決するために、歯科医師、医院のスタッフとかがご家庭を訪問して、診療するというふうな事業、流れとなっております。

塩竈 なるほど。それぞれの寝たきりになったりとか、ご家庭で介護を受けているというのは、それぞれの病気が原因であったりとか、足腰がちよっと弱ってきたりといろいろあるかと思うんですけども、そういったところ、その場所その場所の治療だけでなく、これから先の診療に備えてのそういったケアということでのその家庭訪問診療というのはすごく大事ということですね。岩手県では、口腔、口の中ですね、その健康づくり推進条例というのができました。これについても、先生ちよっと分かりやすく教えていただけますか。

久保田 これは、昨年4月に施行されたんですけども、「岩手県口腔の健康づくり推進条例」ということで、岩手県では乳幼児期とか学童期のむし歯が、他の県に比べて多いというふうな事情とか、あるいは重度の歯周病に罹患している人が段々増えてきているふうな状況とかですね、それから高齢者の割合が非常に多いということで、口腔、口の働きをこれ以上低下させないように今の状態を維持するためにいろんな歯科的な口腔の健康に対する施策が急務であるということで、このような「健康づくり推進条例」というものが施行されました。

塩竈 昨年4月1日からということなんですけども、県民、私達がそうですし、県として、市町村として、先生のように保健医療に関係されている方々それぞれの役割、それから県としてどのような方針をこうしていくかというところをこう決めるというものなんですね。こういったのに乗っ取って様々取り組み一関歯科医師会の方でも取り組んでいるということなんですけども、最後にですね久保田先生、こういった歯科診療に関して思われることを最後にお伺いしたいんですけども。

久保田 口の中というのは、本当に身体のほん

の部分ですけども、おそらく身体の中で最も敏感な場所でありまして、そしてさらには、物を食べるとか、話をする、コミュニケーションをとるとか、あるいは顔の表情を作るとかという生きて行くうえで最も大切な場所のひとつであるというふうなことが言えると思います。その場所を健康に保つということは、生涯にわたって非常に皆さんにとっても重要なことでもありますので、ぜひ関心を持っていただいて、生涯に渡ってこれを良い状態に保っていただきたい。我々もそのために一生懸命お手伝いをしたいなと思っております。

塩竈 そうですね。歯科医師会の皆さんで取り組んでいらっしゃる、まずはその一関の現状、高齢化に伴って様々な口腔の変化が出てくるということで、その年齢に合わせた取り組みも勿論なんですけども、これから先、その高齢に向かっている人達にも事前の予防であったりとか、いろんな取り組みのそういったスキルを身に着けるため取り組んでいらっしゃるということが、今日は分かりました。会員数が67名、55の歯科医療機関、それから診療所が関わっています。一関歯科医師会から、今日は久保田歯科医院の久保田文吾先生にお越しいただきましてお話を伺いました。先生、どうもありがとうございました。

久保田 どうもありがとうございました。

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組
平成 26 年 3 月 26 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)
(再放送: 3 月 30 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 4 回放送 一関薬剤師会 会長

かたくり薬局 管理薬剤師 小笠原慈夫先生

(聞き手: 塩竈一常)

塩竈 さて、「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日スタジオにお越しいただきました一関薬剤師会会長、小笠原慈夫さんです。小笠原先生、よろしくお願ひいたします。

小笠原 よろしくお願ひいたします。

塩竈 さて、今日、小笠原先生にお伺ひしていきますのは、この一関薬剤師会、まずはその活動の状況から伺ひていきたいと思ひます。小笠原さん、この薬剤師会というのは何人位の皆さんが登録されているんでしょうか。

小笠原 今現在 175 名ですね。

塩竈 一関市内には、様々なそのお薬を取り扱っているところがありますけれども、こういったところにいらっしゃる薬剤師の皆さんが登録されているということなんですね。

小笠原 はい。そうです。

塩竈 小笠原さんがいらっしゃる場所も薬局をされているということですが、場所はどちらの方になりますか。

小笠原 生協さんの近くなんですが、住所でいうと上坊ですね。

塩竈 そうですか。かたくり薬局さん。

小笠原 はい、そうです。

塩竈 皆さんも、お馴染みですかね、そうい

った方々多いのかなと思ひます。先生、かかりつけのお医者さんというのがありますけれども、かかりつけの薬局というの、やっぱりあった方がよいものなんですか。

小笠原 絶対あった方がよいですね。

塩竈 こういったところのお話しもね今日はちょっと伺ひていきたいと思ひますけれども、まずは、この一関薬剤師会。普段どんな活動をされているかというところから伺ひていきたいと思ひます。まずは、様々な地域で講演会などがあるそうですね。これは、どういった内容ですか。

小笠原 はい。これは、一関市ですね健康づくり課より講師依頼がありまして、各旧市町村、8ヶ所あるんですが、そこで講師として薬剤師が行ってお話しをするという形で実施しております。

塩竈 これの中身は、より効果を良くするお薬の飲み方とかこういった指導になるんですか。

小笠原 そうですね。内容としては、「薬の正しい使い方」、あるいは「サプリメントと健康」、あるいは「薬と健康の話」、中には「お薬手帳の活用」等々がありますね。

塩竈 様々な講演会がありますので、もしかしたら聞いていらっしゃる皆さんも、お近くで参加された方多いかもしれません。それから、「一関健康まつり」というのが、年に行われますけれども、こちらにも参加されているそうですね。

小笠原 はい。そうです。これは、日本薬剤師会の企画でですね、「薬と健康の週間」というのが毎年10月に行われています。この一関ではですね、この一関の健康まつりに参加という形で、我々としては薬と健康の週間ということで実施をしております。その中でですね、今年も2月23日に行われたんですが、この中でも「薬の何でも相談会」、あるいは「体脂肪の測定会」。これは2月ということもあるのですが、皆さんが食べ過ぎ、あるいは運動不足ということもあったのでしょ。そういうことで、この体脂肪測定会がですね大変長蛇の列ができて、お待たせをするくらい盛況ぶりであります。

塩竈 何かの形で、この調剤薬局さんとかのお世話になる時には、この薬剤師の方というのは、本当に丁寧にいろいろ説明していただいたりするんですけども、先ほど先生からもお話ありましたとおり、サプリメントとかこういった物っていうのも、今は周りにこう沢山ありますので、飲み合わせであったりとかその活用法というのもいろいろ学ばなければならないことっていうのは沢山ありそうですね。

小笠原 ありますね。はい。

塩竈 このほかにも、学校薬剤師としての活動というのがあるそうなんですが、これはどういったものなのでしょう。

小笠原 これは、薬剤師会の会員なんですが、市の教育委員会、あるいは県の教育委員会の委嘱を受けている薬剤師でございます。

塩竈 こういった取り組みがあるっていうことですね。このほかにもですね、この一関薬剤師会の方では、特に岩手県の県南にあるこの一関の町ということで、この地域に根差した活動というのも多く行っているというふうにお伺いしました。まずは、1つ目が自殺防止対策事業ということで、これはどういった内容でしょうか。

小笠原 これはですね、我々薬剤師が「ゲートキーパー養成講座」ということで、我々薬剤師

がゲートキーパーになって、自殺を防止するという事なんですが、我々も勉強しなければだめなものですから、県の方から専門家を呼んだり、病院の臨床心理士をですねお呼びして勉強会をします。その中で、我々調剤薬局で患者さんとお話する中で、眠れないとか、悩み事があるとかっていうことを良く聞いて、ひとりでも多くの命が救われれば良いなというふうと考えてやっているとこでございます。

塩竈 さらにですね、「脳卒中予防対策の研修会」こういったのも行われているということなのですが。

小笠原 これは、脳卒中というのはご存知の通り日本でワースト1、これが岩手県になりました。その中でもですね、この一関地方、奥州地方が1番ということなんです。岩手県の中でも。

塩竈 全国の中でも岩手県というのがワースト1、そのうち県南地域というのはより悪い数字というのが出ていると。

小笠原 そうなのですよ。特に、脳卒中と言うと、脳梗塞、あるいは脳出血、そしてくも膜下出血を言うんですが、今回保健所さんの主催でですね研修会を実施いたしました。これは、キャリアアップ研修会っていうことなんですけど、今年度は市民の皆さんも対象にしてを含めまして6回実施いたしました。今後、我々薬剤師会としては、特に降圧剤、血圧を下げる薬なんですけど、飲んでる患者さんを特に対象にしまして、この血圧上昇というのは、冬場が割と多いんですが、冬場お薬飲んでて、暖かくなると、血圧が正常値に戻るということで、やめる人がいるんですね。中止する方がいます。お医者さんの指示受けないで、中止する方がいるという方もいらっしゃると思いますので、服薬指導の中でしっかりとこれを指導していかなければならないだろうというふうを考えております。

塩竈 なるほど。同じ薬を飲むという習慣でも、地域によってですとか、それから環境とかいろんなものによって飲まれ方っていうのが違う訳ですから、地域の特性を見極めていくっていう

のがとても大事なんですね。

小笠原 そうですね。

塩竈 この様に、地域に根差して、脳卒中の予防対策、さらには、先ほどお話をうかがいました、自殺防止対策などの取り組みもされています。さて、今日はスタジオにお越しいただいています一関薬剤師会の小笠原会長なんですけれども、小笠原さん、先ほどねお話の中で「お薬手帳」という言葉が出てきました。私も最近、調剤薬局さんに出かけたりとかする機会がありまして、その自分のお薬手帳っていうのはしっかりと管理していかなければいけないと身に染みて思ったんですけれども。この大切さについて、今日はお伺いしていきたいと思います。

小笠原 まず、お薬手帳というのは、例えば複数の医療機関にかかっている方なんですけど、その中で併用薬の確認ができるということ。そして、飲み合わせですね。これも、相互作用が防止できるということ。また、重複投与の防止ということで、商品名が違っててもですね、同じ成分の含有している薬も多いわけでございます。皆さんもご存じの通り、ジェネリック医薬品というのが多く出回ってますので、そういうこともしっかりと重複投与の防止ができるということが言えると思います。またですね、一番分かりやすいのでは、例えば救急車で病院に運ばれた際にですね「何をその患者さんが飲んでるか」というのを確認できることということで、病院の先生方それで大変助かっているという声を聞いております。

塩竈 お薬でも、やっぱり飲み合わせであったりとか、使い合わせによっては、やはり良い効果だけでなくって、怖い効果が出てしまったりするものもあるわけですね。こういうのを防ぐために、自分自身のそのデータというのをしっかりとそこに記録しておく。そのツールとしては、このお薬手帳本当大事なんですね。

小笠原 そうですね。特にお願いしたいことなのですが、複数の医療機関に通っている患者さんですね、医療機関ごとに手帳をお持ちの方がいらっしゃるんですよ。そうすると、併用薬

が全然分からないということが。

塩竈 この病院に行った時には、このお薬手帳で、次の病院に行ったらこっちの手帳でってなると。

小笠原 それは、絶対にやめていただきたい。

塩竈 ひとつの手帳の中で一元的に管理していくということがすごい大事ということなんです。

小笠原 そうですね。

塩竈 聞いていらっしゃる方の中で、お薬手帳、そういえば持っている方ももちろん多いかと思いますが、あらためてその使い方もしっかりと心がけていただきたいと思います。ご自身のお薬手帳ですけれども、家族の皆さんにも、すぐにどこにあったかな分かるように伝えておくのも大事ですね。

小笠原 そうですね。それも、しっかりやっていただきたいと思います。

塩竈 さて、この他なんですけれども、こういったお薬手帳を持って病院に出掛けるというですねこういった体力がある方っていうのは勿論なんですけれども、ご自宅で療養されている方、在宅されてる方々もいるわけですね。こういった方々への服薬の管理というのもこの薬剤師会の方では取り組むということなんです。

小笠原 特に、我々薬剤師の行う「在宅患者訪問薬剤管理指導」なんですけど、これはですね、お医者さんからの指示と患者さん、あるいはその家族の方の同意に基づいて、この在宅を開始するということになる訳です。患者さんの状態に適した調剤ということなんですけど、医師の指示、または医師との相談のうえで、例えば、在宅の方で、錠剤カプセルを飲めない方、あるいは、朝、昼、夕と飲むんですが、数が多いために、バラバラに飲んでいる方もいらっしゃると思うんです。その時に、錠剤カプセルを粉砕にして、あるいは一包化にしてあげるというようなことをやっています。当然調剤した後にです

ね自宅までお届けする。後は、お届けした際に
ですね、薬の使用法とか、保管の方法などに
関してですね情報提供するということですね。
同時に、患者さんの状態、あるいは飲み忘れ、
薬を在宅でやっている方で、飲み忘れて残薬が
沢山あるというようなことの確認をいたします。
その中で、有効性や副作用の有無などの判断を
して、問題があればお医者さんへの報告を行う
ということになります。

塩竈 それぞれのその立場でこの医療機関で
あったりとか利用される方、また介護施設であ
ったりとかそういった役割というのがある訳で
すけれども、一関薬剤師会さんの中でもそのサ
イクルの中でね、様々な取り組みをしていると
いうことが今日分かりました。さて、小笠原先
生、これまで出ていただいた先生の中もお話
しが出てくるんですけども、やはり、そのかか
りつけと言いますかね、古くからやっぱり顔馴
染みであるお医者さんであったりとか、こうい
ったものっていうのはすごく大事なというふう
に思ったんですけども、今日、お話聞いて
くるところこういった調剤薬局さんであったりとか、
こういった薬剤師さんでもこういった顔馴染み
の方と言いますか、かかりつけの方をつくる
というのは本当に大事ですね。

小笠原 そうですね。しっかりとこの辺は同じ
病院を受診なさった時にはですね、いつもの行
っている薬局さんですね調剤をすることが一
番大事です。そして、知り合いになっていると
色々な情報が患者さんの状況が分かりますので、
そういうふうな形でやっていただければと思い
ます。

塩竈 先ほどの飲みやすさについてもね、いろ
いろ工夫されたりとか、それから組み合わせで
あったりというところもいろんな相談に応じたり
という話がありましたけれども、より長い
お付き合いになってきますとね、そういったと
ころも大変分かりやすく意思疎通ができるのか
なというのを感じたりしました。お話しの中
では、とても大事なポイントが沢山ありま
したけれども、特にもそのお薬手帳の管理とい
うのは本当に大事なところ感じましたので、

皆さんもあらためて心掛けていただければと思
います。では、小笠原先生から最後にラジオを
聞いている皆さんに一言、お願いいたします。

小笠原 はい。我々薬剤師会がですね「笑顔」
で患者さんにとっての最初の薬だと思います。
故郷の地域医療を支えていくことが、私達薬剤
師の仕事。患者さんに信頼していただける薬剤
師を目指して、患者さんの立場に立ってですね
相談、サービスを心がけていきたいと思いま
す。

塩竈 今日は、スタジオに一関薬剤師会の小笠
原慈夫会長にお越しいただきまして、お話を伺
いました。小笠原先生、ありがとうございました。

小笠原 ありがとうございました。



第 ⑨ 号

平成 26 年 4 月 7 日
岩手県長寿社会課

「顔の見える関係づくり」に取り組む 「医療と介護の連携連絡会」(一関市) の巻

一関市では、**県地域医療・介護連携モデル推進事業**の指定を受け、「医療と介護の連携連絡会」主催による医療・介護従事者のための研修会、市民フォーラムなど様々な事業が行われています。今回は、**医療従事者と介護従事者が連携し、地域の高齢者に円滑にサービスを提供する仕組みづくり**の一端取材しました。

今回のおはなし

「医療と介護の連携連絡会の取組」

一関市保健福祉部健康づくり課地域医療推進係
主任主事 千葉 健一 さん
(一関市医療と介護の連携連絡会 事務局)



一関市の概要

一関市は平成 17 年、23 年の合併により、県内第 2 位の人口・面積を有する県南の中東北の拠点を目指す都市です。

また、高齢化社会を見据え、高齢者ができる限り住み慣れた地域で自分らしい生活を送るために、医療、介護、住まい、生活支援、介護予防が日常生活の中で適切に提供されるよう「地域包括ケアシステムの構築」を目指しており、特に医療・介護の連携推進に努めています。

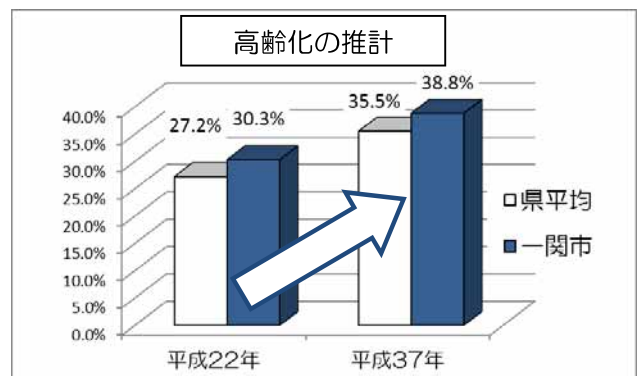
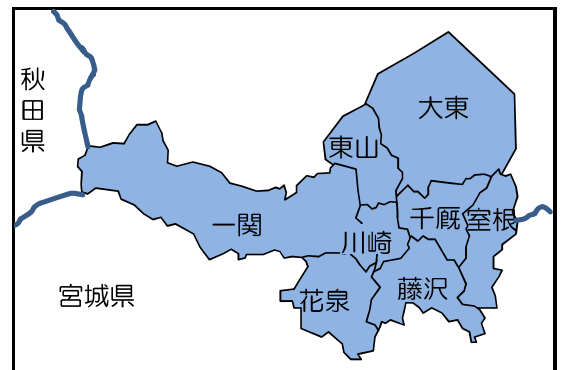
- 人口 126,589 人
- 65 歳以上人口(高齢化率) 39,034 人(30.8%)
※ 県平均(27.2%)
- 要支援・要介護者数(認定率) 8,094 人(20.7%)
- 日常生活圏域 9 圏域
(一関 1、一関 2、花泉、大東、千厩、東山、室根、川崎、藤沢)

■地域包括支援センター数

6 か所(一関西部、さくらまち、はないずみ、一関東部、しぶたみ、ふじさわ)

ランチ数 18

※ 9 日常生活圏域を 6 地域包括支援センターで担当
(以上平成 25 年 4 月 1 日現在)



一関市の地域・医療介護連携モデル推進事業の取組経過

地域医療・介護連携モデル推進事業指定の背景としては、

- 宮城県北地域も含めた両磐圏域での連携の必要性
- 県立、公立、民間病院が地域内各地に配置され、医療連携の必要性
- 藤沢病院を中心とした「地域包括ケアシステム」の取組を契機とし、市全体に「医療と介護」連携の意識が波及していた

という3つの要因があります。

また、東日本大震災による被災者支援を通じ、医療と介護の連携の重要性が強く意識されるようになったことが、大きな理由としてあげられます。

まず初年度の取組として、「医療と介護の連携に関するアンケート調査」（平成23年10月～11月）を実施し、地域における現状や課題を明らかにしました。

ケアマネジャーとかかりつけ医双方が「概ね連携がとれている」と感じている一方で「連携が図れていないと思ったことがある」という回答も多くありました。（↓下表）



医療と介護の連携に関するアンケート調査

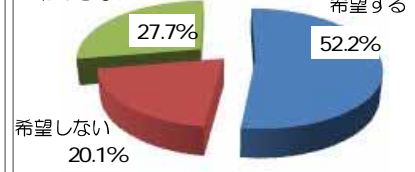
ケアマネジャー：かかりつけ医と連携が図れないと思ったことがありますか？



かかりつけ医：ケアマネジャーと連携が図れないと思ったことがありますか？



住民：医師と介護職員がもっとお互い連携して治療や介護にあたることを希望しますか？



（ケアマネジャー97人、かかりつけ医58人、住民173人の回答）

このため、平成23年度末には医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、医療機関、ケアマネ事業所、地域包括支援センター、振興局及び保健所、一関地区広域行政組合（保険者）等により構成される「一関市医療と介護の連携連絡会」（事務局：一関市健康づくり課）を設立し、医療と介護の連携に努めるとともに、25年度からは平泉町も含め取組を更に強化しています。

「一関市医療と介護の連携連絡会」の最も重要な役割は、医療と介護の円滑な連携のための研修会等を通じた「顔の見える関係づくり」であり、こうした円滑な連携体制を構築することにより利用者の方々、地域住民の皆さんにより良いサービスが提供できるものと考えています。



※活動の詳細は <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/8,44639,56,h,tm> | を参照

～研修会を通じた医療と介護の「顔の見える関係づくり」～

一関市医療と介護の連携連絡会研修会

レポート

日時：平成26年3月1日（土）13時30分～16時40分

場所：一関市東山地域交流センター



この日は、今年度6回目となる研修会で、「在宅・施設での口腔ケアについて」をテーマに講義とグループワークが行われ、市内の医療・福祉関係者40人が参加し、活発な意見交換が行われました。

1 講義「在宅・施設での口腔ケアについて」

講師 一関歯科医師会会長（連携連絡会幹事）

久保田 文吾先生

研修会の前半では一関歯科医師会会長の久保田先生から高齢者の口腔ケアについてわかりやすい講義がありました。



高齢になると歯は・・・

■歯の数が減少（平均 75-79歳 15.6本→85歳以上 8.4本）

■嚥下能力の低下

■高齢者の虫歯の特徴

根面カリエス（歯茎が下がり、象牙質がむき出しとなり虫歯の進行が早い）

歯周病（歯組織周辺の疾患の総称）

かみ合わせの変化、口の乾燥 などの特徴があります。



唾液の役割について

特に口の乾燥を防ぐ唾液の役割は重要であり、

■消化酵素（唾液アミラーゼ）による消化促進

■口腔組織運動の際の潤滑油としての役割

■抗菌作用

■緩衝作用

■再石灰化作用 など様々な機能があります。

高齢者の口腔ケア

口腔内状態の評価（アセスメント）を行いながら口腔ケアを進めます。

口腔ケアのコツとして、マッサージにより舌や唾液腺を刺激し、唾液腺の分泌を促すことが効果的です。

また、一関市が寝たきりの高齢者の方を対象に行う「家庭訪問歯科診療」の活用の呼びかけがありました。



2 グループワーク・発表

久保田先生の講義の後、日常の施設や事業所、居宅での高齢者の口腔ケアについての気づき、疑問点、対応方法、意見などの情報交換が行われました。

研修会のグループワークはブレインストーミングとKJ法によって進められています。



①様々な意見をカードに記載



②関連のある意見をグループ化



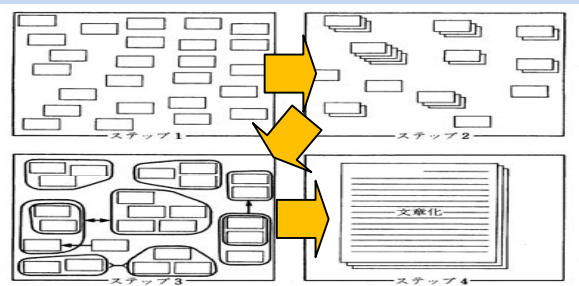
④各班から意見、情報交換の内容が発表され、質疑応答など活発な意見が・・・。

ブレインストーミングのルール

- 1 人の発言を一切否定しない
- 2 自由奔放、非現実的（夢物語）発言を大歓迎
- 3 量より質を求める
- 4 他人のアイデアに便乗する

KJ法

- ①テーマの思いつく情報を出しポストイットに記入
- ②関連するカードをグループ化
- ③グループにタイトルを付け、配置を整え図解化
- ④文章化、新たなアイデアを出す



③グループ化したテーマに対し、様々な情報、意見が！



グループワークでの主な意見

医師、施設・居宅事業所、養護老人ホーム等様々な立場の参加者が意見交換をしました。



課題（疑問点、苦慮している点など）

- 認知症高齢者、嚥下機能の低下した高齢者の口腔ケアのむずかしさ。
- 口を開けっ放しにしている方への乾燥対策。
- 入所・通所サービス事業所への訪問診療に対し居宅への訪問診療は提供困難。
- 嚥下困難者に対する吸痰対応できる職員は少数である。
- 限られた職員で大勢の利用者口腔ケアを行うことは困難である。

情報交換（改善策・具体的内容など）の内容

- 一関市健口！歯ッピー塾、施設・事業所での訪問診療の対応事例。
- 口腔低癌の患者さんに対し、歯科衛生士と連携することにより対応できたこと。
- 義歯が壊れてしまった在宅高齢者に対し、訪問診療で対応できたこと。
- 口を開けっ放しにしている方についても定期的に口腔ケア（ブラッシングなど）を行うことが大切（久保田 Dr）

まとめ（大切だと思うこと）

- 日常的な口腔体操や予防のケアが大切！
- 歯科医・歯科衛生士との連携体制を確立しましょう！
- 一関市の訪問歯科診療を利用しましょう！

なお、今回の研修会では、千厩地域で介護と連携した在宅医療に積極的に取り組んでおられる谷藤内科医院の谷藤院長が参加し、意見交換や質疑でもリードしていただきました。

参加者の皆さんは共通の悩みを持った者同士であり、グループワークのディスカッションが進むにつれてかなり打ち解けた様子でした。

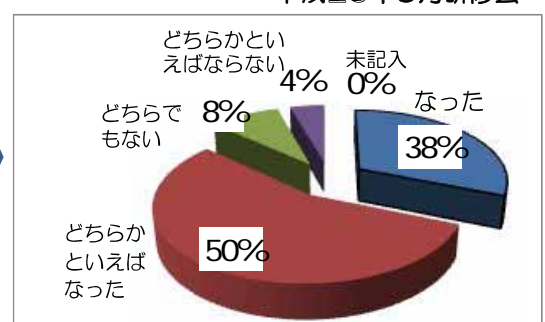
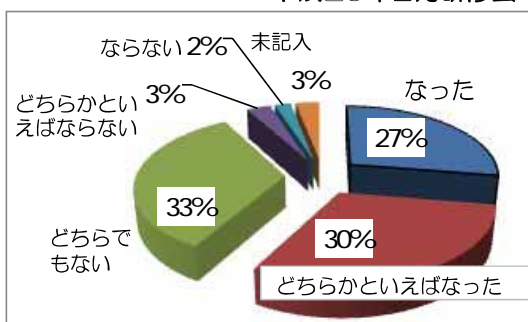
研修会での意見や情報交換を通じ、**医療従事者と介護従事者の顔の見える関係づくり**を今後とも進めていきます！

継続していくことが大切！

「よい連携」を作る上でこの研修会は良い機会となりましたか？（参加者アンケート）

平成25年2月研修会

平成26年3月研修会



インタビュー

「一関市医療と介護の連携連絡会」において、医療と介護の連携体制づくりに御尽力されている、幹事長の長澤 茂先生（一関市医師会顧問）にインタビューしました。

大変優しそうなお人柄で、静かな口調で語っていただきました。その言葉の中から、地域住民のための医療と介護の連携への熱い思いが伝わってきました。



まず、この両磐圏域で医療・介護連携に取り組まれるきっかけを教えてください。



県立磐井病院附属花泉地域診療センターが、採算性を理由に国の政策で無床化を余儀なくされたとき、花泉の人達の地域医療をどう守るかという大きな問題がありました。一関は宮城県、秋田県に隣接しており、広域で存在する多くの医療機関が助け合い、花泉の人達を医療と介護の連携で支えようという体制が背景にあり、連携に取り組むこととなりました。



連絡会がスタートした平成 23 年度当時、医師会、介護関係者の皆さんの反応はいかがでしたか？



花泉の件もあり、圏域全体の医療と介護で地域の方達を支えようという機運が既に高まっていたので皆さん、非常に協力的でした。

ただ、当時はまだ医療と介護の連携がどうあるべきかまでは深く考えていなく、実際に他の圏域の情報を把握していないのが実態で、漠然と風通しを良くしなければと思っていました。

2011 年の東日本大震災で、一関市医師会は県立高田病院と宮城県気仙沼病院を連携して応援するなど、関係者が一層助け合うという気持ちになりました。



平成 23 年度から連絡会の活動を続けてこれ、関係者（参加者）の方の意識が変わったと感じることはありますか？



一番大きなことは、医師会が在宅医療を推進する委員会を立ち上げたことです。

次に、連絡会設立時に他の医師に協力を依頼した結果、6人の医師からなるチーム「いわい西」という機能強化型の在宅療養支援診療所（※）が昨年できたことも大きな動きです。歯科医師会、薬剤師会の皆さんとも連携がとれるようになり、私たちが訪問診療を行う際に「口腔ケア」に着目するようになりました。歯科医師会の皆さんも対応し、活動していただいています。

※在宅医療を希望する患者をチームの医師がかりつけ医となり、症状に応じた訪問診療を実施。専門分野を活かした訪問診療が可能。



水彩画「中津川上流」（長澤 茂）



医療・介護連携という点では一関市は先進地であると思いますが、何か課題として感じているところはありますか？



私たち医師がかなり連携できたと思っても、例えば介護従事者の方はまだ、壁があると感じる方もいるかもしれません。日頃から申ししておりますが「**顔の見える関係づくり**」を地道に続けていくことが大切だと思います。



一関市は、面積が広大で人口密度が低いなど、在宅医療を推進する上で難しい点があると思われませんか？



一関市は8市町村が合併した非常に広域にわたる市です。医療環境という観点では人口10万人あたりの医師数が全国平均206.3人に対し、一関市は約170人、一関西部地域は200人を少し超え、医療環境は恵まれています。ただ、東部は100人に満たないなど非常に格差があるという難しい状態です。ただ、そのような地域でも在宅医療に着手していただける医師が少しずつ出てきており、改善されていくと思います。



取組が遅れている地域もまだまだありますが、そのような地域に向けてメッセージやアドバイスがあればお願いします。



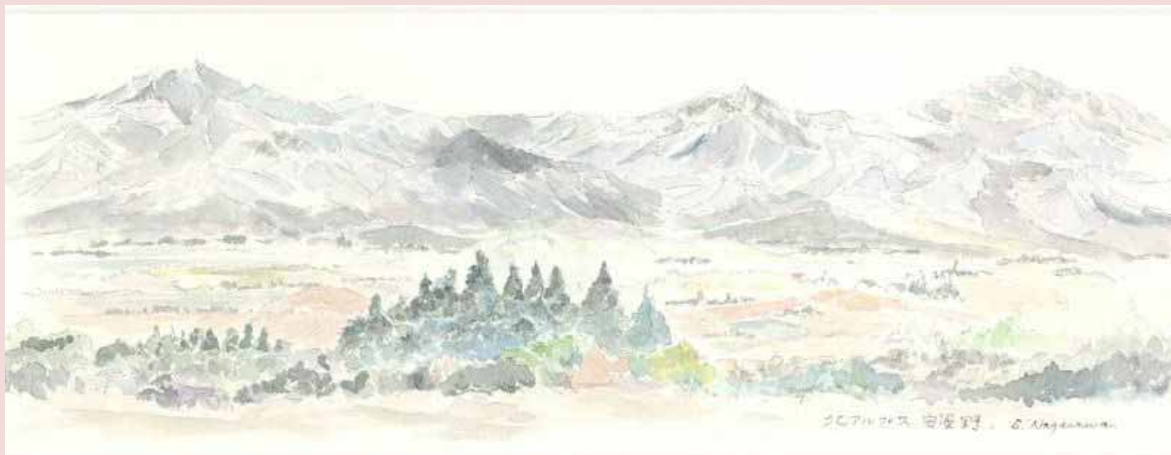
日本医師会は在宅医療を推進しています。しかし、中には病院で患者対応に追われ、手が回らない医師もいると思います。多くの医師が自分のあるべき姿で一生懸命医療に従事しているのであれば、一律には進みません。ましてや岩手県33市町村のうち22市町村が過疎（みなし、一部過疎を含む。）です。東京のような大都会とは異なり、その地域にふさわしい医療・介護連携のあり方があると思います。過疎、少子高齢化、人口減少、一人世帯の増加など**市町村がそれぞれもつ環境に適応した方法で知恵を出し合っていくことが大切**ではないでしょうか。岩手版の、一関版の、市町村ごとの医療と介護の連携があってしかるべきと思います。



最後に、連絡会の活動を通してこれからの抱負をお聞かせください。



私たちは一生懸命活動していますが、最後に評価してくださるのは住民の皆さんです。そのことを非常に大切に、活動の内容を広報し、**住民の皆さんが安心して相談していただけるような地域**にしたいと思います。



水彩画「北アルプス 安曇野」(長澤 茂)

取材を終えて・・・

一関市では、今回特集したような医療と介護をつなぐ研修会を、これまで数回にわたり開催し、好評を得ているところです。今回の研修テーマである「口腔ケア」は、施設・在宅を問わず、お年寄りが快適に暮らし続けていくためには重要なことです。しかしながら、介護予防などでは、運動訓練などの影に隠れがちであったように思います。このような研修により、「命の入口」であるお口の健康について、関係者の認識がより深まるといいですね。

若いうちは「普通に歯があって、食べられること」への感動が薄く、歯のメンテがおざなりになりがちなので、今回の研修スライドにあったような「悲惨なお口」にならないよう、気を付けたいと思います。

最近では、各地でKJ法によるグループワークを目にする機会が多くなりました。参加される方々の真剣な表情と、堅苦しくない雰囲気づくりにはいつも感心させられます。中には、即興でバイキンマンの絵を描く方もいるなど、ゆるい感じに心が和みました。

本当の連携は、この先が勝負！単なる「前に会議で見かけた人」で終わるか、その後の業務に関する相談や助言を通じ、貴重な「ビジネスパートナー」になるかは、皆さん次第ですよ。連携に「奥ゆかしさ」は不要。せっかくの機会はどんどん活かしましょう。

(なんでも取材班「ふ」)

介護の現場で、介護従事者からよく聞かれる言葉が「医師との敷居の高さ」です。

病院事業を行う医療機関は、住民のために地域医療を担う一方で、当然、事業の採算性も求められています。診療報酬の加算などを算定するために、評価の実施やカンファレンスを開催するなど、医師は多忙を極めます。また、介護保険でも主治医は、要介護認定の「意見書」を作成するという介護保険事業の根幹に深く関わっています。

私が常に思っていたことは、医療と介護に重要な役割を担う医師の理解が深まれば、自然とその地域の医療と介護が連携するであろうし、その逆もしかりであるということです。

今回の取材では、長澤先生から医療・介護の連携を地域で根付かせようという熱い思いが感じられました。研修会でも、講演を行った久保田先生や、グループワークに参加しリードしていただいた谷藤先生も、自らが問題提起や意見交換を行い、積極的に介護従事者との関係づくりに努めておられる様子がひしひしと伝わってきました。

一関市の取組は、連携連絡会の研修会を何度も重ね、医師だけの力ではなく、「顔の見える関係づくり」を地域全体に根付かせることが目的です。

もちろん、研修会で知識を深めることは大切ですが、もっと大切なのは医療従事者と介護従事者が共に考え、意見を出し合う場を経験することで良い関係が生まれ、普段の業務が円滑に進められることです。それが結果的により良い住民サービスにもつながります。

わかっている、なかなか実践していくことは難しいですね。これからも一関市の取組に注目したいと思います。

(なんでも取材班「お」)

「ちいきで包む」は、岩手県内市町村の地域包括ケアシステム構築をアシストするため、各地の特色ある取組や、関係する情報を発信する情報紙です。

企画・発行（問合せ先）

岩手県保健福祉部長寿社会課（本号担当：岡本・藤原）平成 26 年 4 月 7 日発行

TEL: 019-629-5432 FAX 019-629-5439 E mail: AD0005@pref.iwate.jp

平成26年度一関市医療と介護の連携連絡会事業計画（案）

1 研修会の開催について

医療と介護の連携に関する課題解決のための方策や具体的事例の検討、医療従事者と介護従事者が相互に必要な知識・技術の習得などを通じ、医療と介護の円滑な連携を深め、地域住民への医療・介護サービスの適切な提供のため、6回の研修会を実施する。

2 幹事会の開催について

一関市の医療と介護の連携連絡会の所掌事務のため、6回の幹事会を開催する。

3 研修等の実施について

幹事の知識・技術の向上のため、以下の研修等を実施する。

- ・先進地視察研修
- ・中央研修
- ・東北7県医療連携実務者協議会

4 地域医療・地域介護等の資源調査について

地域の医療体制や介護施設等の数値化・視覚化を図り地域住民へ情報提供を行う。

5 医療と介護の連携マニュアル作成

介護支援専門員等支援計画作成者（以下「ケアマネジャー等」という。）と医師・歯科医師・薬剤師とが連携し互いの情報交換を円滑に行うことにより、在宅の要支援・要介護状態の利用者の支援を効果的に行うことを目的に、統一した情報交換の書式「連携シート」を作成し、関係者が共通の理解のもとにこれを使用する。

6 各種啓発活動

市民への医療・介護の啓発活動の一環として

- ・広報いちのせき「1-Style」全域版への「医療と介護の窓 ～みんなで守ろう地域医療～」の掲載。
- ・FMあすもによる「医療と介護の窓 ～みんなで育てよう地域医療～」の放送。
- ・一関市ホームページによる「一関市医療と介護の連携連絡会について」の掲載。
- ・メーリングリスト等による医療関係者・介護関係者・行政等への情報発信。

7 その他

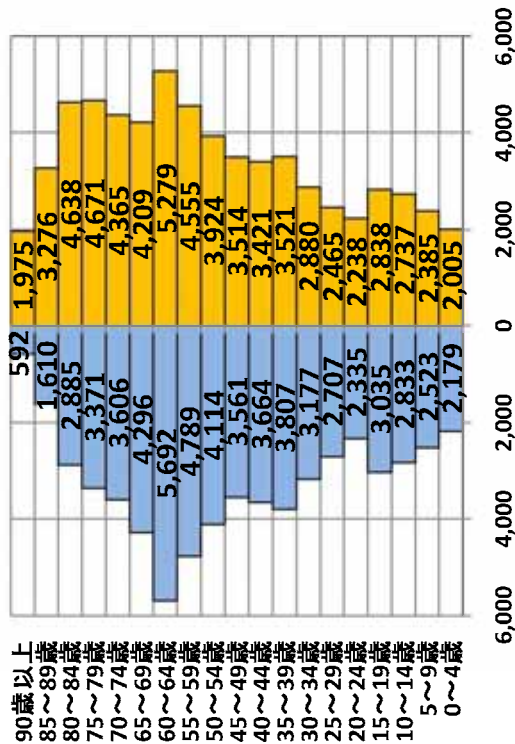
連絡会の目的を達成するために必要な活動を行うこと。

平成26年度 一関市医療と介護の連携連絡会年間行事予定表（案）

	会 議 等	内 容
4月	一関市医療と介護の連携連絡会 第1回幹事会	平成25年度事業報告について 平成26年度事業計画について 第1回研修会について
5月	第1回研修会	
6月	第2回幹事会	第2回研修会について 先進地視察研修について
7月	第2回研修会	
8月	第3回幹事会 先進地視察研修	第3回研修会について 東北7県医療連携実務者協議会について
9月	第3回研修会	
10月	第4回幹事会 東北7県医療連携実務者協議会	第4回研修会について 第5回研修会について
11月	第4回研修会	
12月	第5回幹事会 第5回研修会	第6回研修会について
1月		
2月	第6回研修会	現地研修（病院・介護施設）
3月	第6回幹事会	平成26年度事業結果について 平成27年度事業計画について その他

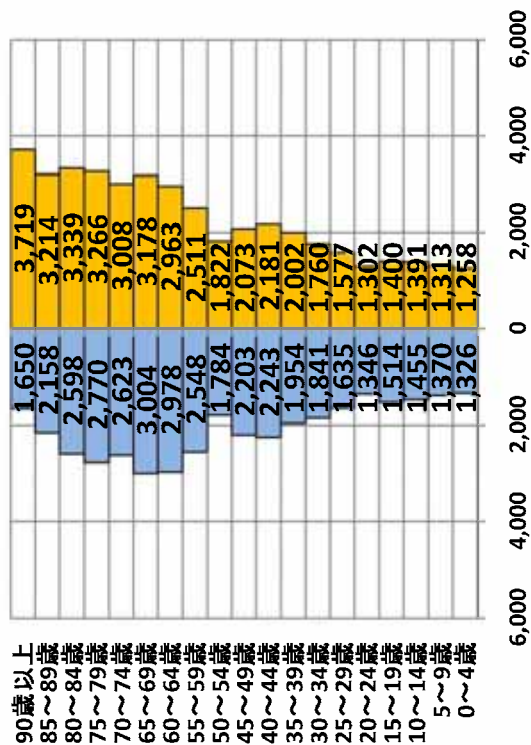
一関市の概要

平成26年2月28日現在



男性 60,776人
女性 64,896人
合計 125,672人
高齢化率 31.4%

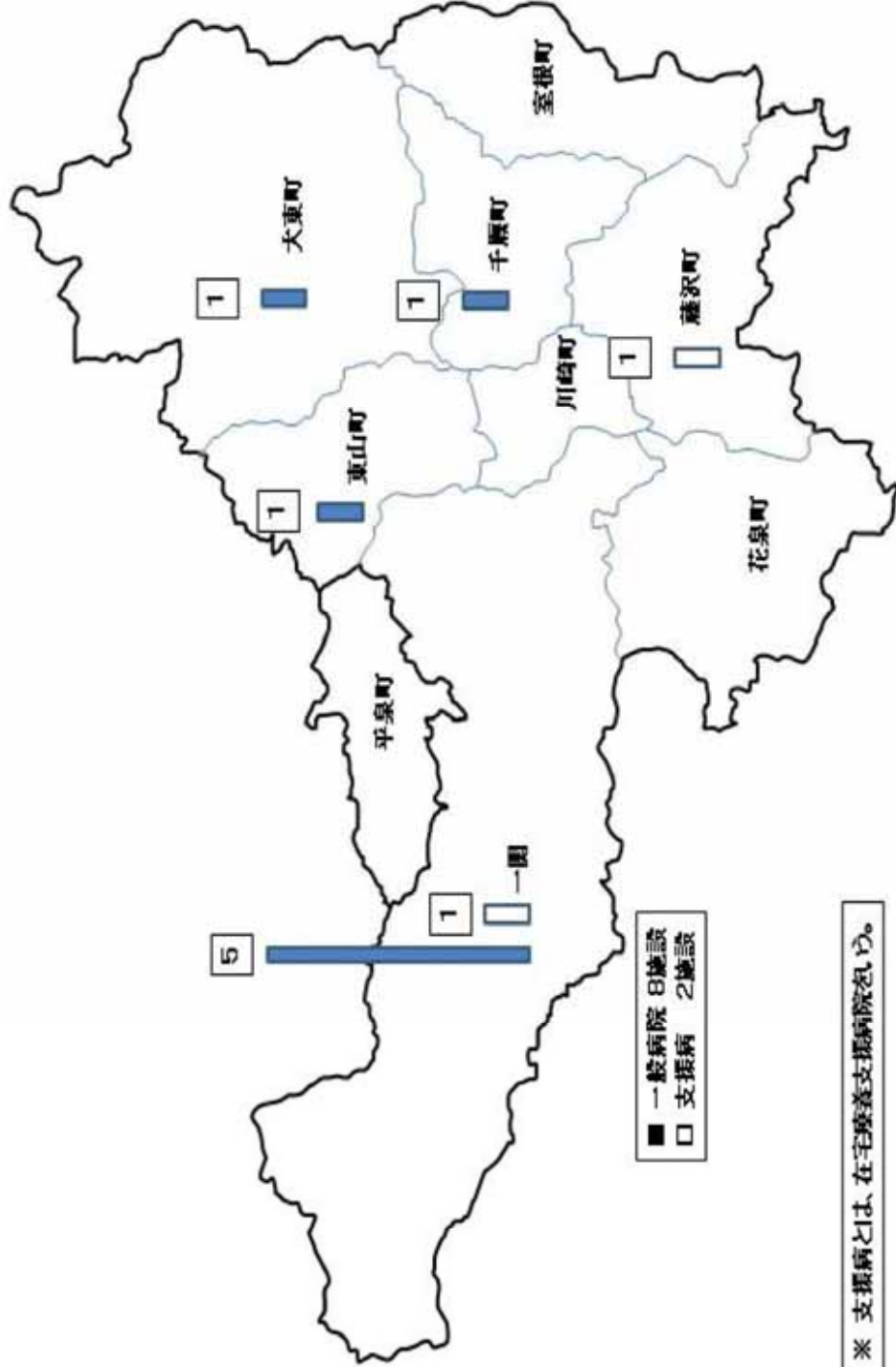
平成52年



男性 39,000人
女性 43,277人
合計 82,277人
高齢化率 42.0%

一関市の概要

病院の設置状況



※ 支援病とは、在宅療養支援病院をいふ。

生活情報共有シート

(情報提供日) 平成 年 月 日

(送付先) 医療機関〔医師〕名

(送付元) 記入者氏名

利用者情報		情報提供事業者等	
氏名		名称	
生年月日		所在地	資料No.7
住所			
連絡先		電話番号	
障がい者手帳	有(等級など)・無	FAX番号	
	障がい名	担当ケアマネ氏名	
家族等			
氏名	①	②	
住所			
電話			
関係			
医療情報			
既往歴	感染症 無 ・ あり ()		
病名			
# 1		# 4	
# 2		# 5	
# 3		# 6	
かかりつけ医に関する情報	医療機関名	通院回数(月/週 回)	予約(無・有⇒日時)
かかりつけ歯科医に関する情報	医療機関名	通院回数(月/週 回)	予約(無・有⇒日時)
他に受診している医療機関	医療機関名	通院回数(月/週 回)	予約(無・有⇒日時)
訪問看護に関する情報	機関名	通院回数(月/週 回)	予約(無・有⇒日時)
内服薬の情報	投与禁忌薬剤。お薬手帳添付。		
介護情報			
認定情報	要支援 1 ・ 2 要介護 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	介護者の 状況	問題なし 日中独居 要援助
生活歴		サービス 利用状況	訪問診療 訪問介護 訪問看護 訪問リハ 通所介護 通所リハ 短期入所
生活情報			
移動	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助	排泄排便	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助
入浴	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助		人工肛門・膀胱瘻・留置カテーテル
着替え	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助	食事	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助
整容・口腔ケア	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助	経管栄養	経鼻 ・ 胃ろう ・ 腸ろう
服薬	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助	意思疎通	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助
睡眠	良眠 ・ 不眠 ・ 昼夜逆転 (服薬) 常用 ・ 時々 ・ 服薬無	問題行動	大声を出す ・ 不潔行為 ・ 徘徊 危険行為 ()

その他・追記事項

使用上の注意

本シート使用の際には、事前に、相手方と、シート使用の有無等の取扱いについて確認したうえで御使用くださるよう、留意願います。

退院情報提供シート (No. 1)

(情報提供日) 平成 年 月 日

<input type="checkbox"/> 情報提供先

<input type="checkbox"/> 医療機関名	[所属・情報提供者]
--------------------------------	------------

入院日	平成 年 月 日	主治医	
-----	----------	-----	--

利用者氏名		生年月日	M・T・S 年 月 日 (歳)
-------	--	------	------------------

住所	
----	--

連絡先	
-----	--

疾病の状態	特記事項 (医療的処置などの コメント記載)
<input type="checkbox"/> 主病名	
<input type="checkbox"/> 主症状	
<input type="checkbox"/> 既往歴	

- 意識障害 認知障害 (周辺症状 [BPSD] …夜間の状況等) 筋力低下 (上肢、下肢)
 知覚障害 (視覚 聴覚 皮膚の感覚 痛覚) 構音障害 失語症
 嚥下障害 浮腫 疼痛 拘縮 褥瘡

退院予定日	平成 年 月 日	退院後の医療機関名	
-------	----------	-----------	--

直近の バイタルサイン	
----------------	--

カンファレンス開催について	必要 ・ 不要 ・ その他 ()
---------------	-------------------

退院情報提供シート (No. 1 の続き)

	項 目	特 記 事 項
生 活 状 況	食 事	自立 ・ 一部介助 ・ 全介助
		カリ制限有 (cal) ・ 無
		常食 ・ 粥 ・ 刻み ・ ミキサー ・ ソフト食
	経管栄養	経鼻 ・ 胃ろう ・ 腸ろう
	摂取状況	多 ・ 普 ・ 少
	排 泄	自立 ・ 一部介助 ・ 介助
	整 容	自立 ・ 介助
	入 浴	自立 ・ 介助
	口腔ケア	自立 ・ 介助
	移 動	自立 ・ 一部介助 ・ 介助
		歩行 () ・ 杖歩行 ・ 歩行器 ・ 車椅子
		麻痺 有 ・ 無 ()
	睡 眠	良眠 ・ 不眠 ・ 昼夜逆転
		(服薬) 常用 ・ 時々 ・ 服薬無
	問題行動	大声を出す ・ 不潔行為 ・ 徘徊 危険行為 ()
服 薬	自立 ・ 見守り ・ 一部介助 ・ 全介助	
感染症	無 ・ あり ()	
※服薬している薬の種類、内容		

一関市医療と介護の連携連絡会開催要領

(目的)

第1 医療と介護の連携に関する課題解決のための方策や具体的事例の検討、医療従事者と介護従事者が相互に必要な知識・技術の習得などを通じ、医療と介護の円滑な連携を深め、地域住民への医療・介護サービスの適切な提供に努めることを目的とし、一関市医療と介護の連携連絡会（以下「連絡会」という。）を開催する。

(協議事項)

第2 連絡会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 医療と介護の連携に関する事項。
- (2) その他保健及び医療・介護に関する事項。

(組織)

第3 連絡会は、別表に定める機関で組織する。

2 市長は、必要があると認めるときは、連絡会に構成員以外の者の出席を求めることができる。

(会議)

第4 連絡会は、必要に応じて市長が招集する。

(幹事会)

第5 連絡会の具体的な活動内容の検討や構成機関間の連絡調整などを行うため、幹事会を設置する。

(庶務)

第6 連絡会の庶務は、健康づくり課において処理する。

(その他)

第7 この要領に定めるもののほか、連絡会の運営に関して必要な事項は、市長が別に定める。

附則

この要領は、平成24年2月10日から施行する。

附則

この要領は、平成24年8月8日から施行する。

附則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成25年6月18日から施行する。

別表 構成機関

一関市医師会
一関歯科医師会
一関薬剤師会
岩手県看護協会一関地区支部
岩手県立磐井病院
岩手県立千厩病院
一関市国民健康保険藤沢病院
岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター
一関在宅緩和支援ネットワーク（IZAK）
西部地域居宅介護支援事業所協議会
東部地域居宅介護支援事業所協議会
訪問看護事業所
一関市社会福祉協議会
両磐ブロック高齢者福祉協議会
一関保健所
県南広域振興局保健福祉環境部長寿社会課
一関地区広域行政組合
西部地域包括支援センター
東部地域包括支援センター
平泉町
一関市

幹事会規約

(設置)

第1 一関市の医療と介護の連携連絡会の所掌事務のため、幹事会を設置する。

(任務)

第2 幹事会は次に掲げる事項を行う。

- (1) 事例検討会、医療・介護知識の勉強会、医療・介護技術の勉強会。
- (2) その他医療と介護の連携に関する事項。

(組織)

第3 幹事会は、別表に定める機関からの推薦を受けた者をもって構成する。

(任期)

第4 幹事の任期は、2年とする、ただし、補欠幹事の任期は、前任者の在任期間とする。

(幹事長)

第5 幹事会に幹事長を置き、幹事が互選する。

2 幹事長は、会務を総理する。

3 幹事長に事故があるときは、あらかじめ幹事長が指名した幹事が、その職務を代理する。

(会議)

第6 幹事会は、幹事長が招集し、幹事長が議長となる。

2 会議は、原則として公開とする。

(補則)

第7 この規約に定めるもののほか、幹事会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則

この規約は、公布の日から施行する。

附則

この要領は、平成24年8月8日から施行する。

附則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成25年6月18日から施行する。

別表 構成機関

一関市医師会
一関歯科医師会
一関薬剤師会
岩手県看護協会一関地区支部
岩手県立磐井病院
岩手県立千厩病院
一関市国民健康保険藤沢病院
岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター
一関在宅緩和支援ネットワーク（IZAK）
西部地域居宅介護支援事業所協議会
東部地域居宅介護支援事業所協議会
訪問看護事業所
一関市社会福祉協議会
両磐ブロック高齢者福祉協議会
一関保健所
県南広域振興局保健福祉環境部長寿社会課
一関地区広域行政組合
西部地域包括支援センター
東部地域包括支援センター
平泉町
一関市

具体的な活動内容

1 内 容

幹事会（事例検討会、医療・介護知識の勉強会、医療・介護技術の勉強会）を組織し、定期的活動を実施する。

（1）事例検討会の実施

【事例検討会の内容の例】

- ・医療側と介護側の連携の在り方の認識の違いを知る
- ・患者の退院支援過程について
- ・ケアマネジャーが病院関係者から言われたことで凹んでしまった事例を考える

（2）医療・介護知識の勉強会の実施

【勉強会の内容の例】

- ・医療関係者に理解してほしい介護報酬の勉強会
- ・介護関係者に理解してほしい診療報酬の勉強会
- ・医療関係者に理解してほしい介護知識の勉強会
- ・介護関係者に理解してほしい医療知識の勉強会

（3）医療・介護技術の勉強会の実施

【勉強会の内容の例】

- ・たん吸引
- ・経管栄養
- ・酸素療法

2 医療と介護の連携連絡会構成機関

一関市医師会

一関歯科医師会

一関薬剤師会

岩手県看護協会一関地区支部

岩手県立磐井病院

岩手県立千厩病院

一関市国民健康保険藤沢病院

岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター

一関在宅緩和支援ネットワーク（IZAK）

西部地域居宅介護支援事業所協議会

東部地域居宅介護支援事業所協議会

訪問看護事業所

一関市社会福祉協議会

両磐ブロック高齢者福祉協議会

一関保健所

県南広域振興局保健福祉環境部長寿社会課
一関地区広域行政組合
西部地域包括支援センター
東部地域包括支援センター
平泉町
一関市

3 幹事会構成機関

下記機関からの推薦を受けた者をもって構成する。

一関市医師会
一関歯科医師会
一関薬剤師会
岩手県看護協会一関地区支部
岩手県立磐井病院
岩手県立千厩病院
一関市国民健康保険藤沢病院
岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター
一関在宅緩和支援ネットワーク（IZAK）
西部地域居宅介護支援事業所協議会
東部地域居宅介護支援事業所協議会
訪問看護事業所
一関市社会福祉協議会
両磐ブロック高齢者福祉協議会
一関保健所
県南広域振興局保健福祉環境部長寿社会課
一関地区広域行政組合
西部地域包括支援センター
東部地域包括支援センター
平泉町
一関市

4 参集範囲

病院関係者（医師・看護師・MSW・その他専門職）
地域包括支援センター
指定居宅介護支援事業所
訪問看護ステーション
社会福祉関係団体
行政機関
会の趣旨に賛同し、医療と介護の連携を考えてみたい方
ボランティア団体（医療・介護関係）

別紙 構成機関名簿

No.	機 関	郵便番号	住 所	電話番号
1	一関市医師会	021-0884	一関市大手町3番40号	0191-23-8811
2	一関歯科医師会	021-0884	一関市大手町3番40号	0191-21-1858
3	一関薬剤師会	021-0006	一関市上坊6番36号 かたくり薬局内	0191-31-1771
4	岩手県看護協会一関地区支部	029-0192	一関市狐禅寺字大平17番地 岩手県立南光病院内	0191-23-3655
5	岩手県立磐井病院	029-0192	一関市狐禅寺字大平17番地	0191-23-3452
6	岩手県立千厩病院	029-0803	一関市千厩町千厩字草井沢32-1	0191-53-2101
7	一関市国民健康保険藤沢病院	029-3405	一関市藤沢町藤沢字町裏52-2	0191-63-5211
8	岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター	029-3105	一関市花泉町涌津字上原31番地	0191-82-1231
9	一関在宅緩和支援ネットワーク (IZAK)	029-0192	一関市狐禅寺字大平17番地 岩手県立磐井病院内	0191-23-3452
10	一関西部地域居宅介護支援事業所協議会	029-3205	一関市花泉町涌津字悪法師38-31 花泉町在宅介護支援センター華松苑	0191-36-1061
11	一関東部地域居宅介護支援事業所協議会	029-3405	藤沢町藤沢字町裏52-2 藤沢町指定居宅介護支援事業所内	0191-63-2021
12	岩手県看護協会立千厩訪問看護ステーション	029-0803	一関市千厩町千厩字町浦32-2	0191-51-1366
13	一関市社会福祉協議会	021-0877	一関市城内1-36 一関市総合福祉センター内	0191-23-6020
14	両磐ブロック高齢者福祉協議会	029-0132	一関市滝沢字寺下2-1 特別養護老人ホーム明生園内	0191-23-0478
15	一関保健所	021-8503	一関市竹山町7番5号	0191-26-1415
16	県南広域振興局保健福祉環境部長寿社会課	023-0053	奥州市水沢区大手町5-5	0197-22-2850
17	一関地区広域行政組合	021-8501	一関市竹山町7-2	0191-21-2111
18	一関西部地域包括支援センター	021-8501	一関市竹山町7-2	0191-21-8618
19	一関東部地域包括支援センター	029-0803	一関市千厩町千厩字北方174	0191-51-3040
20	平泉町保健センター	029-4192	西磐井郡平泉町平泉字志羅山45-2	0191-46-5571